ISSN 0915－1613

年　報　21

２００４年度
（平成16年度）

２００５．１０

山梨県埋蔵文化財センター

年　報　21

２００４年度
（平成16年度）

２００５．１０

山梨県埋蔵文化財センター

序

本書は、2004年度に当センターが実施しました発掘調査及び試掘調査などの概要と、『遺跡調査発表会』や『山梨の遺跡展』などの普及事業の内容を報告するものであります。

記録保存のための発掘調査では７事業の開発工事に伴い、８箇所の遺跡調査を行いました。まず、「鰍沢河岸跡」は2000年から発掘調査に着手した事業で、今年度は北側にある河岸問屋街を４月より３ヶ月間調査し、南側にある口留番所跡比定地を３月に調査しました。４月の調査では道に埋設された木樋や竹樋が発見されました。竹樋は文政年間の鰍沢大火の折に埋められた焼け土を含む層の中からでてきており、埋め土内に近代以降の遺物がないことから幕末段階に構築されたものと思われます。南側の口留番所跡比定地では、３列の石垣と石垣西側の平坦面から礎石が確認されました。遺物の様子から幕末頃の建物と思われますが、平坦面の礎石の面よりも更に古い造成面が判明しています。富士河口湖町河口の「炭焼遺跡」では古墳時代から近世に至るまでの土器や陶磁器片が確認され、「塚越遺跡」では縄文時代・弥生時代・近世の遺構や遺物が確認され、縄文時代後期初頭の層からは柄鏡形敷石住居跡１軒がほぼ完全な形で検出されました。都留市の「玉川金山遺跡」では、山梨県内では発見例が少ない縄文時代早期の遺構が数多く確認され、奈良時代の竪穴住居跡からは竈と煙道が極めて良好な状態で検出されました。南アルプス市の「堤防遺跡№23」では、砂礫を積んだ後に法面に土を貼る典型的な砂礫堤であることが明らかになりました。山梨市の「足原田遺跡」では、古墳時代前期の土師器や古代末から中世にかけての土器や陶磁器など、3000点を超す遺物が出土しました。「小井川・小河原遺跡」では、調査区北部から江戸時代後期から大正時代までの墓地を確認しました。この場所にはかって慶昌院という寺院が存在しており、故人の生前を偲ぶ副葬品が数多く見られました。南アルプス市の「百々遺跡６」では畝状遺構等が確認され、百々遺跡全体の様相の解明が待たれるところです。

整備事業に伴う調査等は３件おこなわれました。「国指定史跡銚子塚古墳」は、平成17年度以降に行われる追加の保存整備事業を、より正確なものにするための基礎的な資料を得ることを目的としておこなわれましたが、「突出部」や「周溝区画堤」の発見や葬送等に関わる可能性の高い木製品類の発見など、数多くの新しい情報を得ることができました。「登録有形文化財勝沼堰堤」は、近代砂防施設としての勝沼堰堤を砂防学習の場として公園整備していくために調査をおこないました。堰堤の上にあったブドウ畑の砂を取り除き、大正年間に完成した勝沼堰堤の姿が再び現れました。「県指定史跡甲府城跡関連事業」は舞鶴城公園整備事業として1990年度から開始され、鍛冶曲輪門や稲荷櫓等の復元に連動した発掘調査をおこないましたが、2004年度は今までの15年間余りの発掘調査成果を整理し、報告書を刊行しました。

分布調査としましては、開発に先立つ試掘確認調査のほか、中世の社会や暮らしを明らかにするために遺跡としての中世寺院を保護・活用していくことを目的とした、山梨県内中世寺院分布調査を2004年度より５カ年計画で実施致しております。

また、資料普及事業では前年度と同様の出前支援授業や職場体験等に取り組んだほか、2004年度より実際に調査が行われている遺跡での発掘を体験する「遺跡体験発掘セミナー」や、学校教育現場の中でより積極的に考古資料を活用していただくことを目的に、教員を対象にした「文化財活用支援講座」を開催しました。

当センターは県内各地で発掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めてきました成果を、県民の皆様にさまざまな場でより積極的に活用していただけるようにしてまいりますので、これからも一層のご理解とご支援をいただきたく、宜しくお願い申し上げます。

2005年10月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　**渡　辺　　誠**

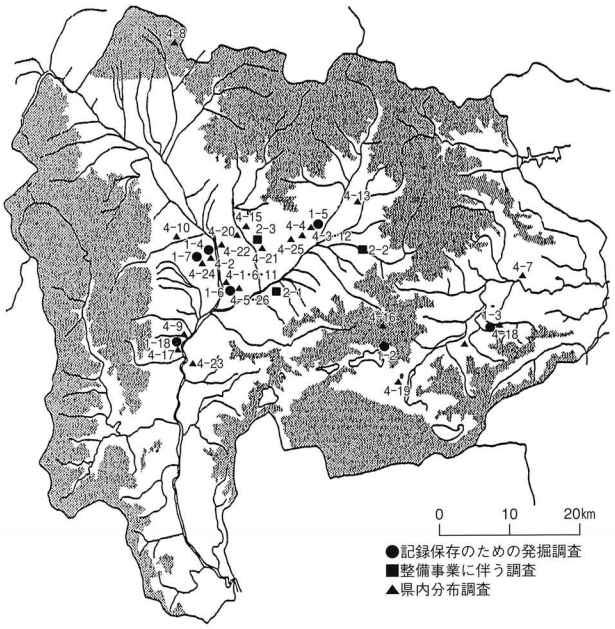
目　次

序文
例言・凡例

第Ⅰ章　2004年度の事業概要
1　発掘調査等…… 1
2　整理作業…… 1
3　資料普及事業…… 2
4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧…… 4
5　第17回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 …… 7
6　遺跡調査発表会…… 7
7　山梨の遺跡展2004 …… 8
8　埋文やまなし…… 8
9　デジタル化事業…… 9
10　所内研修 …… 9
11　発掘・整理作業標準化 …… 10
12　所内研究グループ …… 10
13　寄贈・購入図書 …… 10

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要
1　記録保存のための発掘調査
1－1　鰍沢河岸跡A…… 12
1－2　炭焼遺跡・塚越遺跡…… 14
1－3　玉川金山遺跡…… 16
1－4　釜無川堤防跡群（堤防遺跡№23）…… 18
1－5　足原田遺跡…… 20
1－6　小井川・小河原遺跡…… 22
1－7　百々遺跡6 …… 24
1－8　鰍沢河岸跡B（口留番所）…… 26
2　整備事業に伴う調査
2－1　国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳…… 28
2－2　登録有形文化財勝沼堰堤…… 30
2－3　県指定史跡甲府城跡関連事業…… 32
3　分布調査
3－1　山梨県内中世寺院分布調査…… 34
4　県内分布調査…… 36

第Ⅲ章　県内の概況
1　発掘調査…… 46
2　県指定文化財（考古資料）及び県指定史跡 …… 46
3　発掘調査の成果と保存整備事業…… 46
4　調査体制…… 47
山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移（グラフ）・2004年度発掘調査一覧表…… 48



2004年度　発掘調査遺跡位置図

凡　例

1．本書は、2004年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2．本書の編集は、猪股 一弘、田口 明子、鶴田 博が行った。

3．2004年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2005年３月末日現在で集計したものである。

4．第２章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の（　）内は、調査対象面積である。

5．左記の地図は、2004年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、１頁の発掘調査の表に対応している。

2004（平成16）年度　職員組織

所長	渡辺　誠
次長	山崎義雄
総務課長（兼）	山崎義雄
次長	末木　健
調査研究課長	坂本美夫
資料普及課長	八巻與志夫

総務課	
主査	塚脇亮一
副主査	今泉俊彦
主事	清水一華
業務員	久保川一三

調査研究課第１担当	
副主幹・文化財主事	保坂康夫
主任・文化財主事	田口明子
主任・文化財主事	鶴田　博
非常勤嘱託（４～６月）	一瀬一浩
非常勤嘱託（11月～）	上原健弥

調査研究課第２担当	
副主幹・文化財主事	小林広和
主査・文化財主事	猪股一弘
主任・文化財主事	笠原みゆき
文化財主事	網倉邦生

調査研究課第３担当	
主査・文化財主事	高野玄明
副主査・文化財主事	今福利恵
主任・文化財主事	輿石逸子
非常勤嘱託	正木季洋

資料普及課第１担当	
副主査・文化財主事	三田村美彦
主任・文化財主事	宮里　学
非常勤嘱託	西海真紀
非常勤嘱託	楠間美季江

資料普及課第２担当	
主査・文化財主事	山本茂樹
副主査・文化財主事	森原明廣
主任・文化財主事	小林孝子
臨時職員	森屋文子

資料普及課第３担当	
副主査・文化財主事	村石眞澄
主任・文化財主事	野代恵子
非常勤嘱託	須長愛子
臨時職員（７月～）	芦澤昌弘

第Ⅰ章　2004年度の事業概要

1．発掘調査等

2004年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

1）記録保存のための発掘調査

番号	遺　跡　名　他	番号	遺　跡　名　他
1－1	鰍沢河岸跡A	1－2	炭焼遺跡・塚越遺跡
1－3	玉川金山遺跡	1－4	釜無川堤防跡群（堤防遺跡№23）
1－5	足原田遺跡	1－6	小井川・小河原遺跡
1－7	百々遺跡6	1－8	鰍沢河岸跡B（口留番所跡）

2）整備事業に伴う調査

番号	遺　跡　名　他	番号	遺　跡　名　他
2－1	国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳	2－2	登録有形文化財勝沼堰堤
2－3	県指定史跡甲府城跡関連事業		

3）分布調査

番号	調　査　名　他
3－1	山梨県内中世寺院分布調査

4）県内分布調査

番号	遺　跡　名　他	番号	遺　跡　名　他
4－1	新山梨環状道路建設に伴う試掘調査	4－2	総合交通センター移設に伴う試掘調査（堤防遺跡№23）
4－3	西関東連絡道路建設に伴う試掘調査（上町田遺跡）	4－4	西関東連絡道路建設に伴う試掘調査（足原田遺跡）
4－5	新山梨環状道路建設事業に伴う試掘調査（平田宮第2遺跡）	4－6	新山梨環状道路建設事業に伴う試掘調査
4－7	桂川ウェルネスパーク建設に伴う試掘調査（宮ノ上1・2遺跡）	4－8	少年自然の家改修事業に伴う試掘調査
4－9	甲西道路改築に伴う試掘調査（鰍沢河岸跡C）	4－10	あけぼの養護学校改修事業に伴う試掘調査
4－11	新山梨環状道路建設事業に伴う試掘調査	4－12	西関東連絡道路建設事業に伴う試掘調査
4－13	塩山バイパス建設事業に伴う試掘調査（西畑B遺跡）	4－14	都留児童相談所建設事業に伴う試掘調査（四ノ側遺跡）
4－15	甲府地方裁判所長宿舎建設事業に伴う試掘調査（塩部遺跡）	4－16	河口湖バイパス建設事業に伴う試掘調査（疱橋遺跡）
4－17	甲西道路建設事業に伴う試掘調査（鰍沢河岸跡）	4－18	一般国道139号都留バイパス建設工事に伴う試掘調査（天正寺遺跡）
4－19	吉田高校校舎改築事業に伴う立会調査	4－20	甲府養護学校仮設寄宿舎借り上げ工事に伴う立会調査
4－21	甲府地方裁判所改築に伴う立会調査（甲府城下町遺跡）	4－22	国道20号線改良工事に伴う立会調査（片瀬塚古墳）
4－23	六郷町岩間一の坪地滑り対策事業に伴う立会調査	4－24	一般国道52号甲西道路歩道橋設置に伴う立会調査（百々遺跡）
4－25	国道140号外情報管路設置工事に伴う立会調査（畦作遺跡）	4－26	新山梨環状道路建設事業地内における下水道敷設工事に伴う立会調査（平田宮第2遺跡）

2．整理作業

2004年度の整理作業は、以下のとおりである。

1）基礎的整理作業

番号	遺　跡　名
1	炭焼遺跡・塚越遺跡
2	足原田遺跡Ⅱ
3	玉川金山遺跡
4	百々遺跡6
5	鰍沢河岸跡B（口留番所跡）

2）本格的整理作業

番号	遺　跡　名
1	鰍沢河岸跡A
2	足原田遺跡Ⅰ
3	国登録有形文化財　勝沼堰堤

3）報告書刊行一覧

番号	報　告　書　名
221集	原町農業高校前遺跡（第2次）
222集	県指定史跡　甲府城跡
223集	県指定史跡甲府城跡　平成16年度石垣改修工事調査報告書
224集	鰍沢河岸跡Ⅱ
225集	山梨県内分布調査報告書（平成16年）
226集	山梨県指定史跡　加牟那塚古墳
227集	釜無川堤防跡群（堤防遺跡№23）
228集	国指定史跡　銚子塚附丸山塚古墳
229集	小井川・小河原遺跡Ⅰ

3．資料普及事業

前年度と同様、県内の小中学校への「出前支援事業」、中学校の生徒を発掘作業や整理作業の現場に受け入れる「職場体験」、各種の研修会の場所で埋蔵文化財調査の成果を報告する「講師派遣」などについて取り組んだほか、今年度からはセンターが行う普及事業の一環として「遺跡発掘体験セミナー」を新たに設けた。

これらの普及事業の実施状況は下表のとおりであるが、「講師派遣」を除くとどれも体験型の内容であり、事業への参加者からは概ね好評を得ており、次年度に向けさらに充実強化していく必要が感じられるものとなっている。

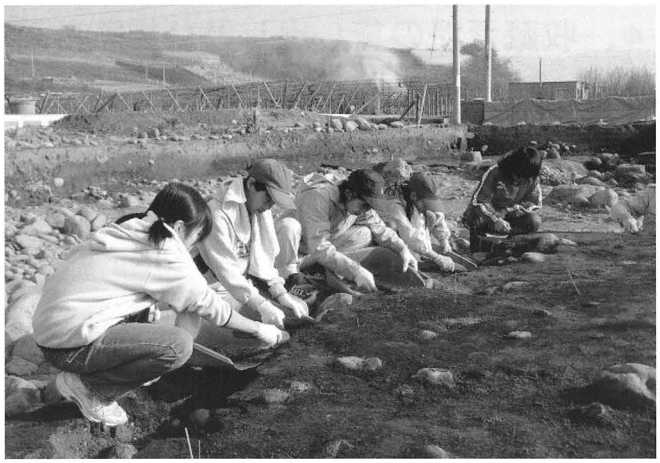
また出前支援については、職員の対応の限界もあって、現状以上の回数を進めるのはなかなか困難であり、そうしたなかで一層の体験学習を拡大するために、学校の教員を対象に研修を行い、講習の修了を持って、考古資料を自前で扱っていただくというねらいで、「文化財活用支援講座」を夏休み期間中に開催している。

平成16年度　資料普及事業実績一覧表

月	出前支援事業	対象人員	職場体験等	対象人員	遺跡発掘体験セミナー等	対象人員	講演会講師派遣	対象人員
4月								
5月	南ア市立白根西小 （6年生　土器づくり）	77名					県立塩山高校（1年生）	30名
6月	南部町立睦合小 （6年生　土器づくり）	41名	御坂町立御坂西小 （6年生　社会科見学）	64名			県退職公務員連盟甲府支部 （講演会）	100名
	上野原町立桐原中 （1・2年生　石器づくり）	25名	三珠町立大塚小 （6年生　社会科見学）	13名			甲府城ボランティアガイド （養成講座）	40名
	玉穂町立玉穂南小 （6年生　土器づくり）	33名	大月市立七保中 （2年生　職場体験）	1名			県立昭和高校（講演会）	40名
							ことぶき勧学院 （東八代学園） （西八代学園） （甲府学園） （南都留学園） （南巨摩学園）	 35名 40名 59名 65名 32名
7月								
8月			甲府市立北東中 （2年生　職場体験）	2名	文化財活用支援講座 （小中高校の教員対象）	13名		
9月	甲府市立石田小 （6年生　火起こし体験）	72名						
10月	田富町立田富北小 （6年生　土器づくり）	29名			能見城跡体験セミナー （韮崎市）	4名		
	学校組合立笛南中 （3年生　勾玉づくり）	102名						
	大月市立畑倉小 （6年生　土器づくり）	13名						
11月	大月市立畑倉小 （6年生　土器づくり）	13名	笛吹市立御坂中 （2年生　職場体験）	1名	玉川金山遺跡体験セミナー （都留市）	13名	ことぶき勧学院 （南巨摩学園）	24名
	山梨市立加納岩小 （6年生　土器づくり）	80名	学校組合立笛南中 （2年生　職場体験）	2名			県峡南教育事務所 （地域教育推進担当研修）	13名
	県立盲学校 （1・3・6年生　土器づくり）	7名	笛吹市立浅川中 （2年生　職場体験）	1名				
12月	山梨市立山梨北中（2年生　石器づくり）	20名			足原田遺跡体験セミナー （山梨市）	13名		
1月					銚子塚古墳体験セミナー （中道町）	11名		
2月			南ア市立白根御勅使中 （2年生　職場見学）	1名				
3月								
計		512名		85名		54名		478名

総　計	1,129名

玉川金山遺跡（都留市）での体験発掘実施状況（11.20）

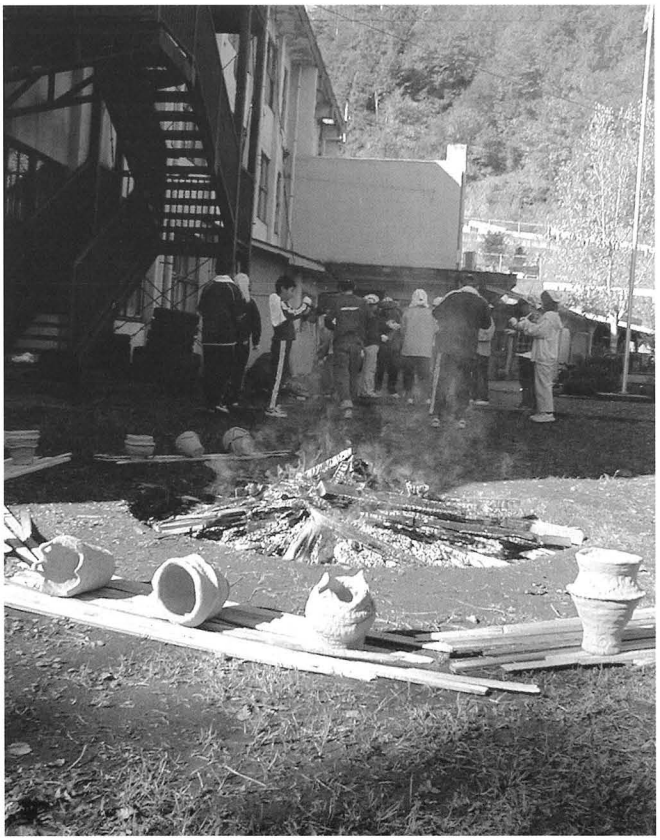


足原田遺跡（山梨市）での体験発掘実施状況（12.19）

銚子塚古墳（中道町）での現地説明会（1.22）

同左で開催の体験発掘の実施状況（1.22）

甲府市立石田小学校での火起こし体験の状況（9.28）



大月市立畑倉小学校での土器づくり体験の状況（11.4）

4．収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出許可一覧

番号	貸出期間	申請許可物件名		申請者	利用目的
1	4．1～10．31	郷蔵地遺跡	深鉢形土器２点 三角とう土製品１点 石棒２点 丸石１点	明野村埋蔵文化財センター	明野村埋蔵文化財センターに展示のため
2	4．1～10．31	金生遺跡ほか	出土品278点	大泉村教育委員会	大泉村歴史民俗資料館常設展に展示のため
3	4．1～H17．3．31	原町農業高校前遺跡	縄文土器15点	県立北杜高等学校	教材として、活用展示するため
4	4．1～H17．3．31	桜井畑遺跡	土器16点	（財）山梨県青少年協会	県立青少年センター別館に展示するため
5	4．1～H17．3．31	重郎原遺跡	縄文土器38点	塩山市教育委員会	市民教育に供するため
6	4．22～7．30	百々遺跡	灰釉壺１点 土師鍋１点 44住一括資料22点 鉄器５ケース 鞴羽口１点 ムシロ編石10点 碁石４点 墨書土器「庄」１点 突帯四耳壺１点 鉄滓５点	南アルプス市教育委員会	「中部横断道・甲西バイパス関連遺跡　出土資料展」に展示するため
7	6．5	原町農業高校前遺跡	土器２点	駿台甲府中学校	縄文土器製作の標本として
8	6．11～7．30	平林２号墳 信虎誕生屋敷跡 横町遺跡	銅鏡・装身具類13点 陶器類３点 土器・土製品６点	春日居町教育委員会	夏季特別展「わがふる里　春日居の歩み」に展示するため
9	6．16～6．20	レプリカ 原町農業高校前遺跡	貫頭衣２着 土器片23点	県立ふじざくら養護学校	社会科歴史の授業に活用するため
10	7．13～9．3	酒呑場遺跡	出土品457点	長坂町教育委員会	夏季企画展「酒呑場遺跡展」に展示するため
11	7．9～12．21	平林２号墳 かんかん塚古墳 竜王２号墳	馬具５点 馬具１点 馬具１点	百済武寧王展実行委員会 （福岡市博物館）	「秘められた黄金の世紀展－百済武寧王と倭の王たち－」に展示するため
12	8．4～11．4	百々遺跡	獣骨（馬）１点 獣骨（牛）１点 土錘13点 土鍋１点 炭化実３点 炭化種12ケース	南アルプス市教育委員会	第２回「中部横断道・甲西バイパス関連遺跡出土資料展」に展示するため
13	8．4～11．4	金生遺跡	出土品47点	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	企画展「縄文人の祈り」に展示するため
14	10．1～11．29	酒呑場遺跡 海道前Ｃ遺跡 唐松遺跡	土偶１点 土偶３点 土偶１点	釈迦堂遺跡博物館	企画展「まなざし－土偶が見た風景－」に展示するため
15	10．1～11．29	中谷遺跡 大木戸遺跡 安道寺遺跡 一の沢遺跡出土 酒呑場遺跡 酒呑場遺跡	土偶１点（複製） 土偶１点 土偶１点 土偶１点（複製） 土偶８点 写真１点	釈迦堂遺跡博物館	企画展「まなざし－土偶が見た風景－」に展示するため
16	10．7～12．19	大丸山古墳 （レプリカ）	竪矧板革綴短甲　１点 鉄斧３点 鉄柄付手斧１点	横浜市歴史博物館	特別展「ヤマトとアヅマ－武具からみるヤマト王権と東国－」に展示のため
17	11．1～H17．3．31	金生遺跡ほか	出土品278点	北杜市教育委員会	大泉歴史民俗資料館常設展に展示のため
18	11．1～H17．3．31	郷蔵地遺跡	土器・石器等６点	北杜市教育委員会	北杜市埋蔵文化財センター展示室に展示のため
19	11．5～H17．2．16	天神遺跡 天神遺跡 大月遺跡	翡翠大珠１点 深鉢形土器１点 翡翠大珠２点	国立科学博物館	「翡翠展－東洋の至宝－」に展示のため
20	11．5～H17．2．4	百々遺跡	獣骨（馬）１点 獣骨（牛）１点 土錘13点 土鍋１点 炭化実３点 炭化種12ケース	南アルプス市教育委員会	第２回「中部横断道・甲西バイパス関連遺跡出土資料展」に展示するため（会期延長）
21	11．9～11．11	甲ッ原遺跡 金の尾遺跡 榎田遺跡 北堀遺跡 二之宮遺跡 新居道下遺跡	土器１点 石器４点 土器１点 土器１点 土器１点 土器２点 土器１点	春日居町小学校	地区教員研修の教材資料として
22	17．4．1～18．3．31	金の尾遺跡 花鳥山遺跡	壺型土器１点 石鏃10点	山梨中銀金融資料館	山梨中銀金融資料館内の「紙幣史コーナー」展示のため
23	17．4．1～18．3．31	横掘遺跡 百々遺跡	出土品182点 出土品21点	南アルプス市立白根桃源美術館	南アルプス市立桃源美術館附属展示室に展示のため
24	17．4．1～18．3．31	柳坪遺跡 一の沢遺跡	深鉢形土器４点 石器３点	山梨市立八幡小学校	八幡小学校郷土資料室に展示のため
25	17．4．1～18．3．31	原町農業高校前遺跡	縄文土器15点	県立北杜高等学校	教材として活用展示するため
26	17．4．1～18．3．31	金生遺跡ほか	出土品278点	北杜市教育委員会	大泉歴史民俗資料館常設展に展示のため
27	17．4．1～18．3．31	大師東丹保遺跡	出土品27点	（財）山梨県公園公社	笛吹川フルーツ公園内地下展示施設果物館に展示のため

写真資料の貸出並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申請物件名		申請者	利用目的
1	4月13日	百々遺跡	航空写真　2点	南アルプス市教育委員会	「中部横断道・甲西バイパス関連遺跡　出土資料展」に展示するため
		百々遺跡4	36号住居跡覆土中の屋根材		
		百々遺跡2	7号住居跡		
2	5月6日	金生遺跡	配石遺構3点	NPO法人　国際縄文学協会	「縄文ジャーナル4号」に掲載のため
3	5月14日	天神遺跡	翡翠大珠	国立科学博物館	「翡翠展」展示図録に掲載並びに展覧会宣伝告知物に掲載のため
			深鉢形土器		
		大月遺跡	翡翠大珠　2点		
4	5月28日	天神遺跡	深鉢形土器	株式会社　平凡社	小学校低学年向け写真絵本「土のなかからでてきたよ」に掲載のため
5	6月4日	横町遺跡	遺跡全景	春日居町教育委員会	夏季特別展「わがふる里　春日居の歩み」に展示のため
			18号住居跡		
			18号住居跡炭化物		
6	6月8日	酒呑場遺跡	C区1号住居跡出土土器　2点	長坂町郷土資料館	長坂町郷土資料館夏期企画展のポスター並びにチラシ作成のため
			C区1号住居跡出土土器展開写真		
			C区12号住居跡出土土器展開写真		
			C区12号住居跡出土土器		
			C区40号住居跡出土土器展開写真		
			C区40号住居跡出土土器		
			C区41号住居跡出土土器　2点		
7	6月17日	中秣塚古墳	副葬品一括	竜王町	「竜王町史」に掲載のため
8	6月18日	酒呑場遺跡	調査区全景　7点	長坂町郷土資料館	長坂町郷土資料館夏期企画展のパネル及びパンフレット作成のため
			遺構写真　13点		
			遺構完掘状況　14点		
			遺物出土状況　75点		
			作業風景　18点		
			遺物写真　11点		
			出土土器展開写真　6点		
9	6月23日	鰍沢河岸跡	調査状況写真	富士写真フィルム(株)	埋蔵文化財写真技術研究会に展示
10	7月1日	大丸山古墳	竪矧板皮綴短甲(複製品)	横浜市歴史博物館	特別展「ヤマトとアヅマ－武具からみる大和王権と東国－」の図録へ掲載のため
			斧(複製品)　3点		
			鉄柄付手斧(複製品)		
11	7月9日	展示資料	正倉院宝物「金青袋白絁」(複製品)	山梨市史編さん委員会	「山梨市史　史料編　考古・古代・中世」に掲載のため
12	7月15日	金の尾遺跡	空撮写真	敷島町	敷島町制施行50周年記念「あすへの飛翔」に掲載のため
13	7月16日		山梨県内主要遺跡　15点	駿台甲府中学校	授業内で使用するため
14	7月28日	百々遺跡	馬骨出土状況	南アルプス市教育委員会	「中部横断道・甲西バイパス関連遺跡　出土資料展」にて展示のため
			4号土坑遺物出土状況		
15	8月17日	金生遺跡	遺跡上空写真	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	企画展「縄文人の祈り」の展示パネル、図録に掲載のため
			遺跡遠景		
			発掘中の遺跡		
			第1号配石②ブロック		
			石棺状遺構内の人骨と耳飾り		
			第1号配石②ブロック(部分)		
			第1号配石③ブロック全景		
			第1号配石③ブロック		
			第2号配石遺物出土状況		
			中空土偶		
16	8月19日	甲府城下町遺跡	調査区全景	株式会社　新人物往来社	「中世都市研究第9号　政権都市」に掲載のため
17	9月14日	古柳塚古墳	轡・鐙	博物館建設室	「ザやまなし　10月号」に掲載のため
		百々遺跡	馬骨出土状況		
18	9月22日	一の沢遺跡	土偶	観光部観光振興課	富士の国やまなし館展示のため
19	10月7日	大月遺跡	遺跡上空写真	県立都留高校同窓会機関誌「折り鶴だより」第17号編集副委員長	「折り鶴だより第17号」に掲載のため
20	10月7日	金生遺跡	中空土偶	釈迦堂遺跡博物館	特別展「まなざし－土偶が見た風景－」にパネル展示のため
21	10月12日	相川出土	ナウマンゾウ化石	住んでよかった北新づくり協議会人づくり委員会	郷土学習用冊子に掲載のため
22	10月13日	金生遺跡	中空土偶	釈迦堂遺跡博物館	特別展「まなざし－土偶が見た風景－」の図録に掲載のため
23	10月22日	甲府城下町遺跡	遺跡全景	山梨日日新聞	新聞記事掲載のため
			135号土坑		
24	10月25日	鰍沢河岸跡	発掘風景	博物館建設室	「ザやまなし　11月号」に掲載のため
			出土遺物集合写真		
25	10月28日	酒呑場遺跡	深鉢形土器	滋沢　雅人	市川市　市立木内ギャラリーにて展示のため
26	11月2日	寺所遺跡	墨書土器　3点	渡邊　泰彦	「山梨の遺跡100選」に掲載のため
27	11月5日	上野原遺跡	深鉢形土器	井出　政男	縄文土器の学習並びに制作のため
28	11月9日	甲府城跡	線刻画のある石垣石材	博物館建設室	「ザやまなし　12月号」に掲載のため
			矢穴の残る石垣		
			輪宝		
29	11月10日	酒呑場遺跡	Ⅰ区20号住居出土深鉢形土器	井出　政男	縄文土器の学習並びに制作のため
30	11月11日	釈迦堂遺跡	土偶集合写真	山梨県考古学協会	山梨県考古学協会の紹介用パンフレットに掲載のため
		上の平遺跡	方形周溝墓群		
31	11月11日	横針前久保遺跡	遺構・遺物写真　各1点	山梨県考古学協会	「やまなし遺跡100選」に掲載のため
		立石遺跡	遺構写真		
		丘の公園第2遺跡	遺構写真		
		天神遺跡	遺構写真		
		花鳥山遺跡	遺構写真		
		原平遺跡	遺構写真		
		甲ッ原遺跡	遺物写真		
		酒呑場遺跡	遺構・遺物写真　各1点		
		原町農業高校前遺跡	遺構・遺物写真　各1点		
		柳坪遺跡	遺構写真		
		一の沢遺跡	遺構写真		
		宮の前遺跡	遺構写真		
		中溝遺跡	遺物写真		
		大月遺跡	遺構写真		
		塩瀬下原遺跡	遺構写真		
		中谷遺跡	遺構写真		

		油田遺跡	遺構写真		
		長田口遺跡	遺物写真		
		十五所遺跡	遺構写真		
		金の尾遺跡	遺構・遺物写真　各１点		
		身洗沢遺跡	遺構・遺物写真　各１点		
		上の平遺跡	遺構写真		
		平野遺跡	遺構写真		
		榎田遺跡	遺構・遺物写真　各１点		
		西田遺跡	遺構写真		
		新居道下遺跡	遺構写真		
		村前東遺跡	遺構写真		
		経塚古墳	遺構写真		
		二之宮・姥塚遺跡	遺構写真		
		四ツ塚古墳群	遺構写真		
		大丸山古墳	遺物写真		
		銚子塚古墳	遺構写真		
		東山南遺跡	遺構写真		
		丸山塚古墳	遺構写真		
		大塚古墳	遺構・遺物写真　各１点		
		大塚遺跡	遺構写真		
		百々遺跡	遺構写真		
		大師東丹保遺跡	遺構写真		
		二本柳遺跡	遺構・遺物写真　各１点		
		金生遺跡Ｂ区	遺構写真		
		甲府城跡	遺構写真		
		宮沢中村遺跡	遺構写真		
		鰍沢河岸跡	遺構・遺物写真　各１点		
32	11月12日	甲府城跡	復元模型	株式会社　碧水社	学習研究社「よみがえる日本の城　駿府城・甲府城ほか」に掲載のため
			出土瓦　３点		
			胴木出土状況		
			石垣石材の線刻画		
			稲荷曲輪・煙硝蔵跡		
33	11月17日	金生遺跡	発掘状況	有限会社　ヴュー企画	ビデオ「日本の古代」の解説冊子「遺跡めぐりガイド」に掲載のため
34	11月18日	金生遺跡	ヒスイ大珠	株式会社　セレブロ	「『森浩一が語る日本の古代』DVD（全12巻）解説冊子付き」に掲載のため
			石剣		
			独鈷石		
			石器		
			土器		
			発掘・遺物出土状況		
35	12月５日	安道寺遺跡	水煙把手付深鉢形土器	入澤企画制作事務所	「季刊　陶磁郎」第41号に掲載のため
36	12月９日	天神遺跡	有孔浅鉢形土器	有限会社　海鳥社	「酒と器」(仮題)に掲載のため
37	１月５日	宮の前遺跡	釣手土器	山梨日日新聞社　編集局文化部	山梨日日新聞連載「やまなし歴史茶房」に掲載のため
38	１月14日	甲ッ原遺跡	人面装飾　２点	NPO法人　国際縄文学協会	国際縄文学協会会報　ニュースレター縄文　第10号に掲載のため
		安道寺遺跡	人面装飾		
		水呑場遺跡	双環装飾付土器		
		一の沢遺跡	人面装飾付土器		
		安道寺遺跡	ヘビ装飾付有孔鍔付土器		
		一の沢遺跡	人面装飾		
		安道寺遺跡	イノシシ装飾付土器		
39	１月17日	金生遺跡	耳飾り集合写真	株式会社　日本通信教育連盟	ビデオ・DVD全集「森浩一が語る日本の古代」の広報物に掲載のため
40	１月18日	長峰砦跡	遺跡遠景	山梨日日新聞社　編集局文化部	山梨日日新聞連載「やまなし歴史茶房」に掲載のため
41	２月１日	金生遺跡	土製円盤	山梨日日新聞社　編集局文化部	山梨日日新聞連載「やまなし歴史茶房」に掲載のため
42	２月15日	丘の公園第２遺跡	ナイフ形石器	山梨県総合教育センター	学校での授業用教材として利用するため
		一の沢遺跡	土偶		「山梨県総合教育センター Web教材集」に掲載のため
		頭無遺跡	石鏃　２点		平成16年山梨県総合教育センター研究紀要へ掲載のため
		上野原遺跡	水煙把手付深鉢形土器		
		柳坪遺跡	磨製石斧		
		金生遺跡	打製石斧		
		金の尾遺跡	深鉢形土器		
		上の平遺跡	壷形土器		
		金の尾遺跡	石包丁		
		身洗沢遺跡	木製鍬　２点		
		稲荷塚古墳	銀象嵌大刀		
			柄頭		
43	３月1日	甲府城跡	発掘調査による検出遺構図	山梨県生涯学習推進センター	生涯学習推進センター発行「山梨学講座（３）」に掲載のため
			地中梁と男柱構造と桶状遺物実測図		
			地中梁と男柱と遺構と桶状遺物出土状況		
			建物配置イメージ図と撮影方向		
			遺構図と建物配置図イメージ図		
44	３月8日	甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園	航空写真	株式会社　文藝春秋　出版局文春新書局	「見学できる古代遺跡」(仮題)に掲載のため
		銚子塚古墳	遠景		
			埴輪		
		上の平遺跡	方形周溝墓群		
		かんかん塚古墳	馬具		
45	３月９日	金生遺跡	中空土偶	株式会社　文藝春秋　出版局文春新書局	「見学できる古代遺跡」(仮題)に掲載のため
			装身具類		
46	３月15日	一の沢遺跡	出土品一括	笛吹市教育委員会	「広報ふえふき」５月号に掲載のため
47	３月16日	釈迦堂遺跡	土偶集合写真	株式会社　ポプラ社	「これだけは知っておきたいシリーズ19『古代日本の大常識』」に掲載のため
48	３月28日	百々遺跡	馬骨出土状況	博物館建設室	山梨県立博物館の常設展に展示及び展示図録に掲載するため

5．第17回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

本研修会は山梨県内の市町村埋蔵文化財担当者を対象に、最新の考古学研究の方法や技術、埋蔵文化財行政が抱える問題などを考え、埋蔵文化財に従事する専門職員の資質向上と技術習得を目的として研修会を行っているものであり、本年度で第17回目を数える。2004年度については、文化庁が策定した『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』についてテーマを設定した。講師に文化庁禰宜田佳男調査官を招いて2005年２月16日（水）に風土記の丘研修センターを会場に実施した。内容は、埋蔵文化財行政に関する課題とこれまでの検討、「行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準」の検討過程とその標準の概要、そしてこれからの埋蔵文化財行政への課題、についてである。また改正された文化財保護法についてもその概略を説明していただいた。参加者は県内各市町村職員を含め53名であった。

6．遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県内で当該年度に発掘調査された遺跡について、その調査内容や成果を公表する催しとして上半期、下半期の年２回開催している。開催は民間考古学研究団体である「山梨県考古学協会」と共催で実施しており、スライド上映を交えた説明および出土遺物や写真パネルを用いたミニ展示も行っている。また、各調査担当者からの説明に加え、時代・時期・地域などの特性に応じた研究者からのコメントを追加し、参加者の理解を高める方策もとっている。本年度の発表内容等は下記のとおりである。

○　2004年度上半期遺跡調査発表会

開催日時　2004年10月16日（土）　午後１時から４時10分まで

開催会場　風土記の丘研修センター　講堂

発 表 1　南部町　天神堂遺跡（発表者　帝京大学山梨文化財研究所　櫛原功一）
縄文時代中期を中心とした集落跡および中世から近世の遺跡を報告

発 表 2　富士河口湖町　河口湖バイパス関連遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　正木季洋）
炭焼遺跡では平安・中近世の土器、塚越遺跡では縄文時代の敷石住居の報告

発 表 3　甲斐市　松ノ尾遺跡（第12次）（発表者　日本窯業史研究所　三輪孝幸）
奈良・平安時代の住居跡17軒、土坑10基などを報告

発 表 4　鰍沢町　鰍沢河岸跡　（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　保坂康夫）
江戸時代末期の遺構や遺物が発見され、上水道遺構と思われる木樋の報告

発 表 5　勝沼町・大和村　登録有形文化財勝沼堰堤　（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　鶴田博）
日川に築かれた堰堤の役割についての報告

○　2004年度下半期遺跡調査発表会

開催日時　2005年３月19日（土）午後１時から４時30分まで

開催会場　帝京大学山梨文化財研究所　大ホール

報　　告　今年度の県内埋蔵文化財調査の動向（発表者　山梨県教育庁学術文化財課　新津健・保坂和博）
平成15年度、県内の埋蔵文化財保護と調査動向についての報告

発 表 1　韮崎市　能見城跡（発表者　韮崎市教育委員会　閏間俊明）
能見城がつくられた時代や道のつくられ方をパワーポイントで報告

発 表 2　都留市　玉川金山遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　網倉邦生）
郡内地方で発見された縄文時代早期の土器と県内でも珍しい奈良時代の竈の報告

発 表 3　中道町　国指定史跡銚子塚古墳（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　森原明廣）
後円部の突出部や周溝内から出土した木柱や木製樹物等についての報告

発 表 4　玉穂町　平田宮第２遺跡（発表者　玉穂町教育委員会　今村直樹）
平安時代の洪水前と洪水後の時間的に差のない住居跡や畑と思われる遺構の報告

発 表 5　甲府市　甲府城下町遺跡　（発表者　甲府市教育委員会　志村憲一）
甲府大空襲の面や絵図に描かれた甲府城下町の説明と甲府上水の木樋の報告

7．山梨の遺跡展2004

2004年度中に県内各地で行われた発掘調査並び整理作業の成果の一部、資料普及活動の様子、今回特別に、今年度報告書が刊行される「原町農業高校前遺跡」の遺物のお披露目を兼ねて、広く一般に公開することと、いち早く県民に紹介することを目的とし「山梨の遺跡展2004」を開催した。開催は、2004年３月12日（土）から４月３日（日）まで、県立考古博物館の特別展示室を会場として行った。入場は無料とした。

展示の内容は、（１）埋蔵文化財センターによって発掘された遺跡の展示（原町農業高校前遺跡を含む）、（２）市町村によって発掘された遺跡の展示、（３）パネル展示、（４）新聞展示の４種類の展示を行った。（１）では、足原田遺跡（山梨市：土器類）、塚越遺跡（富士河口湖町：石鏃、土器類）、小井川・小河原遺跡（田富町：陶磁器類）、鰍沢河岸跡（鰍沢町：陶磁器類）、勝沼堰堤（勝沼町：陶磁器類）、玉川金山遺跡（都留市：土器類）、銚子塚古墳（中道町：木製品）、百々遺跡６（南アルプス市：土器類）の出土資料とパネル展示を行い、（２）では、山梨文化財研究所の協力のもと南部町教育委員会の発掘による天神堂遺跡（土器類）、北杜市教育委員会の発掘による向原遺跡（土器類）、玉穂町教育委員会の発掘による平田宮第２遺跡（木製品）の出土遺物を各機関から借りて、パネルと共に展示した。（３）では、甲府城跡（甲府市）、堤防遺跡（南アルプス市）、埋蔵文化財センター資料普及課による出前授業などの様子をパネルを用い紹介した。（４）では、2004年度新聞に掲載された発掘調査をユニークなキャラクターを通して紹介した。

これらの展示を通じて、県民の皆様の埋蔵文化財への理解、郷土山梨への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

なお、この展示は2005年度中、県情報プラザ、釈迦堂遺跡博物館等でパネル展を開催予定である。

8．埋文やまなし

第18号

埋文やまなし第18号では、2004年４月９日に完成した稲荷櫓と、2004年４月９～18日まで舞鶴城公園恩賜林記念館で行われた「甲府城発掘展」について取り上げた。また、山梨の遺跡展2003の概要報告や、2004年度の新規事業である山梨県内中世寺院分布調査についての報告を掲載した。

第19号

埋文やまなし第19号では、発掘調査の最新速報として、富士河口湖町の塚越遺跡と勝沼町と大和村の町村境に位置する登録有形文化財の勝沼堰堤について取り上げた。また、資料普及課でおこなっている土器・石器作りや火起こし体験、先生のための文化財活用支援講座の紹介をおこなった。

第20号

特集「遙かなときを超えて」－全国からみた山梨の位置づけ－として、釜無川堤防遺跡群（堤防遺跡No.23）と銚子塚古墳を取り上げた。「釜無川堤防遺跡群（堤防遺跡No.23）」では、「甲州流」と呼ばれる独特の治水技術が古文書に伝えられており、これらを具体的に確認するなどの目的で調査が進められたことを紹介した。また、「銚子塚古墳」では、試掘により周溝内の様々な造作の確認や木柱・木製品の発見など東日本では類例のない調査成果が得られたことを報告した。また、都留市玉川金山遺跡の概要を速報した。その他、山梨県内中世寺院分布調査、甲府城大修築300年記念講演会、発掘体験セミナー、大塚初重前所長の紺綬褒章伝達式などの記事を掲載した。

9．デジタル化事業

緊急雇用対策事業調査報告写真電子化

緊急雇用補助金の支給を受け、発掘調査で撮影したポジフィルムは退色など劣化が避けられず、これらを防ぎ発掘調査成果の一層の普及活用を図るために、撮影フィルムをスキャニングしてデジタル化を行った。対象としたのは、当センター発足以前およびセンター発足以後2003年度まで刊行した発掘調査報告書231冊に関わる35㎜ポジフィルム18,329コマ、ブローニーフィルム565コマ、合計18,894コマである。これらを低解像度、中解像度、高解像度の画像をそれぞれに作成して、CD-ROM427枚に収納し、これらの収録リストを作成した。

ホームページ

県庁ホームページのバリア・フリー化に対応し、従来のホームページを全面的改訂した。

ホームページアドレス：http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.html

目次

最新情報：最新の活動内容を紹介

埋蔵文化財センターの仕事：当センター業務概要

講演会情報：各種講演会および関連展示会情報を掲載

遺跡展：調査した遺跡や出土した遺物を展示する遺跡展の案内

遺跡調査発表会：遺跡調査発表会の開催の案内

発掘調査情報：国指定史跡銚子塚古墳や鰍沢河岸跡の発掘情報を掲載

遺跡発掘体験セミナー：遺跡発掘体験セミナーの案内

埋蔵文化財センターへの道筋

埋蔵文化財センターへのお問い合わせ

利用者の利便性の向上のために、各種展示会等の開催情報や体験型学習支援事業・遺跡発掘体験セミナーなどの申込書をPDF文書化して掲載し、容易にダウンロード・印刷できるようにした。

銚子塚古墳や鰍沢河岸跡の速報・発掘情報については、従来簡易印刷で配布を行っていたものをPDF形式化して掲載した。

また、既に終了した講演会や遺跡展・遺跡調査発表会といった過去の活動記録も、順次バックナンバーとして格納し、閲覧できるようにしている。

10．所内研修

本年度の所内研修は、統一テーマを設定せず、職員が共通認識を持っておくべき課題や、業務に関して必要とされる項目など適宜選択してその都度テーマを設定し、隔月の所内会議日に開催した。実施した研修内容については、文化庁や公立埋文が主催する「公立埋文研修会」、「関ブロ埋蔵文化財行政担当者会議」等の研修会や会議の報告、「埋蔵文化財のデジタルデータベース」など埋文業務に必要な項目について、デモなど実施しながら研修を行った。

また、文化庁より示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』(2004年10月29日）を受けたことから、山梨県における標準作成の原案に向け、埋文センターによる検討をおこなうこととし、発掘調査から報告書作成までを６つに分担し、マニュアル作成にむけ検討している。これについて、今まで行った発掘調査事例の報告や報告書作成について担当者から話を聞くなど、マニュアル作成に向けた研修も行っている。

11. 発掘・整理作業標準化

本年度はセンター全体として取り組む「発掘・整理作業のマニュアル（試掘・確認調査含）」作成の初年度にあたる。各課担当がそれぞれの項目を分担し、検討を行った。調査第３担当では試掘・確認調査のマニュアル作成を担当した。試掘調査を実施する中で、年間を通して数回の打ち合わせを行い、試案を作成した。構成は（１）目的　（２）試掘調査の種類　（３）試掘面積　（４）試掘前段階作業　（５）試掘調査（Ａ：表土の掘削・Ｂ：包含層の掘削・Ｃ：掘削箇所の記録）（６）課題（試掘が困難な地形（湧水地・傾斜地等）に対する対処）（７）法的手続き　からなる。今年度文化庁より報告された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準』を参考に、県内・当センターの現況をふまえ構成・内容の検討を行った。各担当でも順次作成をすすめており、来年度以降も担当毎、さらに検討を進めていく計画である。

12. 所内研究グループ

実験考古学研究部会

当部会は山梨県内の採取粘土により須恵器製作を行うことを目的として、実験を重ねてきた。これまでに行った活動は、県内の粘土所在確認と、実際に県内粘土を使った焼成実験である。焼成実験は、県内３種類の粘土（相川小学校付近、道々芽木遺跡付近、甲府城跡内）と市販粘土３種類でテストピースを作成し、1,200℃の焼成温度までの温度上昇時間を６時間と12時間の２種類の焼成実験を陶芸用灯油窯で行った。

本年度は、さらに多くの種類の粘土の確保をめざし、北杜市長坂町内で採取された粘土を、北杜市教育委員会から分けていただいた。しかし、実際の焼成実験は実施できなかった。

古墳研究部会

今年度の計画では、２回の研修日に旧境川村・旧八代町の古墳踏査および、カード化作業を行う予定であったが、様々な理由により実質的な作業を行うことができなかった。このため、年度当初に、カードの確認作業を行った以外は、今年度の作業は進んでいない状態である。今後は、今年度の計画が実施できるように努力していく予定である。

写真技術研究部会

2003年度より継続している研究グループであり、５名の職員で構成される。活動の目的は、写真撮影技能の向上である。本年度は発掘調査に伴うカラー写真撮影法の実態について報告しあい、その問題点を検討した。研修の結果、撮影時に改善すべきポイントや撮影後の写真管理の問題点などが明らかになった。

また、発掘調査・整理作業に係るデジタルカメラの撮影技術についても今年度行う予定であったが、時間の制約上実施できなかった。デジタルカメラの活用法については、今後の検討課題としたい。

13. 寄贈・購入図書

当センターが発足して22年を超え、この間毎年約4,000冊が寄贈･購入されている。その内容は、全国都道府県･区市町村教育委員会から送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要、博物館・資料館などの企画展・常設展の図録、業務に関する考古学・歴史学の専門書、学術雑誌の購入からなる。

2004年度は約3,000冊の寄贈・購入があり、大塚文庫（約11,000冊）と合わせると約74,000冊が現在収蔵されていることになる。

その一方で、年々増える図書に対して収蔵スペースが不足し、書架の設置場所も限界にあるため、収蔵方法の検討や新たな保管場所と閲覧スペース等の整備が望まれている。そこで、本年度は当センターで複数冊の蔵書がある発掘調査報告書・年報・研究紀要について、2005年度10月開館の県立博物館へ保管移転するなどの対応を実施した。

年度別登録図書数

年度	新規登録図書	総登録数
1997年度以前		37,257
1998年度	3,842	41,099
1999年度	4,252	45,351
2000年度	3,515	48,866
2001年度	3,314	52,180
2002年度	3,395	55,575
2003年度	4,141	59,716
2004年度	(3,000)	62,710

※　本年度分は登録作業途中のため暫定

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要

1．記録保存のための発掘調査

1－1　鰍沢河岸跡（かじかざわかしあと）A

鰍沢河岸跡A位置図

所 在 地　南巨摩郡鰍沢町白子明神地区（鰍沢町1423－1外）
事 業 名　国土交通省水防災対策特定河川事業
調査期間　2004年４月19日～６月30日
調査面積　1,170㎡
担 当 者　保坂康夫・一瀬一浩

鰍沢河岸跡は、江戸時代から大正年間にかけて繁栄した富士川を利用した河川交通である富士川水運の川の港である。富士川水運は、江戸時代初期の慶長年間に京都の豪商である角倉了以の指導によって富士川が河川交通路として開削されたのがはじまりとされている。鰍沢河岸には、幕府に納める年貢米である江戸御廻米を保管した「御米蔵」が設置されていたが、他にも青柳河岸（増穂町）、黒沢河岸（市川大門町）に御米蔵が設置され、甲州三河岸として著名であった。

本事業に伴う鰍沢河岸跡の発掘調査は、2000年９月から開始して2004年まで足かけ５年にわたり、これまでの調査地域は20,000㎡におよぶ。この範囲に御米蔵を中心とし、最南端にある口留番所（関所）などの官営の施設と、北側に発達した河岸問屋や船宿などの街並みを含む。こうした施設は長い歴史のなかで、洪水や火災などに遭い、地表下２～３ｍもの地中から何層にもわたって発見されている。

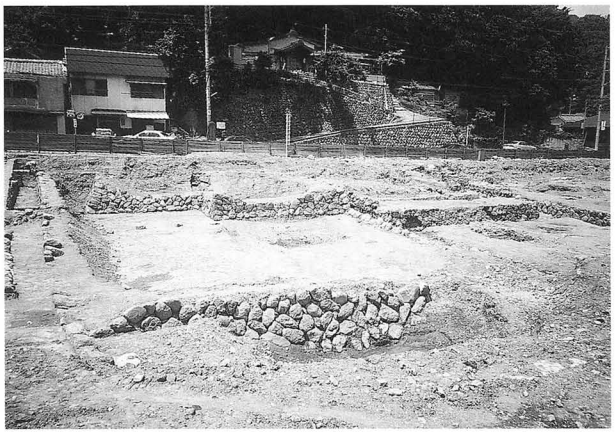
今回は調査地域の北側で、河岸問屋などが並ぶ地域の調査である。すでに2000年度に大正から明治期の上層部分の大半が調査されており、出土遺構や遺物は江戸時代末期のものがほとんどである。石垣で基礎部分をかためた平坦面が10カ所あり、石垣の構築順序を見ると、北から南側にあるいは東側に拡張されていった状況が把握できた。平坦面には、礎石やカマド、イロリ、便所、井戸などの遺構を残すものもある。石垣の間には道が整備され、道に埋設された上水道遺構と思われる木樋や竹樋が発見された。

木樋は道の脇の石垣に接して設置されており、幅30㎝長さ３ｍ以上におよぶ一枚板に、側板が角釘で打ち付けられたものである。江戸遺跡や甲府城下町遺跡で出土した上水施設の木樋の構成材は厚さ３㎝程度であり、底板に側板を乗せて打ち付けているのに対し、今回出土したものは厚さ1.5㎝で、底板を挟むように横に打ち付けており、上水道の仕様と違う可能性がある。排水路の底板であったと思われる。

竹樋は長さ５ｍ以上の竹の筒を木製筒形の継手でつなげたものである。継手は、直径20㎝長さ20㎝ほどの木材の中にＬ字状の穴をくりぬいたもので、継手をもうひとつ組み合わせる必要があり、もう片方は水路閉鎖時に掘り起こされて取り除かれたと思われる。竹樋は、江戸遺跡では上水道を屋敷内に引き込む場合に設置されるものである。おそらく、遺跡の北側を流れる南川から取水し現在の国道52号線をまたいで設置された上水道の一部であったと思われる。竹樋の掘り方は、文政４年（1821年）の鰍沢大火の折りに埋められた焼け土や焼け出された陶磁器類を含む層を掘り込んでおり、文政大火以降に構築されたものと思われるが、埋め土内に近代以降の新しい遺物が見られないので幕末段階に構築・機能していたものと考えられる。

出土遺物は、陶磁器、銭などである。特殊な出土品として長さ15㎝ほどのアワビの貝殻がある。２ｍ四方ほどの範囲から数点出土し、付近には銭や本遺跡唯一の杯洗も出土した。2000年度調査で礎石建物が検出された直下であり、建物建設の際の地鎮祭などに伴うものである可能性もある。

調査区全景（南から）



調査区全景（東から）

アワビ・杯洗等出土状況

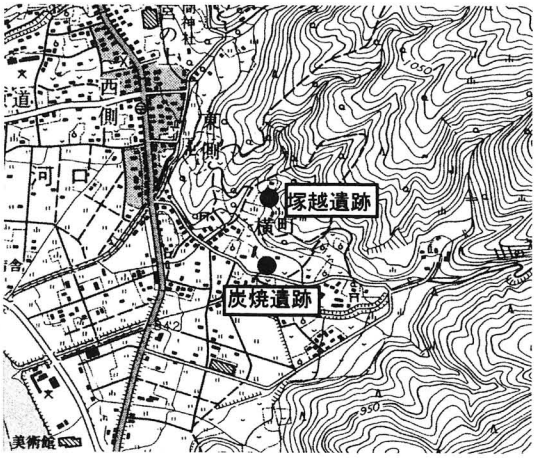
イロリと遺物出土状況

木樋検出状況

竹樋検出状況

竹樋継手検出状況

1－2　炭焼（すみやき）遺跡（いせき）・塚越（つかごし）遺跡（いせき）



炭焼遺跡・塚越遺跡　位置図

所 在 地　南都留郡富士河口湖町（旧河口湖町）河口字炭焼・字塚越地内
事 業 名　国道137号河口２期バイパス建設事業
調査期間　2004年６月1日～11月29日
調査面積　1,180㎡（炭焼遺跡400㎡、塚越遺跡780㎡）
担 当 者　今福利恵・正木季洋

炭焼・塚越遺跡は富士河口湖町（旧河口湖町）河口に所在し、富士山北麓、御坂山地の御坂山・三ツ峠山の南麓、河口湖北東岸の標高842～855ｍの地点に位置する。この河口湖周辺には縄文時代から中近世に至る遺跡が数多く存在していることが知られている。また、調査が行われた河口地内は古代の官道が通過する所と言われており、平安時代の古文書『延喜式』「巻28兵部省諸国駅伝馬条」所載の甲斐国３駅の１つである「河口」の駅の推定地がこの付近とする説がある。

両遺跡は平成14年度11月に河口２期バイパス建設に先立ち、路線内の試掘調査を行い、滝沢遺跡・井坪遺跡・炭焼遺跡・塚越遺跡の４箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。そのうち平成15年度には井坪遺跡、炭焼遺跡の調査を行い、本年度は昨年度より継続の炭焼遺跡南側区域と塚越遺跡について調査を行った。本調査が行われた両遺跡の概要については、下記のとおりである。

○炭焼遺跡

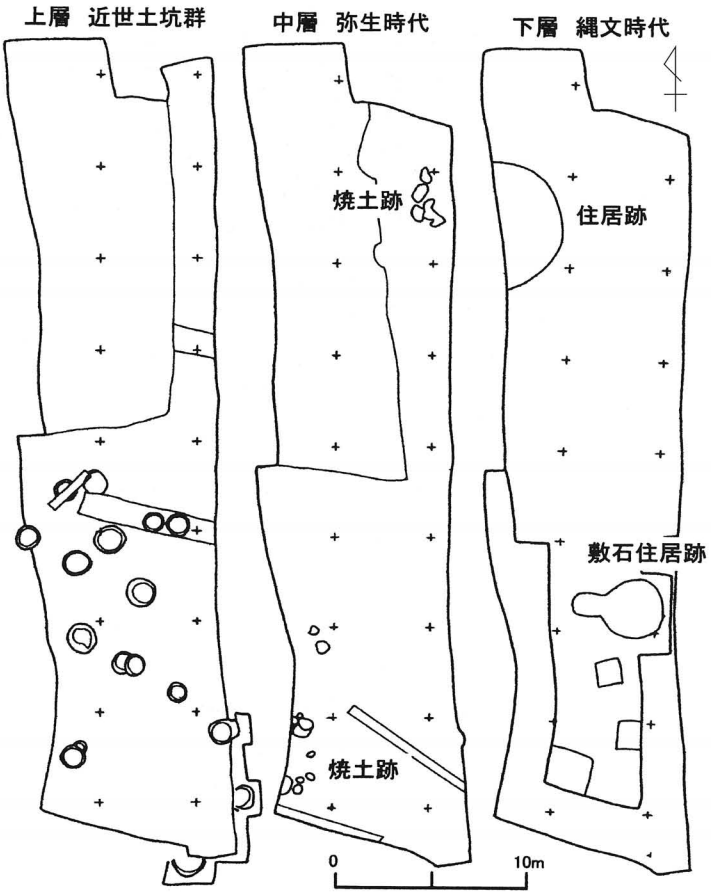
炭焼遺跡は調査対象1,000㎡のうち600㎡は昨年度に調査を行い、本年度は昨年の調査区域の南側400㎡、標高約844ｍの地点を調査した。およそ１ｍ程の盛り土があり、その下約60㎝程の黒褐色土中に遺物の包含層を確認した。遺物は古墳時代、平安時代、中近世の土器・陶磁器片がいずれも小片で散在した状況で出土している。また、竪穴状の堀り込みが見られ、古墳時代の土器片がわずかに出土している。調査区南端部では山の神川の洪水によるものと思われる砂礫が厚く覆っているが、その下から畝状遺構が検出された。遺物が出土しなかったため時期は明らかではないが、近世以前と推定される。全体的に昨年度に比べ遺物出土量は少なく、本遺跡より高い東側近隣周辺に存在が推定される遺跡からの流入によるものと思われる。

○塚越遺跡

すぐ東側が山地となる南向きの緩斜面地で、標高約855ｍの地点に位置する。調査の結果、近世、弥生時代、縄文時代の３時期の遺構・遺物が確認された。近世の遺構・遺物は地表下約0.8～2ｍの地点で確認されており、表土層下から掘り込まれた土坑が15基確認された。これらの土坑は直径１ｍ程、深さ１ｍ前後のものであり、出土遺物が無く、性格・時期ともに明らかではないが、層位から近世頃と推定できる。

弥生時代の遺構・遺物は近世の土坑が堀り込まれている黄褐色土層の下、表土下約1.5～3ｍの地点で確認された。遺構・遺物は調査区南側の斜面の傾斜が緩やかになる部分に集中し、弥生時代前期末の土器片が1,000点以上出土しているほか、黒曜石製の石鏃や環状石器も出土している。住居跡は明確ではないが、５カ所に焼土跡があり、焼土中から動物のものと思われる骨片が出土するなど、生活の痕跡を示している。

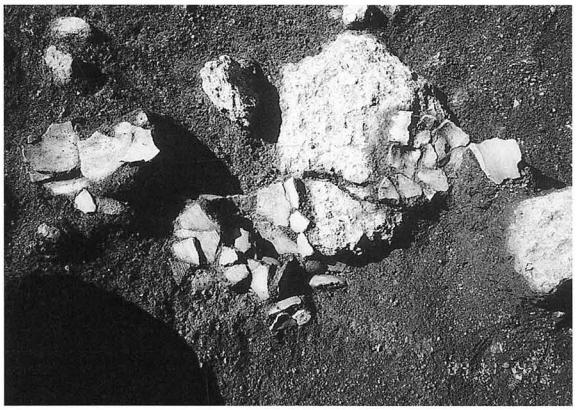
縄文時代は地表下約２～４ｍの富士山スコリア層下の黒色土中より、上層から晩期前半、後期中葉、後期初頭の遺物包含層が認められた。後期初頭には柄鏡形敷石住居跡１軒がほぼ完全な形で検出できた。敷石住居跡の柄鏡部からは土器片が敷き詰められた様な状態で出土している。後期中葉包含層からは住居跡などの生活の痕跡は認められないものの、堀之内２式の土器片がまとまって出土する状況が見られた。また、晩期前半期の住居跡と思われる遺構も検出することができた。この地は山際の傾斜地であり、土石流による堆積や富士山テフラ降灰がありながらも、縄文時代後期から晩期、弥生時代へと重層的に遺跡が形成されていることが明らかとなった。なお、遺跡は厚い土砂に覆われているものの、周辺域に広がっているものと思われる。



塚越遺跡平面図

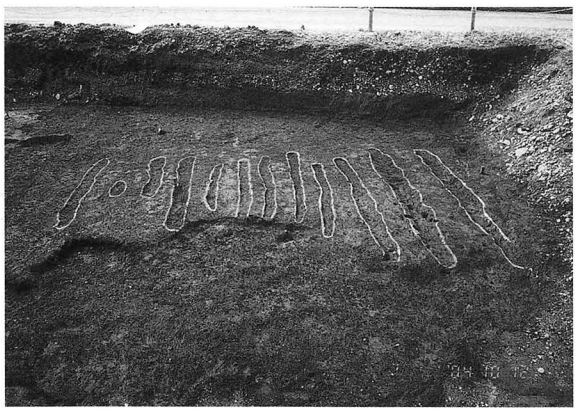
塚越遺跡弥生土器出土状況

塚越遺跡敷石住居跡



塚越遺跡堀之内２式土器出土状況

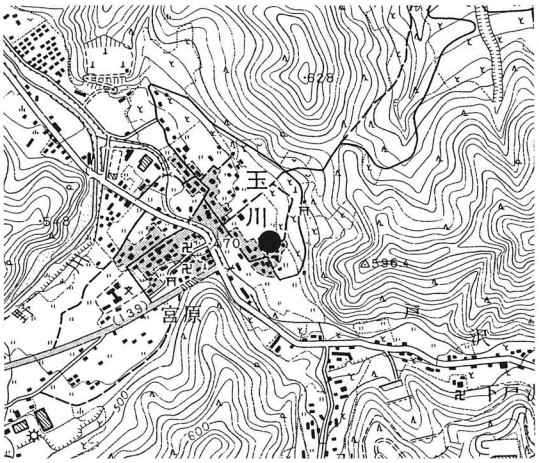
炭焼遺跡平面図



炭焼遺跡畝状遺構

1－3　玉川金山遺跡（たまがわかなやまいせき）

所 在 地　都留市玉川字上ノ原200－1他
事 業 名　国道139号都留バイパス建設工事
調査期間　2004年10月18日～2005年２月18日
調査面積　1,922㎡
担 当 者　笠原みゆき・網倉邦生・正木季洋



玉川金山遺跡　位置図

玉川金山遺跡は桂川の支流戸沢川と菅野川が合流する付近の平坦地に位置する。遺跡の北側には縄文・古墳時代の散布地である玉川遺跡や縄文時代早期の住居跡が発見された生出山山頂遺跡、西側に縄文時代の散布地である宮原遺跡や「和同開珎」が出土した奈良･平安時代の三ノ側遺跡が周知されている。

今回の調査は、一般国道139号都留バイパスの建設工事に伴う発掘調査である。平成15年度に玉川地区を対象にした試掘調査が行われ、調査の結果、縄文・平安・中世の遺物が出土したため、新規に玉川金山遺跡として周知した。調査区は３つの平坦地・緩斜面地により構成された段丘状の地形を呈しており、水路が比高差のある地形を隔てている。調査では、３つの平坦地・緩斜面地を西南側から１～３区と呼称した。

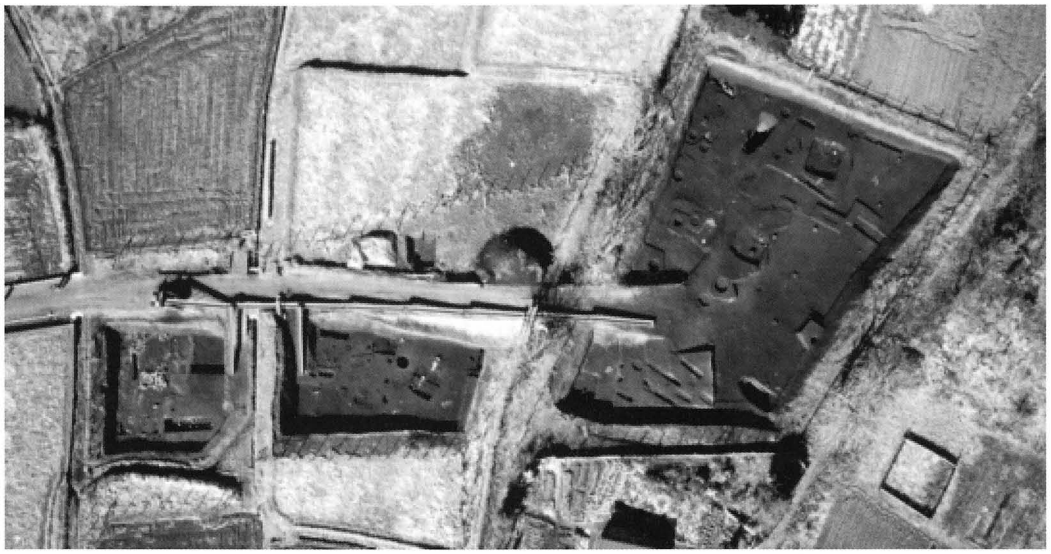
表土剥ぎと併行して、遺構が少ない地点を対象にトレンチを入れ、遺構面の把握に努めたところ、3つの面が検出された。便宜的にこれらの面を１～３面と呼称する。以下に各遺構面の結果を記述する。

第１面は炭化物混じりの黒色土で構成され、深さは地表下0.8～1.1mに位置する。この面からは23基の焼土集中と1基の土坑が確認された。焼土集中で明確な掘り込みを持つものは少なく、遺構を半截したところ焼土が地山に混じりこむ状態で確認された。焼土集中に遺物などは伴わないため、性格は不明である。土坑からは一体分の獣骨が出土した。この遺構面に伴う遺物はないため、年代の比定は困難であるが、この面より下に中世の面が存在するため、近世以降の面であると推察される。

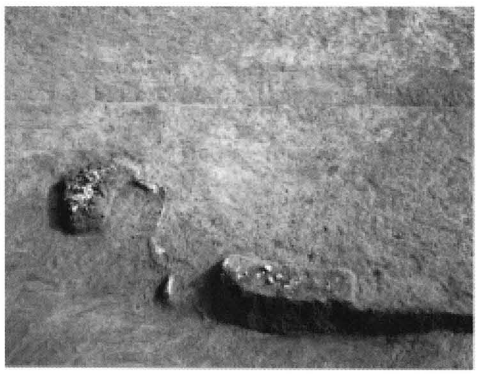
第２面は褐色粒子混じりの青灰色土・砂利層で構成され、深さは地表下1.0～1.3mに位置する。この面は奈良時代と中世の遺構があり、奈良時代の遺構としては住居跡４軒、中世の遺構としては地下式坑１基、礫集中１基が検出された。奈良時代に比定される住居の中で、長軸１mの煙道を有す竈など遺存状況の良好な資料が確認された。この面は調査区ごとに遺構を構成する土壌が大きく異なり、１区は河川起源と考えられる砂利層の上面に中世の遺物が包含され、大～中礫が配された礫集中が出土した。これらの遺構の他に、時期決定が困難な遺構として、焼土集中5基・土坑33基・溝状遺構８条・柱穴20基が検出された。

第３面は暗褐色土で構成され、深さは地表下2.3～2.5mに位置する。この面からは縄文時代早期の遺構として、焼土集中７基・土坑74基・住居跡１軒・集石４基・配石１基が確認された。検出された土坑74基の内、少なくとも20基は土坑底面に焼土を伴っており、炉穴として認識が可能である。また、炉穴の中で３グループほどは、４～６基の土坑が複雑に切り合う状況を呈し、該期における炉穴の機能を把握する上で良好な資料だと言える。

調査の結果、調査対象地内には３つの遺構面が存在することが確認された。特に第３面（縄文時代早期）においては、調査区西端から西側に伸びる形状で遺構が確認され、来年度以降の調査における遺構の検出が予想される。調査の成果としては、縄文時代早期の遺構面とその上にある包含層から、縄文時代早期後半の土器と共に礫器・稜磨石など、この時代を特徴づける石器が出土したことが挙げられる。出土した土器の時代幅が少ないことから、良好な一括資料であると位置付けられる。また、第２面から７世紀末～８世紀前葉の遺物を包含する建物跡が３軒確認され、その内の一軒からは長軸１mの煙道や支柱・袖石を有する竈など残りが良い資料が確認された。調査区の外側にも遺構が展開する状況であり、奈良時代の集落跡の広がりが推定できる。



第２面全景空中写真（右側が北）



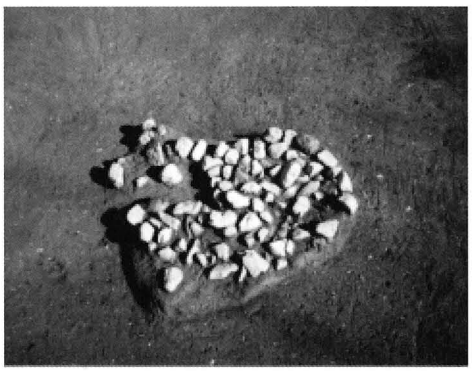
３区　15号土坑獣骨検出状況

２区　３号建物跡カマド検出状況（奈良）

３区　２号建物跡遺物出土状況

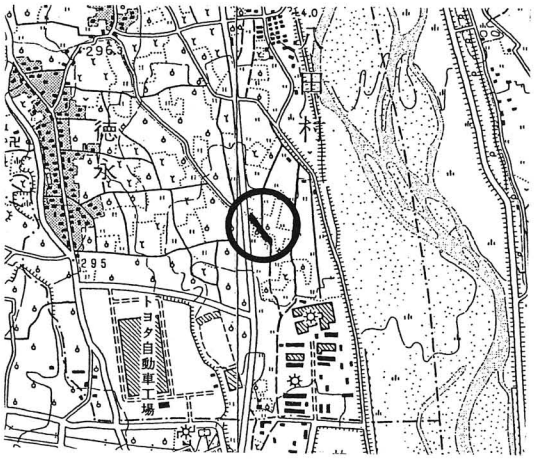
３区　炉穴完掘状況（縄文早期）

３区　遺物出土状況



３区　１号集石検出状況

１－４　釜無川堤防跡群（堤防遺跡No.23）



釜無川堤防跡群（堤防遺跡No.23）　位置図

所 在 地　南アルプス市下高砂835、徳永1401
事 業 名　総合交通センター建設
調査期間　2004年10月１日～11月30日
調査面積　2,380㎡
担 当 者　保坂康夫・三田村美彦・西海真紀

釜無川堤防跡群（堤防遺跡No.23）は、甲府盆地西部の南アルプス市下高砂、徳永に所在する。本遺跡の西側には、南アルプスから流れ出る御勅使川によって形成された扇状地が広がり、西から東へ緩やかに傾斜する地形となる。その扇状地の先端は南流する釜無川によって削り取られ、崖線が形成されている。崖線より東側は釜無川によって形成された氾濫原となっており、北から南へわずかに傾斜する地形となる。本遺跡はこの氾濫原上に立地し、標高は285～286mを測る。

今回の調査では長さ約154mに渡り堤防が検出された。現況では周辺が果樹園となっていたことから、堤防北端は隣接する県道若草双葉線（以下県道とする）からの入り口として堤防上面の馬詰にアスファルトが敷かれ、法面下端にはコンクリート製のU字溝が埋設され農業用水路として利用されていた。堤防南端は提体が急激に先細り、前述した農業用水路が南西方向に横断している。

築堤当初に近い旧提体は、堤防を横断する５本のトレンチ断面を精査し、その所見から重機及び人力で検出した。馬詰は堤防南側で最も高く標高286m前後を測るが、北側に向かって徐々に下がり幅広となる点や、南端が先細り北西方向に抉られるように提体が消失する点は、現況における堤防と同様である。馬詰幅は南側で1.5m、中央で3.4m、北側で4.0m、高さは南側で2.8m、中央で2.2m、北側で1.5m、敷は南側で約６m、中央で約7.8m、北側で約８mを測る。法面の傾斜は提体の残存状況良好な堤防中央で川表約34°、川裏約33°の傾斜をもつ。

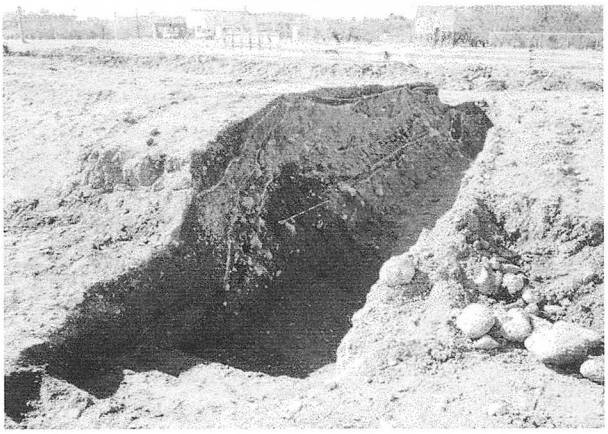
南端における提体形状の著しい改変の原因は、築堤後の大規模な洪水などが考えられ、洪水で堆積したと考えられる葉理構造を持つ砂層が、旧提体上に厚く堆積していることからも類推することができる。なお、堤防の基部は洪水などによる砂礫の堆積により、現況より約80㎝下から検出された。また、北端の県道と接する部分まで調査を行った結果、現地表面では県道建設などで削平され確認できないが、堤防自体は北側にさらに続くことが判明した。

堤防を横断する５本のトレンチを設定し、断面を精査した結果、堤防中央付近の川表側で、洪水など何らかの外的要因で提体が崩れた後、砂礫を用いて新たに補修した可能性を示す堆積が観察された。旧提体に用いられた砂礫は中央部は平坦に積み上げられ、川裏・川表の両法面付近では傾斜に合わせるように積んでいる。また、旧提体の川裏側法面に薄いシルト層がみられることから、砂礫を積んだ後、法面に土を人為的に張ったものと考えられ、砂礫提の典型的な築堤技法と一致する。堤防法面端部では、溝状遺構と石積遺構が検出されている。溝状遺構は、堤防南端部を除き旧提体の川裏・川表法面端部に沿って検出された。石積遺構は、旧提体の川表側法面端部で上記した溝状遺構の東側の壁に南北約9.5mに渡り検出された。石積は北側半分で良好に検出され、主として15～30㎝大の礫（最大で約60㎝、最小で約10㎝）を用い、３段にわたって石を積み上げている。これに対し南側では石積が崩れ、東側に礫が散乱するように検出されており、石積の状況は判然としない。これらの遺構は、土層観察で旧提体を切って構築されている点や、川表側からも検出されていることを考慮すると、築堤当初から堤防に付随した施設とは考え難い。

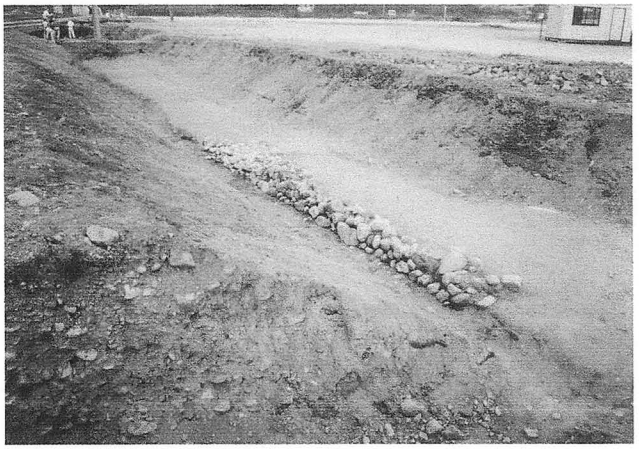
なお、八田村誌（八田村1972）には、現在の南アルプス市下高砂から徳永にかけて通称「百間堤」と呼ばれる堤防が江戸時代の天保年間に造られたと記された古文書が掲載されている。所在地がほぼ一致していることからそれに本堤防遺跡が該当する可能性があり、築堤年代や堤防の性格を知る上で重要な資料となろう。

堤防遺跡No.23（真上から）（右が北）

堤防遺跡No.23（北から）



堤防北側の断面（西から）



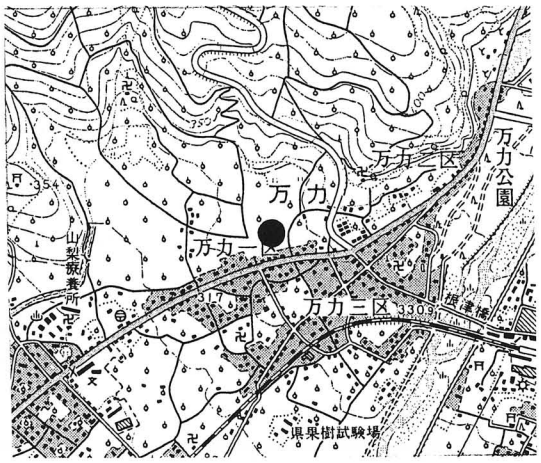
溝状遺構・石積遺構

堤防北側の断面近景（北から）

作業風景

1－5　足原田遺跡（いしはらだいせき）

所 在 地　山梨県山梨市万力851外
事 業 名　西関東連絡道路建設事業
調査期間　2004年11月11日～2005年１月18日
調査面積　約500㎡
担 当 者　田口明子・鶴田博



足原田遺跡　位置図

足原田遺跡のある山梨市万力は甲府盆地の北東縁部に位置している。東に笛吹川が南西方向へ流れ、北西方向にある棚山や兜山が冬の季節風を遮っている場所である。

本遺跡は西関東連絡道路建設事業に伴うもので、2002年10月の試掘により新たに発見され、2003年５月から11月にかけて道路建設予定地の一部分（山梨市万力950外）について本調査を行った（第１次調査）。2004年６月には第１次調査箇所の西側について試掘調査を行い（山梨市万力617-1外）、本遺跡の範囲を追加修正した。今回の調査は、追加修正した本遺跡の東側を対象にして行われた（第２次調査）。

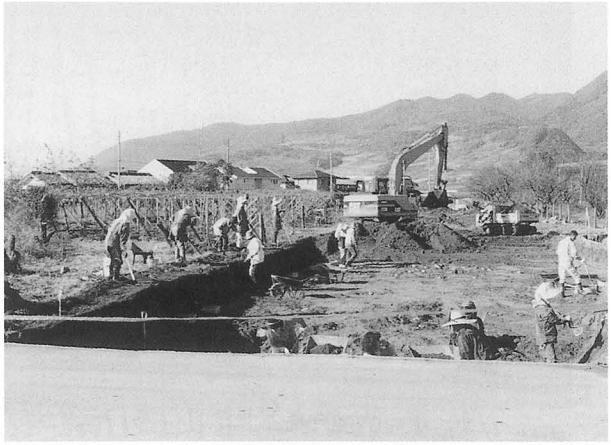
調査は重機によって表土剥ぎを行った後、人力による精査作業を行った。その結果、地表下30～80㎝程にみられる黒褐色土の層を中心に遺物が多数出土した。完形資料はなく、全てが破片であったが、平安時代の土器、古墳時代前期の土師器等が確認され、取り上げた遺物の数は3,000点を超した。

しかし、調査区全域から遺物のでる黒褐色土の層が検出されたのではなく、東側の南端から西方向に向かって調査区を横切るように径５～40㎝程の礫が堆積している様子が確認された。礫の堆積の様子から、東から西方向に向けて川が流れていたということがわかった。礫の間からも土器は出土したが、数は少なく、摩耗して小さなものが多かった。

今回の調査で住居跡を確認することはできなかったが、第１次調査では平安時代後期の住居跡が確認され、2004年の試掘では追加修正した本遺跡の西側から遺構が確認されている。第２次調査西側に位置する未調査の部分に関しては2005年度の調査となっており、今後の対応の待たれるところである。

なお、遺物は古墳時代前期の土師器、古代末から中世にかけての土器や陶磁器など、プラスティックコンテナで８箱分の出土となり、2004年度の基礎的整理作業では洗浄、注記を行った。

本年度調査区全景（上空より）（右が北東）



発掘調査作業風景

発掘調査作業風景

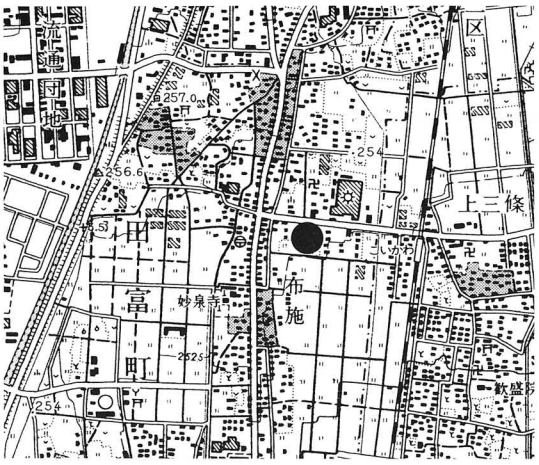
黒褐色土と礫（東より）

黒褐色土と礫（西より）

遺物出土状況（調査区東側）

遺物出土状況（調査区中央）

1－6　小井川（こいかわ）・小河原（こがあらいせき）遺跡



小井川・小河原遺跡　位置図

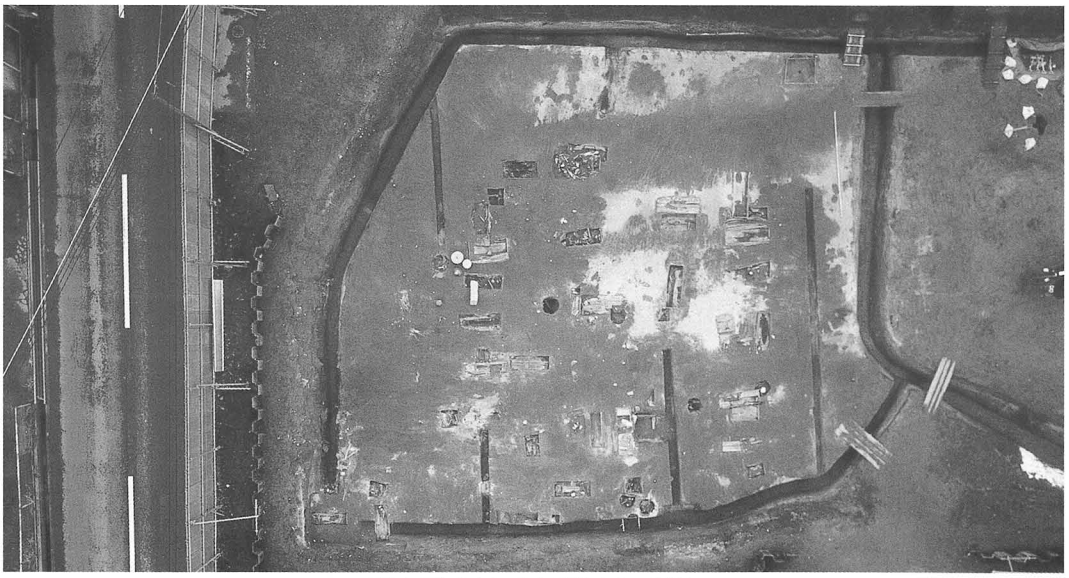
所 在 地　中巨摩郡田富町布施地内
事 業 名　新山梨環状道路建設
調査期間　2004年12月13日～2005年３月24日
調査面積　1,000㎡
担 当 者　小林広和・猪股一弘

本遺跡の存在する田富町は、甲府盆地の南部に位置し、隣接する玉穂町、昭和町とともに県下で最も平坦部の多い低地で、内陸県の山梨県では数少ない山のない町でもある。また、遺跡付近は、標高約252ｍで、西方を北から南に向かって流れる釜無川、南部を東から西に向かって流れる笛吹川によってもたらされた土砂や礫の堆積作用によって生じた沖積地、すなわち氾濫原地帯である。

調査区域は、昨年度の調査区西側約1,000㎡を調査した。低地であり地下水位も高く、釜無・笛吹両河川の合流点方向に流動するかなり圧力の高い地下水の自噴帯を予想し、昨年度同様、水路を遮断するためのシートパイルを事前に調査区の全周囲に設置するとともに、排水用の溝と水汲み上げ用の釜場を設け、水中ポンプで排水しながら発掘を実施した。

発掘の結果、調査区北部に墓地が発見された。墓は全部で116基あまり発掘され、棺は、年代、年齢、身分等の違いから桶型、正方形型、長方形型と大きく３種類に分けられ、人骨と共に副葬品も色々な物が納められている。特に故人が生前愛用したキセル、櫛、眼鏡、杖、靴、傘、トックリや杯、三途の川を渡るための古銭（六道銭）、おそらく冥土に行っても食物に不自由しないようにと納められた物の中で、胡桃が現在まで残って入っている棺が数多く見られた。年代は、江戸時代後期から大正時代と想像される。

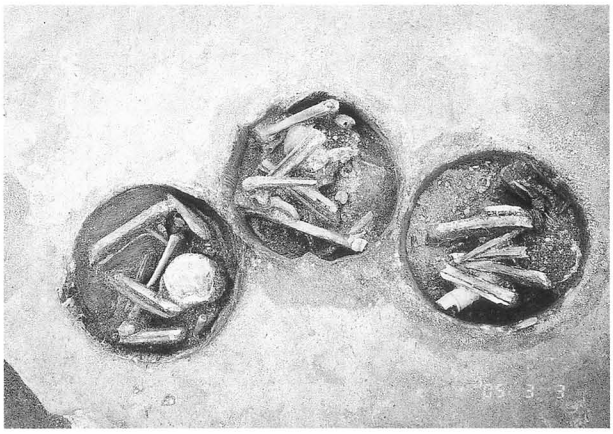
かつて、この場所には、慶昌院という寺院が存在した。この慶昌院は、玉穂町下三条にある歓盛院（本寺）の末寺であり、また明治19年（1886年）当時、無住寺（住職がいない寺）でもあった。慶昌院の檀家37名は、無住寺であるがために、葬式の度に苦労するので、同じ歓盛院の末寺である近くの法星院との合併を望み、申し出書（法星院保管）を提出し、合併した経緯がある。墓地は、いままで通り現在の場所に存続し、今回の新山梨環状道路建設に伴い、多くの墓は法星院に移動したが、江戸時代後半を中心とした古期のものに関しては、資料不足のためよく分からないままになっていたらしい。


調査区全景（空撮）（左が北）

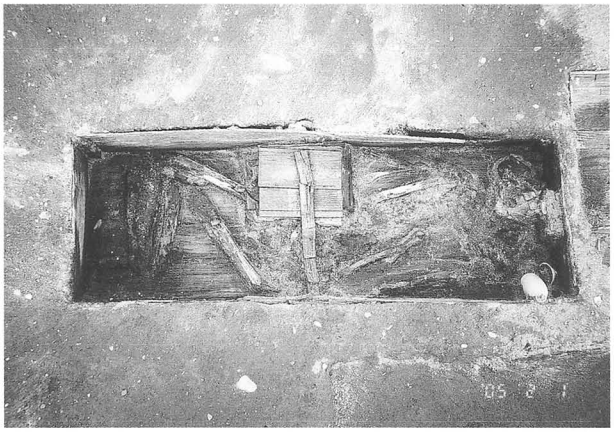
調査風景

37号墓副葬品出土状況

調査区北部墓地全景



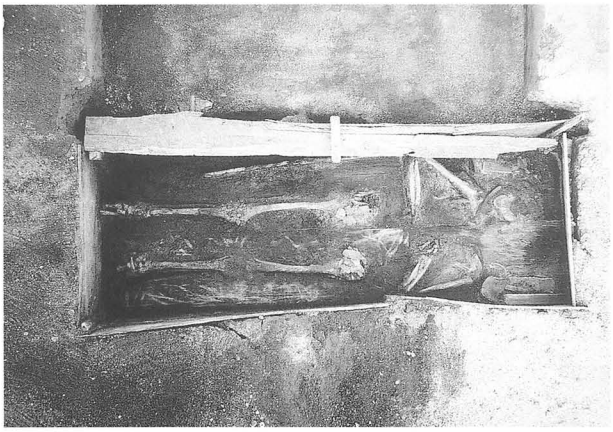
73、74、75号墓人骨出土状況



17号墓人骨、副葬品出土状況

27号墓副葬品出土状況

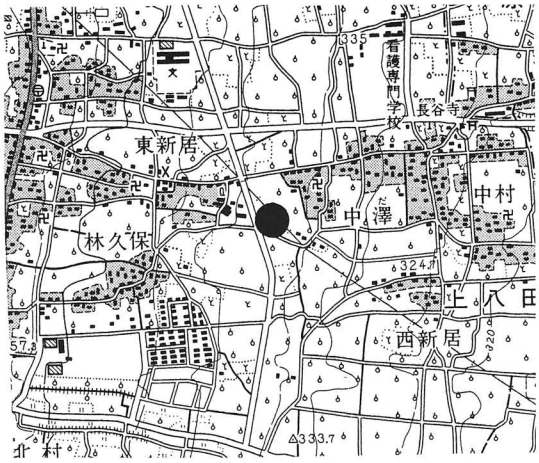
28号墓頭蓋骨出土状況



69号墓人骨出土状況

1－7　百々遺跡6（どうどういせき）

所 在 地　南アルプス市上八田829－1外
事 業 名　一般国道52号（甲西道路）改築工事、及び中部横断道建設工事
調査期間　2005年1月24日～3月7日
調査面積　500㎡
担 当 者　高野玄明・奥石逸子



百々遺跡6　位置図

百々遺跡は甲府盆地西部の巨摩山地から流れ出す御勅使川によって形成された扇状地上に立地し、南アルプス市（旧中巨摩郡白根町）百々地内、御勅使川扇状地の扇央部、標高335～340mを測る地点に所在する。

一般国道52号甲西道路の改築工事と中部横断自動車道の建設に伴い、南アルプス市（旧中巨摩郡白根町）在家塚地区から百々地区において、1998年度に山梨県教育委員会により埋蔵文化財確認のための試掘調査が実施された。これにより、南北約840mの範囲で平安時代の住居跡が確認され、工事区間約43,600㎡にわたり平安時代の大集落が埋没していることが判明した。

この試掘調査の結果に伴い、1999・2000年度の2カ年において、遺跡全体を1～5区に分けて発掘調査が実施されている。

これにより、本遺跡は発見された住居跡総数約250軒を超える平安時代の大集落であることが明らかとなった。

今回調査を行った百々遺跡6は、百々遺跡5－1区と2区に挟まれており、新たに用地取得された500㎡について、発掘調査を実施した。

発掘調査の結果、地表面から表土（土壌質 砂利層）、砂礫層、白色シルト層、黒褐色粘質土（遺物包含層）が堆積し、その下部の黄褐色粘質土が百々遺跡の遺構確認面である。今回の調査で確認された遺構は、掘立柱建物跡、溝状遺構、畝状遺構、ピットである。

また、調査区中央やや南側に、幅2.5～3m、深さ約0.6mの旧河道が東西方向に見られる。河道覆土である砂礫からは、獣骨（ウシ・ウマの歯）や、ほぼ完形に近い土師器皿等が出土している。

溝状遺構は、3条確認されており、幅約0.3～0.7m、深さ0.3mである。長さは、3号溝は1.5mであるが、1・2号溝については、検出された現状では15mを超えるが、調査区外に延びるため、全体の規模は不明である。

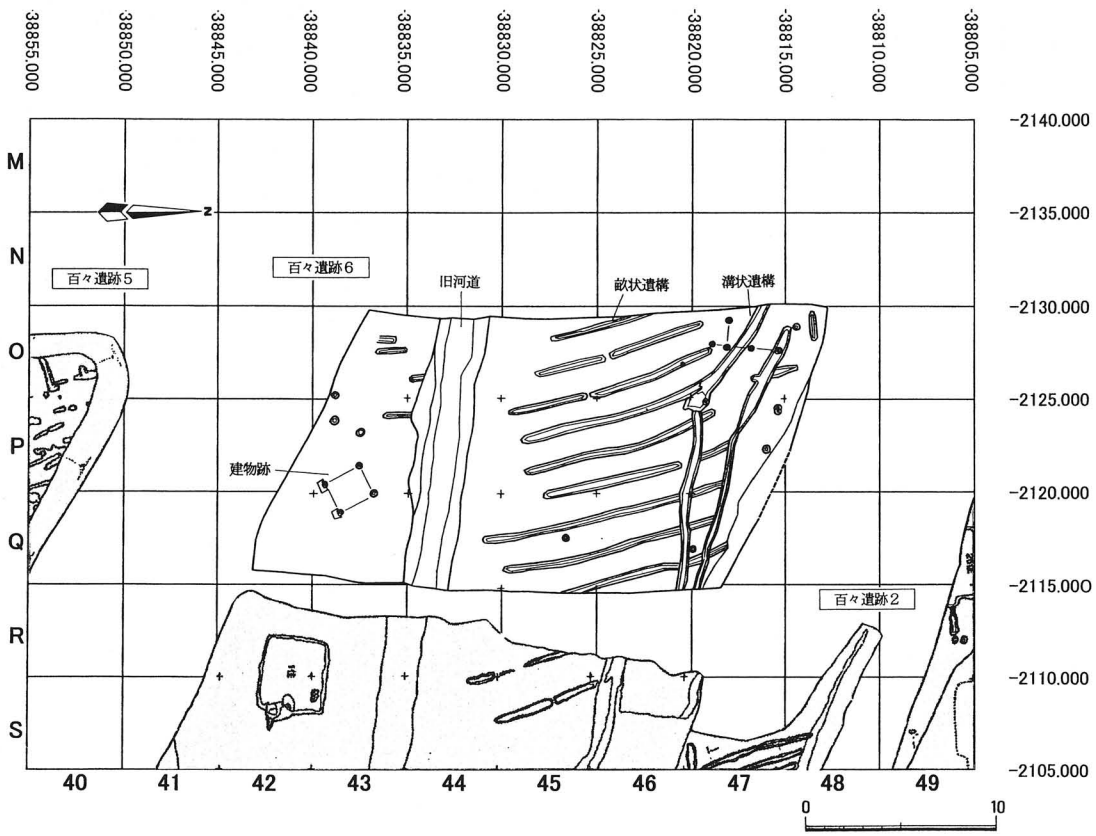
ピットは19基確認され、深さ0.1～0.5m、直径0.2～0.4mで、その内の9基（1～4号、12～15号・17号）は建物跡や柵列に伴うものと思われる。

畝状遺構は、17本確認されており、深さ0.07～0.2m、長さは短いもので2.5m、長いものは13mを超える（調査区外に伸びる為、実際の長さは不明）ものがある。いずれも南北方向にみられて、1999・2000年度の調査においてもみられた遺構である。この畝状遺構を10世紀代の住居跡が切っており、報告では古墳時代～平安時代前期のものとしているが、今回の調査では出土遺物がないため、時代・時期は不明である。この畝状遺構の用途は畑跡であると考えられ、自然科学分析の結果では、詳細なデータは得られてないものの、根菜類・豆類・野菜類の可能性が高いとしている。

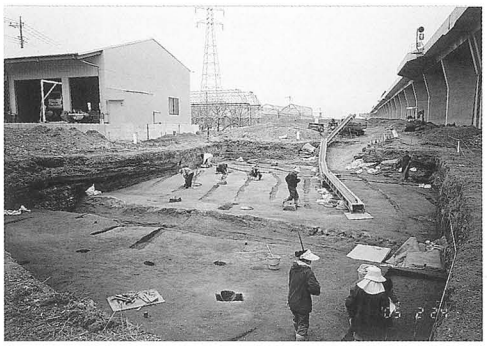
出土した遺物は、土師器皿・甕、須恵器甕胴部、把手壺肩部、長頸壺口縁部などがあるが、完形に近いものは極めて少ない。

今回の調査の結果、検出された遺構や遺物は希薄な状況を呈しており、隣接する1999・2000年度に調査された百々遺跡2区と5区においても、同様に、住居跡など少なくなる傾向が窺える。しかし、今回の百々遺跡6において、前述した遺構や遺物から、百々遺跡の性格を裏付ける貴重な資料が得られた。

これら、今回の調査結果をふまえて、百々遺跡全体の様相を再度、検討していくことが必要と考えられる。

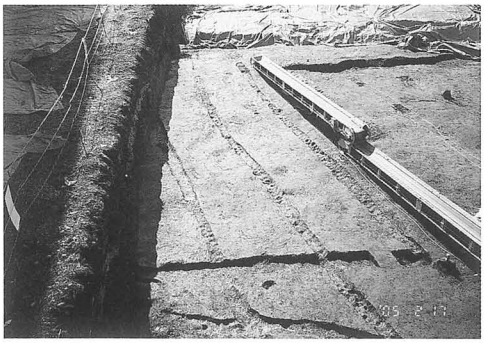


百々遺跡６全体図（Ｓ＝1/400）



作業風景

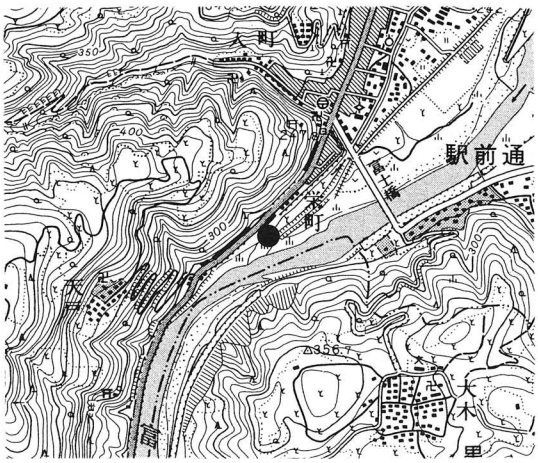
調査区全景



５・６・７号畝、１・２号溝検出状況

旧河道検出状況

1－8　鰍沢河岸跡B（口留番所跡）



鰍沢河岸B　位置図

所 在 地　南巨摩郡鰍沢町鰍沢1374－5外
事 業 名　国土交通省一般国道52号線バイパス（甲西道路）建設工事
調査期間　2005年２月28日～３月31日
調査面積　240㎡
担 当 者　保坂康夫

鰍沢河岸跡は笛吹川と釜無川の合流点のやや下流に立地し、江戸時代はじめに年貢米などの輸送のために開かれた富士川舟運に伴って設けられた船着場と問屋街、年貢米を集積する御蔵台、人の出入りを監視する口留番所などからなり、経済拠点として大いに繁栄し今日の鰍沢町発展の基礎となっている。甲西道路建設に伴っての発掘調査は2000年度から継続しているが、今回は調査地域の最南端に位置する口留番所跡比定地の調査である。

鰍沢における関所は、穴山信君が金丸平八郎（武田氏重臣土屋右衛門尉）にあてた書状の中に鰍沢に関所があることを推定させる記述があることから、すでに中世末から存在したと思われる。しかし、『甲斐国志』によると旧来は鰍沢町小室にあったとされることから、鰍沢宿駅の設置や富士川舟運が開設される慶長年間に現在の推定地に移転した可能性が考えられている。

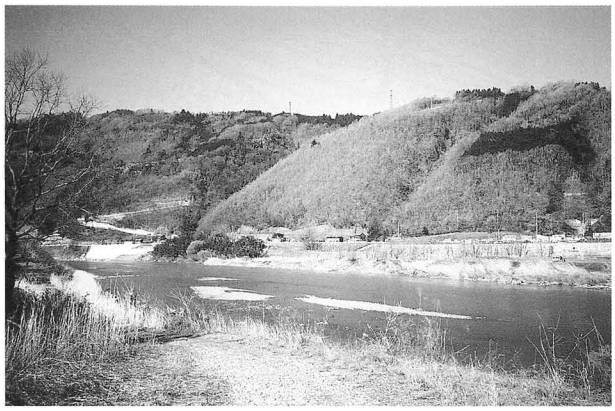
規模については、「宝暦十三年（1763年）、御役人引替之節、書上書」（鰍沢町役場蔵）に、「一御関所御門　但東西矢来かこい壱ヶ所・一口留御番所　但弐間五間」とある。また、「尤（もっと）モ一日昼ハ上番壱人、下番弐人、夜ハ上番壱人、下番弐人ツヽ、大通之節ハ八人ツヽ昼夜相勤、夜ハ油火ヲ焼申候」とあり、番人は鰍沢村の村請けで、毎日昼夜上番人１人、下番人２人が交代で勤めていた。上番人は関所番の責任者で、下番人は上番人の下働き役である。寛政４年（1792年）の「口留番所前々引付覚」（『口留番所一件』）には、「百姓番人弐人づヽ、番所　弐間梁四間、門　高壱丈弐尺明九尺、左右柵高七尺五寸左拾間右弐拾四間半、置物　突棒・指俣・鋸（もじり）壱本宛・棒五本・早縄壱筋づヽ」とある。番所は２間４間の建物１棟、駿州寄りに往還をまたいで関門があり高さ3.6m、門の出入口の幅が2.7m、その西の山ぎわ（右）まで18m、東は富士川端まで44.1mにわたり、高さ2.25mの矢来（柵）が備えられていた。

明治２年（1869年）３月２日、明治政府は諸道の関門廃止を布告し、口留番所としての機能を失った。

今回の調査では、南北方向の石垣が３列みられ、それぞれの石垣西側に平坦面が存在した。平坦面を掘り下げたところ、中央部の平坦面から礎石７個が残存する、推定２間４間の礎石建物跡が１棟検出された。周囲から文久永宝を中心とする銭や泥メンコ、磁器等が出土し、幕末頃の建物と思われる。

石垣が口留番所のものとすると、敷地の東辺を構成するものということになる。現存する古絵図によると、番所建物は西側の山際に描かれ、その東側が空き地となり東縁に矢来がめぐっている。こうした配置からすると、今回の調査地点は矢来と空き地とによって構成される部分と推定される。検出した建物跡は、口留番所が廃止された明治２年直後に建設された建物の可能性を考える必要がある。

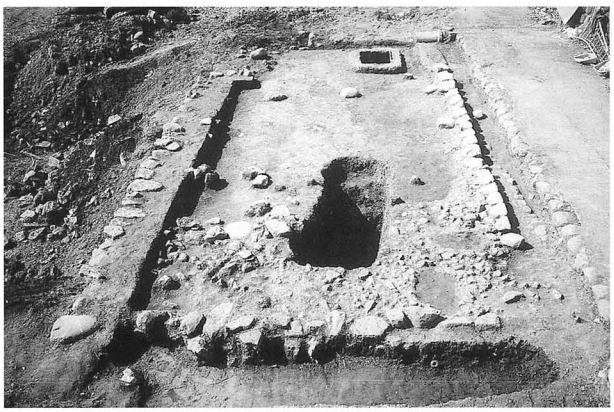
３面の平坦面は北側のものが最も広く、南側ほど順次狭くなっている。さらに掘り下げたところ、北端の平坦面の大半はかなり新しい時期に造成されたもので、西端部に埋められた古い硬化面が埋没していることが判明した。硬化面には立木の根が着根状態で残存していた。中央部の平坦面では、礎石建物が乗る面よりもさらに古い造成面が埋もれていることが判明した。その調査は、次年度に実施予定である。



調査地点遠景

調査区全景と作業風景

調査区北半分作業風景



礎石建ち建物跡検出風景

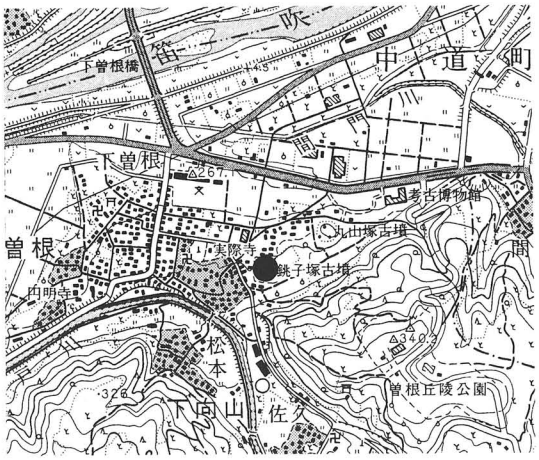
礎石建ち建物礎石配列状況

礎石建ち建物玉石敷き遺構

2．整備事業に伴う調査

2－1．国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳（くにしていしせきちょうしづかこふんつけたりまるやまづかこふん）

所 在 地　東八代郡中道町下曽根字山本地内
事 業 名　史跡整備事業
調査期間　2004年９月21日～２月５日
調査面積　650㎡（調査対象面積5,000㎡）
担 当 者　森原明廣・森屋文子

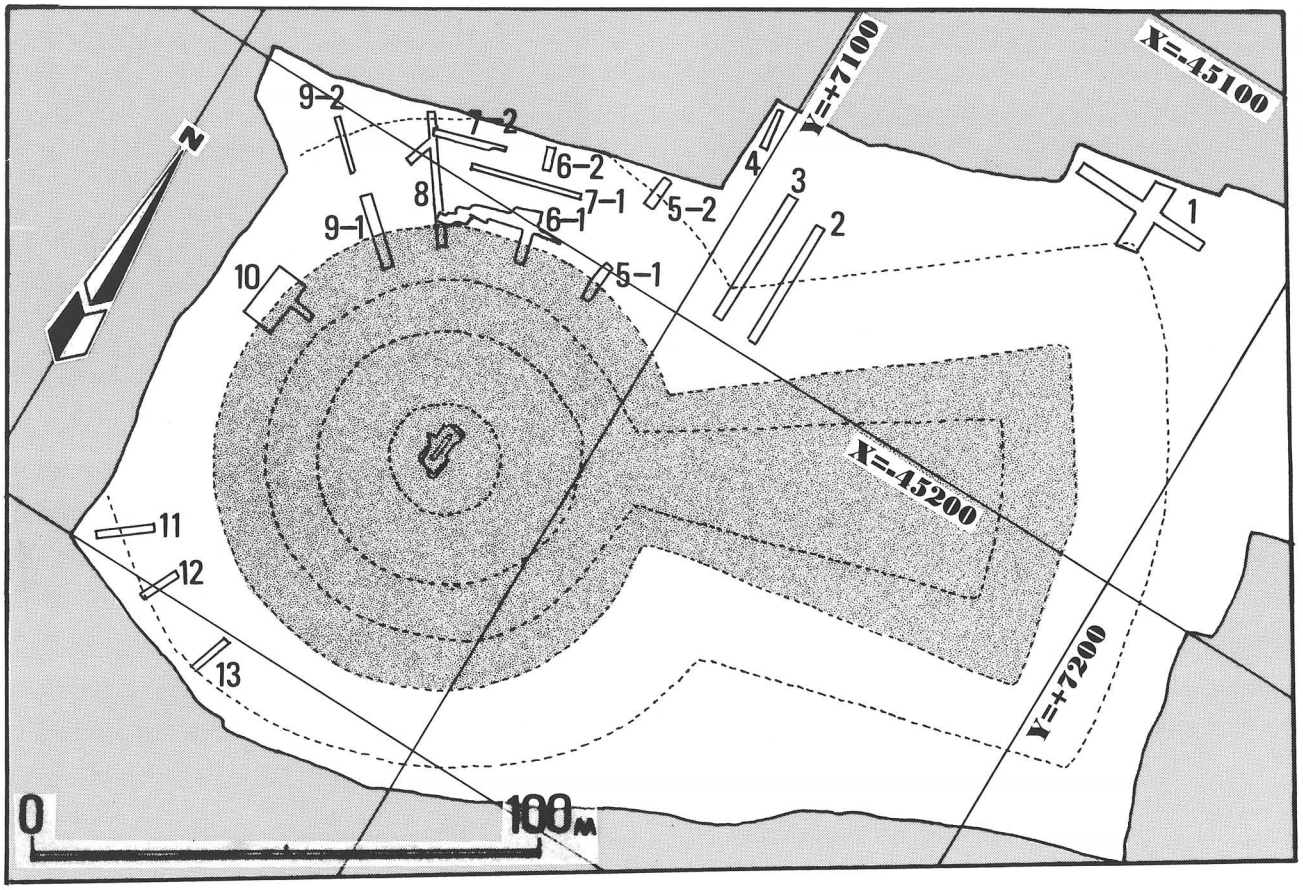


銚子塚古墳　位置図

銚子塚古墳は、甲府盆地の南端、曽根丘陵の裾に立地する、４世紀後葉の全長169ｍの前方後円墳で、東に隣り合ってやや遅れて築造された丸山塚古墳とともに、昭和５（1930）年に国史跡となっている。

昭和49（1974）年に甲斐風土記の丘の基本構想が策定され、県教委が事業主体となっての用地取得と整備を柱とする事業がスタートした。昭和52・53年度の公有地化事業で、指定地の80％超が取得されたことから、58年度より整備のための確認調査が進められ、62年度までに第１次整備が終わっている。その後、段階的に残りの指定地の公有化が進められ、平成15年度までに約98％に達したことを受け、第２次整備を実施することとなった。

今回の試掘確認調査は、この２次整備のための基礎的データを収集することを目的として実施に至ったものである。試掘トレンチの配置は下図のとおりであるが、今後の整備に向けての課題ともなる成果については、各トレンチごとの状況をまとめて次のように整理される。



16年度試掘坑配置図

①後円部北側端部における「突出部」の検出

従来知られるところでは均整のとれた前方後円形後の古墳だが、今回新たに後円部北側の墳丘端から周溝内へステージ状に張り出る「突出部」があることが確認された。約30mの範囲で約6mの張り出しが認められたもので、これまで東日本の古墳時代前期の古墳には、このような遺構の類例は見られず、その性格については確定しがたい。

②周溝内で堤や階段状の段差を確認

後円部北側の周溝底面からは、地山を削り出す手法による「周溝区画堤」と呼ぶにふさわしい土手状の遺構が確認されている。また付近の周溝底面には階段状の段差が設けられるなど、部分的な確認ながら銚子塚古墳の周溝は、複雑な構造をしていることが判明してきた。

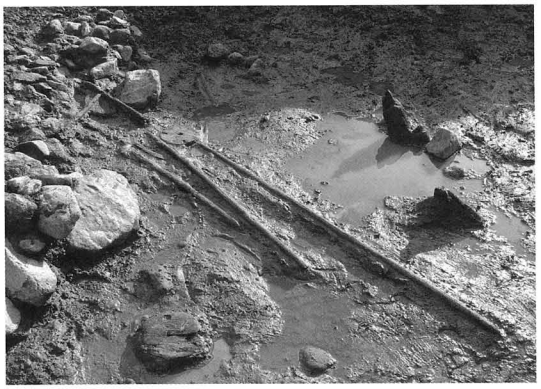
③墳丘端部における木柱や祭祀関係木製品

後円部北西側の墳丘端部において、直径80㎝、深さ70㎝の土坑内に、表面を手斧削り状に面取り整形された、直立する木柱が確認された。木柱は径20㎝で、現存長は90㎝を測り、下端は切断調整されているが、上端は折損した状況で、土坑底から垂直に据え付け、周囲を人頭大の礫を詰めて突き固めている。据え付け面から20㎝程度出た状況が確認されているが、柱の太さなどから勘案して数メートル規模の立柱であったと推定される。その用途は明らかにし得なかったが、祭祀の一端に関わるものと理解される。また木柱の確認された周辺の周溝底面からは、加工された木材（円盤状木製品や棒状木製品など）が集中的に出土しており、さらにやや離れた地点からは「笠形木製品」も出土した。これらの木製品は、多くが「木製樹物」と呼ばれる「木でできた埴輪」に相通じるものと考えられ、葬送儀礼につながる木製品と考えられる。

今回の銚子塚古墳の整備のための調査では、重要なデータが数多く得られ、今後の史跡整備に十分活かされるべきものであるにとどまらず、古墳時代の山梨を考える上で重要であることはもとより、東日本における前期古墳のあり方や畿内との関係などを再考する契機となっていく可能性を包含している。

突出部の状況（6号トレンチ）

木柱の検出状況（10号トレンチ）

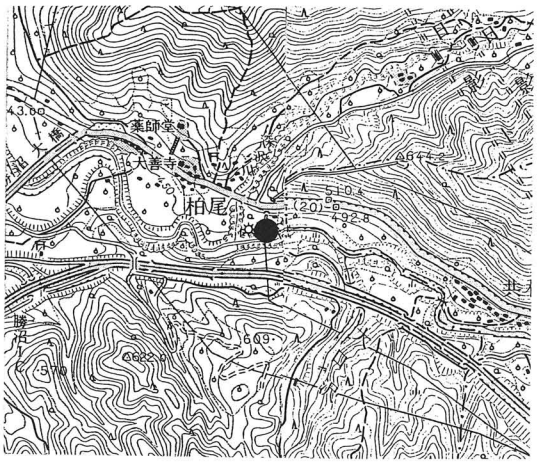


木製品出土状況（10号トレンチ）

同上の近接

2－2．登録有形文化財　勝沼堰堤（とうろくゆうけいぶんかざい　かつぬまえんてい）

所 在 地　東山梨郡勝沼町勝沼3466－２外
　　東山梨郡大和村初鹿野2804－３外
事 業 名　勝沼堰堤公園整備事業
調査期間　2004年８月２日～11月30日
調査面積　約2,200㎡
担 当 者　田口明子・鶴田博



勝沼堰堤　位置図

今回の発掘調査は、勝沼堰堤公園整備事業に伴い、堰堤の上にあった葡萄畑の砂や堰堤北側の崖際に堆積している砂礫を除去し、堰堤の残存状況や構造の把握など、整備に向けての資料を得る作業を中心に行った。

勝沼堰堤は甲府盆地東縁部の東山梨郡勝沼町と同郡大和村の境に位置し、日川の中流域に建設された砂防堰堤である。日川は古来より洪水の多い川であるが、中でも明治40年（1907年）、同43年（1910年）の洪水は流域の住民に甚大な被害をもたらした。他府県でも同様の被害が生じた結果、政府は臨時治水調査会を設置し、第１次治水計画を策定するに至った。その中で富士川流域は第１期河川とされ、翌44年（1911年）から勝沼町地点の日川中流域において水制工事が内務省直轄工事として行われ、継続事業として大正４年（1915年）から上記箇所において堰堤建設が開始された。

工事の内容は、河川の蛇行部を２カ所の石垣（上流側を川表石垣、下流側を川裏石垣という）で締め切り、それぞれの石垣の基礎にコンクリートを入れ、岩盤を削って新たに直線的な水通を作り、削った土砂を上記石垣の間に入れてから石を張るというもので、大正６年（1917年）３月に竣工した。また、同年７月からの補修工事では、川表石垣より川側に土囲をつくり、その間を土砂で埋め立ててから石を張ったほか、川表石垣に目地が施されたという記述もある。

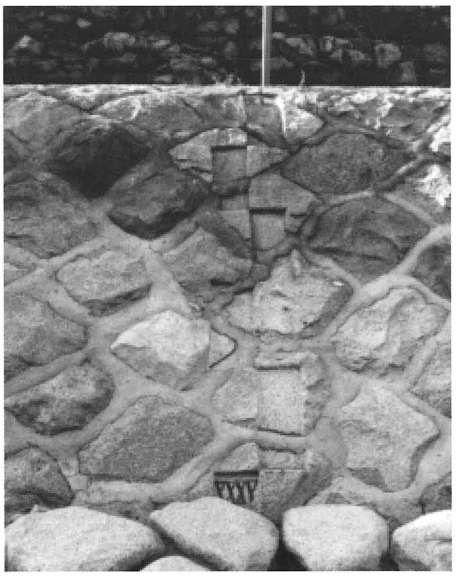
発掘調査は、重機で堆積した砂や礫を取り除いた後、石を敷いた堰堤の姿を人力により露出させた。川表石垣側からは、調査前にみえていた石垣とそこから川側に一段下がった石張、さらにもう一段下がっていこうとする石張を露出することができた。目地は川表石垣に施されているが、石垣全面にあるのではなく、川側の法面（調査前に確認されていた）と馬踏部の一部のみにすぎないことがわかった。また、目地の施工方法から石積みの新旧をみると、調査前にみえていた石垣が建設当初のもので、川側の石張は補修工事のものであることがわかった。さらに、建設時のレベル標識を確認することができ、現状では馬踏部に40尺を示す「ＸＬ」とその下に35尺を示す「ＸＸＸＶ」をみることができる。右岸にある不整六角形をした物見台の南側面に銘板があり、そこには川表石垣の基礎にコンクリート根固が設置され、その頂面からの高さが40尺と記されている。

川裏石垣側では、石垣の西側から『土木學會誌』第８巻第５号（大正11年（1912）10月）の附図には掲載されていない石張の溝を確認することができた。当時の附図に記されている溝から一段下がったところに上記の溝があり、川裏石垣沿いに石が敷かれ、更に一段下がって川の方へ向かっていくことが明らかになった。石が敷かれた時期は不明であるが、大正後期に堰堤の西側にできた甲府電力の発電所と何らかの関係があったものと考えられる。また、『水利と土木』昭和12年（1937年）９号の口絵に掲載された勝沼堰堤の写真からは上記の溝が写っていることから、その頃までにはできていたことがわかる。

両石垣間の石張は径25～70㎝の石が敷かれており、日川上流域の花崗岩が使われている。割石が多く、中にはドリル痕や矢穴が残っているものもある。また、堰堤東側にある葡萄畑との境と北側崖際の２カ所から、当時の図面に記されていた溝を露出することができた。溝の底には石張が施されており、北側崖際の溝では石張が岩盤に接し、一部に目地が施されていることが明らかになった。溝は石張の北側にある岩盤に沿って作られており、今回の調査で溝の一部を確認したことにより、堰堤の範囲を確定することができる。

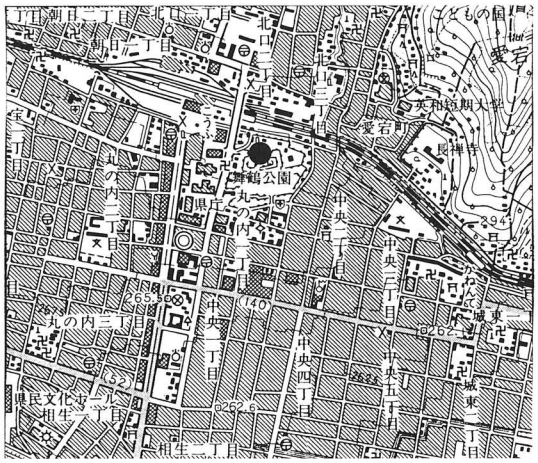
全景（上空より）（上が北）

石張と溝（北西側）



レベル標識（川表石垣）

2－3　県指定史跡甲府城跡関連事業



甲府城跡　位置図

所 在 地　甲府市丸の内１丁目地内
事 業 名　舞鶴城公園整備事業
調査期間　４月１日～３月31日
担 当 者　宮里学・楠間美季江・西海真紀

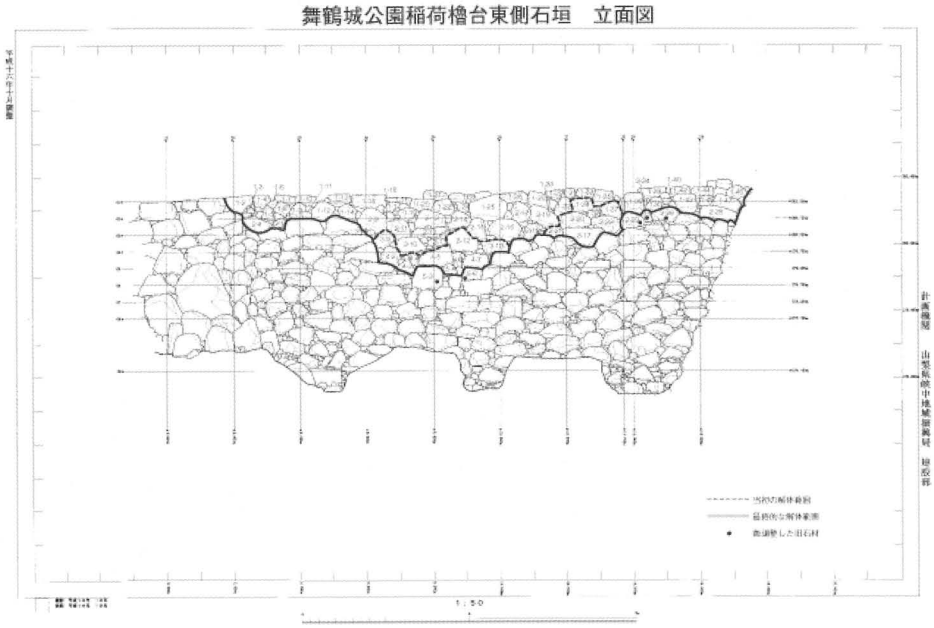
県指定史跡甲府城跡では、平成２年度から県土木部が実施する「舞鶴城公園整備事業」として園路・広場、電気・給配水・便益施設等の整備や鍛冶曲輪門、稲荷門、内松陰門、稲荷櫓の復元に連動した発掘調査、石垣改修工事等を実施し、本年で15年目をむかえた。

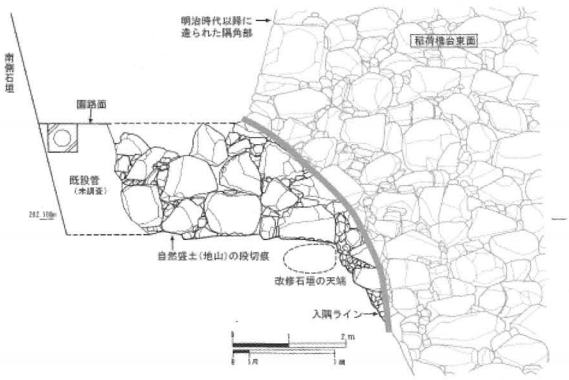
本年度は、４月９日に甲府城跡調査検討委員会を開催し、稲荷櫓の周辺整備および整理作業について指導・助言を受けたうえで、平成２～15年度までの調査・整備内容を総括的に報告する『県指定史跡甲府城跡』の整理作業を中心に進め、刊行した。また、本年度に実施した石垣改修工事および園路・広場整備などに関する『県指定史跡甲府城跡平成16年度石垣改修工事調査報告書』を刊行したほか、峡中地域振興局建設部が製作する甲府城稲荷櫓建設工事ＤＶＤ『復元稲荷櫓』～伝統工法への挑戦～を監修した。

本年度の石垣改修工事は、石垣石材の残石や資材の保管場所となり未整備であった甲府城跡北東側（稲荷櫓東側）の児童公園とその周辺を対象にした整備事業の中で、天端石に極端な孕み出しと石材の崩落の危険性を持つ甲府城築城期の野面積み石垣が存在しており、県土木部と県教育委員会は協議のうえ、公園開放に伴う安全の確保と、文化財としての石垣の保護という２つの目的から石垣の改修工事を実施した。

石垣の孕み出しは、当該石垣の中央部天端付近と築石部がもっとも激しく、東側と西側の天端付近にあることが事前調査で確認された。解体調査の結果、当該地点の石垣構造は自然盛土（地山）を切土し、そのノリ面に石垣を構築したもので、裏栗石幅は0.5ｍと非常に狭い構造と判明した。さらに、自然盛土からは湧水が認められ、特に孕み出し部分の背面は湧水の影響を受けて裏栗石が目詰まりを起こしており、これが孕み出しに影響していると判断できた。解体した旧石材は71石で、最終的な新補石材は13石である。旧石材破損の主要原因は割れと亀裂であった。そのほかに、稲荷櫓公開に伴う周辺整備、公園内の園路等の整備工事に関連する立ち会い調査を継続的におこなった。

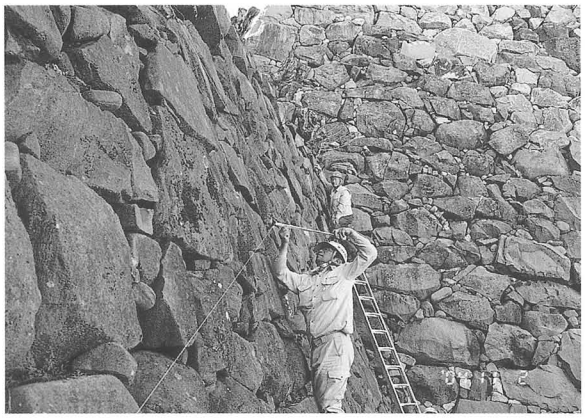
舞鶴城公園稲荷櫓台東側石垣　立面図





検出された石垣立面図（濃い部分）

検出された石垣（東より）



事前調査における孕み出し状況の実測

解体調査のようす

モッコによる裏栗石の投入

石垣改修後

甲府城跡調査検討委員会のようす（4．6）

整理作業のようす

3．分布調査

3－1　山梨県内中世寺院分布調査（やまなしけんないちゅうせいじいんぶんぷちょうさ）

所 在 地　山梨県内一円
事 業 名　国補詳細分布調査
調査期間　平成16年度～20年度
調査面積　※資料調査のみ
担 当 者　森原明廣・森屋文子

事業目的

この事業は、山梨県内に残る中世に存在した寺院について、遺構としての視点から、悉皆的な分布調査により実態の把握を進め、文化財としての位置づけを見極めようとする課題に基づくものである。調査手法等にまだ未開拓な部分があるため、ある程度の期間をもって取り組むものと考え、５ヵ年計画により県下全体を対象とし、効果的な試掘確認等も交えた詳細分布調査としていくものである。

初年度の事業概要

初年度としての16年度事業は、調査の具体的な進め方についての検討作業、基礎資料を集約するカード作成などを内容として実施した。

調査の開始に当たって、「山梨県内中世寺院分布調査実施要綱」（平成16年５月13日施行）により、16～20年度の年次計画を策定し、県内をＡ～Ｉの９エリアに分割して調査を実施する方向を定めた。

また調査方法等の検討やその成果の検証・評価ための調査検討委員会を設置し、併せて県内全域の市町村教育委員会と共同で調査を実施することとして、「山梨県内中世寺院分布調査検討委員会設置要項」並びに「山梨県内中世寺院共同調査員設置要項」を平成16年５月26日付けで施行した。

調査検討委員会については、次の日程で開催し、特に第２回の委員会終了後には、共同調査員も交えての調査手法などの確認や調査検討委員の専門分野についての研修などを行なった。

第１回　平成16年７月23日（金）15時～　山梨県民会館402会議室
第２回　平成16年10月19日（火）10時～　風土記の丘研修センター会議室
第３回　平成17年３月16日（水）13時30分～　山梨県民会館403会議室

本年度の調査は、今後の調査の基礎となる文献資料の調査・整理を主たる内容とし、補足的な現地踏査も実施した。基礎的文献資料調査については、『甲斐国志』および『甲斐国社記・寺記』に記載された内容（寺院名、所在地、山号、宗派、本末関係、開基・開山人名など）を整理し、その他の文献（市町村誌史など）や各地域のカー承・伝承から得られる情報との統合整理を図るためのカード化作業も並行して実施した。

山梨県内

中世寺院分布調査事業

山梨県教育委員会では県内に残る中世寺院の保存・活用を図るための調査を実施しています。

山梨県教育委員会では、平成16年度から5ヵ年計画で「山梨県内中世寺院分布調査事業」を開始しました。この調査は、山梨県内に約3,000ヶ所近く残っていると考えられる中世のお寺について、その場所や歴史をできるだけ明らかにし、将来に向けて保護・活用するための基礎にすることを目的としています。 それでは、なぜ今、"中世のお寺"の調査が必要なのでしょうか。

山梨県教育委員会では、埋蔵文化財の保護の対象とする時代の範囲として「おおむね中世までの遺跡」とすることを原則としています（山梨県教育委員会「山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項」平成12年4月1日施行）。

中世とは今から約900年前から400年前頃（鎌倉時代～安土・桃山時代頃）を指し、戦さや争いごとが絶えない不安定な時代であったと言えます。中世に属する遺跡には城郭（お城・館・烽火台）や町・村跡など様々なものがありますが、忘れてならないのが「寺院」つまり「お寺」です。中世のお寺は町や村の中心として栄えた場合が多く、また人々の心の拠りどころとなった場合も多いため、中世の社会や人々の暮らしを探るために欠くことのできない文化財であると言えます。

山梨県内には約3,000ヵ所近くの中世の寺院があると考えられていますが、そのほとんどは埋蔵文化財包蔵地（遺跡のある場所）として把握されておらず、日々損なわれつつある非常に残念な状態にあります。中世の社会や暮らしを明らかにするための遺跡としての中世寺院を一刻も早く保護し、活用できるようにするために、この「山梨県内中世寺院分布調査」事業を進めてまいります。

山梨県内中世寺院分布調査は、広く県民の皆様からのご協力を得ながら進める必要があります。資料提供や発掘調査へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

山梨県内中世寺院分布調査事業は、平成16年度から20年度までの5カ年事業として実施します。

現地調査は平成17年度から19年度の3カ年で、県内全域をAからIの9エリアに分割して行います。

調査年次	エリア名	市町村名	調査内容
平成16年度	A～Iエリア	県内全域	基礎的データ整理
平成17年度	Aエリア 東八代エリア	笛吹市・中道町・芦川村	分布調査・発掘調査
	Bエリア 峡中エリア	甲府市・甲斐市・玉穂町・昭和町・田富町・豊富村	
	Cエリア 峡東エリア	塩山市・山梨市・勝沼町・大和村	
平成18年度	Dエリア 峡北エリア	韮崎市・北杜市・小淵沢町	分布調査・発掘調査
	Eエリア 峡中エリア	南アルプス市	
	Fエリア 峡中エリア	増穂町・鰍沢町・早川町・身延町・南部町	
平成19年度	Gエリア 峡中エリア	上九一色村・三珠町・市川大門町・六郷町	分布調査・発掘調査
	Hエリア 峡中エリア	富士吉田市・都留市・道志村・西桂町・山中湖村・忍野村・富士河口湖町・鳴沢村	
	Iエリア 峡中エリア	大月・上野原・小菅・丹波山	
平成20年度	A～Iエリア	県内全域	報告書作成・刊行

山梨県内中世寺院分布調査の方法

山梨県内中世寺院分布調査事業は5カ年を要する事業です。
調査は平成16年度の基礎的な文献資料調査から始まりましたが、平成17～19年度には発掘調査などを含む現地調査がいよいよ始まります。調査の結果については、平成20年度に『分布調査報告書』として出版される予定になっています。

調査方法や調査成果については、中世研究をご専門とされる各委員から構成される「山梨県内中世寺院分布調査検討委員会」にご検討いただくとともに、ご意見をいただきながら進めています。
また、今回の調査は、山梨県教育委員会と県内各市町村教育委員会が共同で実施することとなっており、「山梨県内中世寺院分布調査共同調査員会議」として組織されています。これは、各地域の調査をより詳細なものとするためであり、確認された中世寺院をすみやかに保護できるようにするためでもあります。

調査は、文献調査や現地調査などを複合的に組み合わせて実施しています。
平成16年度には基礎的な文献となる『甲斐国志』や『甲斐国社記・寺記』などに記載された寺院に関わる記載を整理し、現地調査に備えた「調査カード」を作成しています。これらをベースに、各地域に残る様々な伝承や記録を加えながら、中世寺院の所在に関わる情報を蓄積していきます。さらに、現地調査では、各地域に残る中世寺院に関わる古文書や伝承などを調査し、併せて寺院跡の踏査や測量作業などを実施します。
また、必要に応じて考古学的な発掘調査も実施し、出土品や検出遺構などから寺院の所在有無や存続時期などを確認していきます。

この事業に関わる情報のご提供やご質問等は下記までお願いします。

山梨県埋蔵文化財センター　資料普及課
〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曽根923
電話:055-266-3016　FAX:055-266-3882
E-mail:maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

山梨県内中世寺院分布調査事業
発行日:平成17年3月31日発行
編　集:山梨県埋蔵文化財センター
発　行:山梨県教育委員会
印　刷:株式会社 少国民社

中世寺院分布調査事業パンフレット

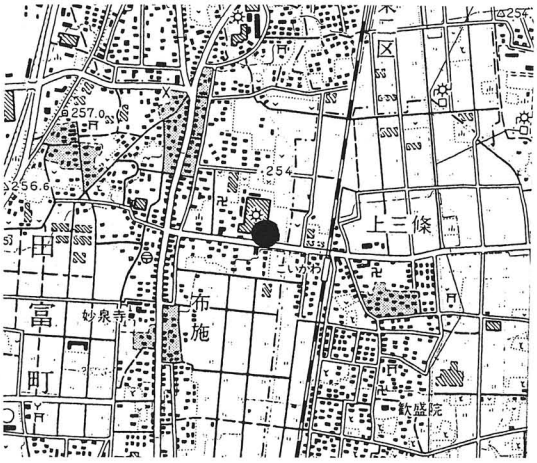
山梨県内には約3,000近くの「中世寺院」があると考えられています。これらの中には、現在も続くお寺がたくさんありますが、中にはすでに地中深く埋もれてしまったものも数多くあります。
今回の調査では、これらすべての「中世寺院」について調査の対象とします。皆さんのお住まいの近くにも「このあたりにお寺があった」とか「古い瓦や石塔が出てきたことがある」などの言い伝えはありませんか? もしかするとその場所には「中世寺院」があったのかも知れません。県教育委員会では、皆様からの情報をお待ちしております。

事業概要をPRするパンフレット

4．県内分布調査

4－1　新山梨環状道路建設に伴う試掘調査

所 在 地　中巨摩郡田富町布施358外
調査期間　2004年５月11日
調査面積　51.36㎡（調査対象面積　約2,600㎡）
担 当 者　田口明子・鶴田博



試掘調査　位置図

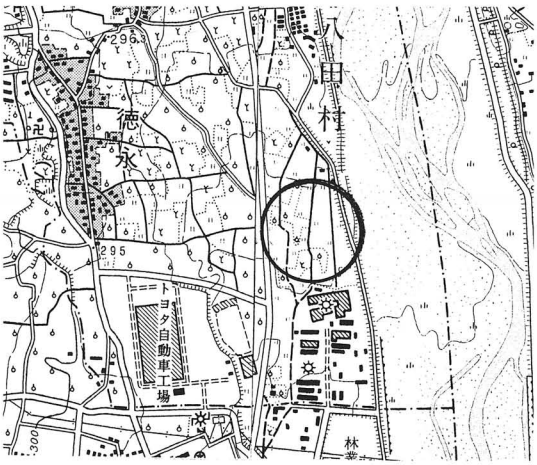
調査対象区域は中巨摩郡田富町布施地内で、新山梨環状道路建設予定地となっている区域である。また、近接する区域には小井川・小河原遺跡があり、2003年度に本調査が実施された。

今回の試掘調査では、トレンチの掘削を平爪使用のバケットを装着したバックホーを用いて慎重に行い、その後、人力によるトレンチ内の平面及び断面観察によって埋蔵文化財の有無の確認をおこなった（トレンチは２本あり、トレンチ１は長さ11.6m×幅1.6m、トレンチ２は長さ20.5m×幅1.6mである）。

土層を観察すると、両トレンチともにコンクリート（５㎝）の下は70～80㎝の盛土と65～70㎝の砂層が確認され、その下に厚さ10㎝ほどの黒褐色シルト層（植物繊維を多く含む）がみられた。しかし、遺構、遺物を確認することはできなかった。

4－2　総合交通センター移設に伴う試掘調査（堤防遺跡№23）

所 在 地　南アルプス市下高砂835外・徳永1,401外
遺 跡 名　（釜無川堤防跡群）堤防遺跡№23
調査期間　2004年５月17～28日
調査面積　1,549㎡（調査対象面積56,000㎡）
担 当 者　高野玄明・輿石逸子



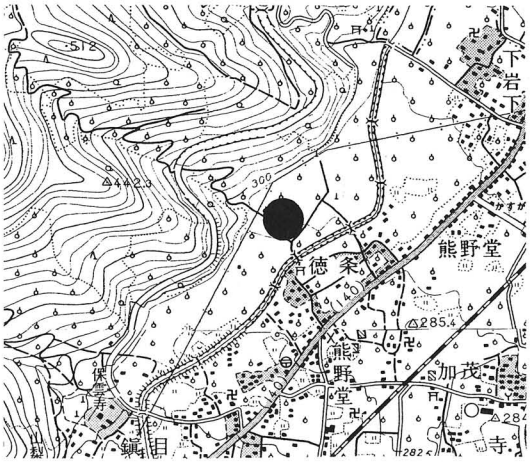
試掘調査　位置図

事業予定地内に釜無川堤防跡群の一つである堤防遺跡№23が存在しており、本調査対象となっているが、それ以外の部分について重機により掘り下げを行い、53本のトレンチを設定し、人力による精査を行い土層堆積状況と遺構、遺物の有無を確認した。

その結果、ほとんどのトレンチでは、砂層及び礫層の厚い堆積が認められ、数本のトレンチから、褐色粘土層の堆積も見られたが、極めて薄い状況を呈しており、遺構・遺物の検出には至らなかった。このため、現存する堤防部分について本調査の対象とした。

4－3　西関東連絡道路建設に伴う試掘調査（上町田遺跡）

所 在 地　笛吹市春日居町鎮目1135－１外
遺 跡 名　上町田遺跡
調査期間　2004年６月16日
調査面積　193㎡（調査対象面積2,700㎡）
担 当 者　高野玄明・輿石逸子

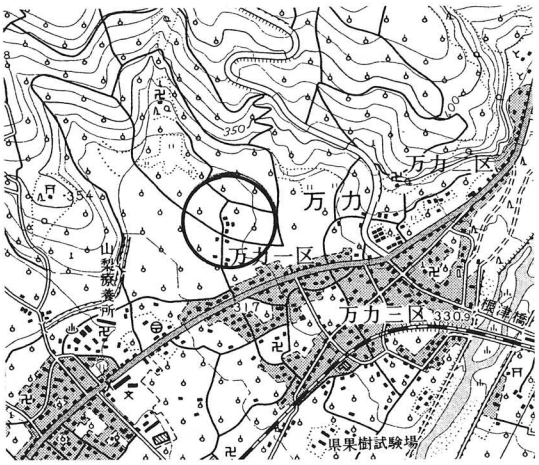


試掘調査　位置図

道路用地内に、重機により８本のトレンチを設定し、人力による遺構、遺物の確認を行った。その結果、表土が（耕作土）0.2～0.6m、その下部に0.3～0.7mで地山である黄褐色砂礫層がみられる。６～８号トレンチにおいて、地表下0.2～0.5m程に黒褐色粘質土が見られ、この黒色土中に摩滅した平安時代の土器片が数点みられたものの、遺構の存在は確認できなかった。

4－4　西関東連絡道路建設に伴う試掘調査（足原田遺跡）

所 在 地　山梨市万力617－１外
遺 跡 名　足原田遺跡
調査期間　2004年６月17～22日
調査面積　418㎡（調査対象面積7,200㎡）
担 当 者　高野玄明・輿石逸子

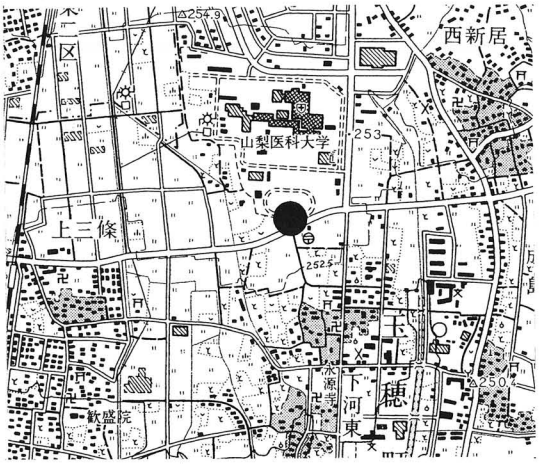


試掘調査　位置図

道路用地内に、重機による22本のトレンチを設定し、人力による遺構、遺物の確認を行った。その結果、表土は（耕作土）0.1～0.3mで、１～４号トレンチでは地表下0.7～1.2m程に見られる黒褐色粘質土があり、遺物が少量みられたものの、遺構の存在は全く見られなかった。しかし、５～22号トレンチにおいて地表下0.25～0.75m程に見られる黒褐色粘質土から平安時代の土器片、古墳時代前期の壺形・甕形土器を中心とした遺物や、住居跡等の遺構が存在することが確認できたため、道路事業地内の3,200㎡について本調査の対象とした。

4－5　新山梨環状道路建設に伴う試掘調査（平田宮第２遺跡）

所 在 地　中巨摩郡玉穂町下河東外1710外
遺 跡 名　平田宮第２遺跡
調査期間　2004年７月13日
調査面積　61㎡（調査対象面積450㎡）
担 当 者　高野玄明・輿石逸子

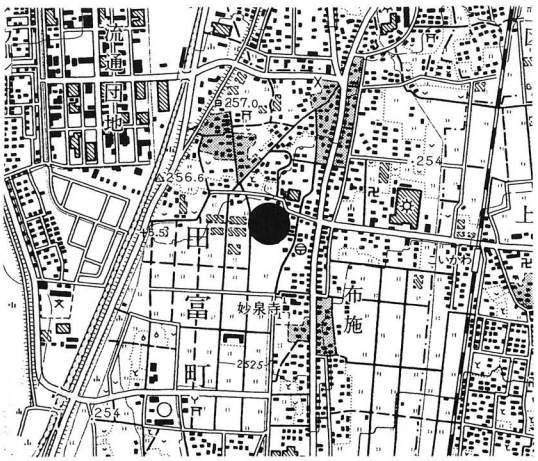


試掘調査　位置図

道路用地が山梨大学医学部グラウンドにかかるため、グラウンド内に２本のトレンチを設定し、重機による掘削を行った。調査の結果、グラウンド造成盛り土下部2.5～2.9mには、玉穂町教委が土地区画整理事業に伴い発掘調査を行った平田宮第２遺跡（調査地に隣接）の遺構確認面である灰暗褐色粘質土層が、両トレンチから見られたが、湧水による土砂崩落のため綿密な調査ができなかったことから、同事業に伴う工事前に本調査が必要である。

4－6　新山梨環状道路建設に伴う試掘調査

所 在 地　中巨摩郡田富町布施3236－１
調査期間　2004年９月９日
調査面積　28㎡（調査対象面積552㎡）
担 当 者　高野玄明・輿石逸子

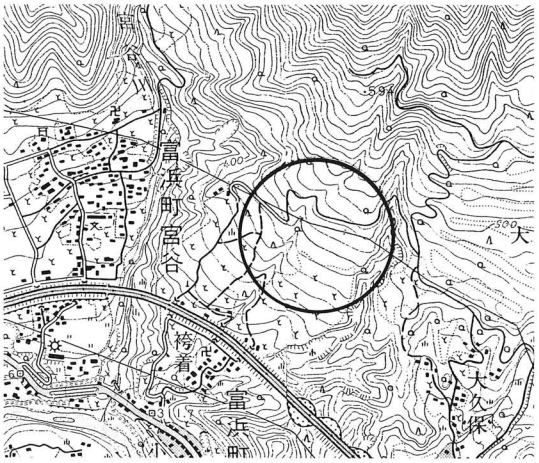


試掘調査　位置図

用地が取得された道路用地に４本の試掘トレンチを設定し、重機による掘削を行った。現状では、調査地点が家屋の進入口として使用されているため、その部分をさけての調査となった。調査の結果、1.0～1.4mまで掘り下げたが、地表下1.0m程で検出された灰白色砂質土から湧水がみられ、更にその下部まで掘り下げたが、安定した土層は検出されなかった。このため、今回の試掘調査箇所については問題ないものと思われるが、2002年度に試掘調査の結果、本調査対象地域となっている部分もあることから、必要に応じて確認調査を行うことが望まれる。

4－7　桂川ウェルネスパーク建設に伴う試掘調査（宮ノ上１・２遺跡）

所 在 地　大月市富浜町鳥沢字袴着1915外
遺 跡 名　宮ノ上１・２遺跡
調査期間　2004年９月21日～10月18日
調査面積　2,064㎡（調査対象面積146,000㎡）
担 当 者　高野玄明・奥石逸子

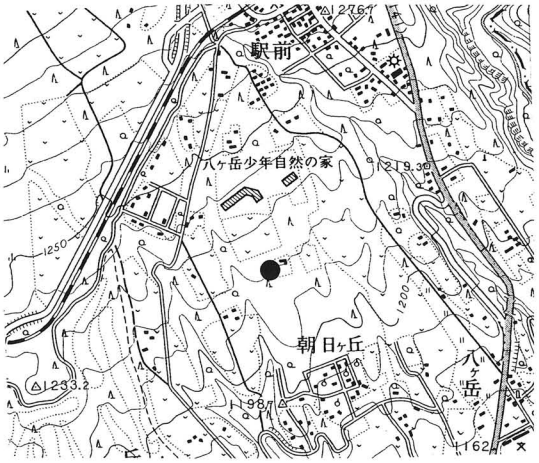


試掘調査　位置図

事業予定地内に長さ9.5～77.1m、幅1.5m、深さ0.3～2.2mの試掘トレンチを重機により43本設定し、人力による精査を行った。現状は、背丈以上に下草など生い茂っている荒蕪地であり、重機で切り開きながらの調査となった。調査の結果、0.1～0.4mに黒褐色（暗褐色）粘質土の表土が確認され、その下部に黄褐色粘質土(ローム層)が確認された。また、一部には小角礫を多く含むローム層が見られた。その結果、2001年にも同事業に伴って、試掘調査が行われているが、明瞭な遺構や遺物は確認できなかった。このため、今回の試掘調査エリアにおける本調査の必要は無いものと思われる。

4－8　少年自然の家改修事業に伴う試掘調査

所 在 地　北杜市高根町清里3545
調査期間　2004年12月21日
調査面積　約16.8㎡（調査対象面積100㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

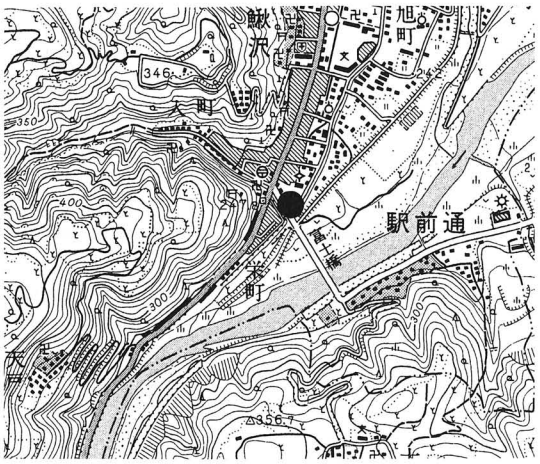


試掘調査　位置図

第１・２キャンプサイト内に1本のトレンチを設定、キャンプ用具倉庫建設地にはトレンチを３本を設定し、調査を行った。調査の結果、キャンプサイト内の１号トレンチについては、地表10㎝程の下で黒褐色土層となり、さらに地表下約60㎝で明黄褐色粘質土となって、この土層を約40㎝ほど掘り下げた。明黄褐色粘質土からは５～10㎝ほどの円礫が少量含まれるが、自然堆積によるものである。キャンプ場用具倉庫建設予定地においては、２号トレンチでは地表に採石が敷かれ、深さ70㎝ほどまで攪乱層があり、これ以下が黄褐色粘質土となる。この黄褐色粘質土中より湧水が認められた。３号トレンチでは深さ90㎝まで、４号トレンチでは深さ120㎝まで攪乱層となっており、地山層はこれ以下となる。この対象地においては攪乱が著しく、いずれの土層からも遺構、遺物の存在は認められなかった。

4－9　甲西道路改築に伴う試掘調査（鰍沢河岸跡Ｃ）

所 在 地　南巨摩郡鰍沢町鰍沢1466－７外
遺 跡 名　鰍沢河岸跡Ｃ
調査期間　2004年12月21～22日
調査面積　121㎡（調査対象面積1,200㎡）
担 当 者　高野玄明・奥石逸子

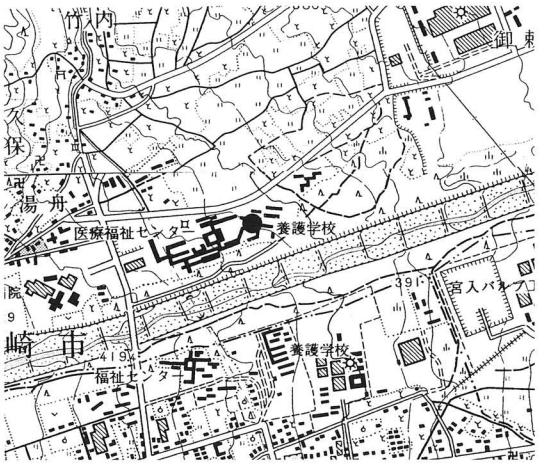


試掘調査　位置図

重機により試掘トレンチ掘削を行い、人力により遺構・遺物の確認を行った。その結果、１号トレンチでは地表下1.3mまで盛土による攪乱がみられ、その下部には昭和初期頃の造成面と思われる層が0.6mの厚さで堆積し、地表下約1.9mには鰍沢河岸跡に伴う遺構が存在すると考えられる生活面が確認されている。この生活面は、黄褐色粘質土と暗褐色粘質土（焼土・カーボン多く含む）がそれぞれ20㎝程堆積して構成されていた。２号トレンチでは、深さ0.8m程で比較的大きな石材を用いた石垣の上面が検出されている。検出された石垣は北東～南西方向に直線に並んでおり、２～３段程度積み上げられていた。設定したトレンチでは石垣（建物）全体の規模は不明な状況である。

4－10　あけぼの養護学校改修事業に伴う試掘調査

所 在 地　韮崎市旭町上條南割3313－1
調査期間　2005年1月6日
調査面積　約4㎡（調査対象面積100㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

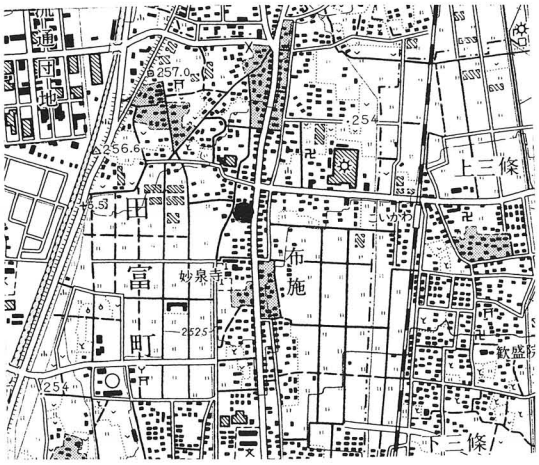


試掘調査　位置図

御勅使川堤防跡群に近接することから、あけぼの養護学校の改修事業に伴い、埋蔵文化財の確認の必要があることから実施することとなった。食堂棟予定地で、2ヶ所のトレンチを設定し、調査を行った。調査の結果、1号トレンチについては、地表下20～30㎝程で青灰褐色の砂礫層となり、さらに150㎝下げたが状況は同じであった。2号トレンチも同様であった。砂礫層は砂を基調に1～5㎝程の小石が多数混入し、部分的には直径20㎝を超える石がみられるもので、人為性はなく自然堆積によるものと判断できる。いずれの土層からも遺構、遺物の存在は認められなかった。

4－11　新山梨環状道路建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　中巨摩郡田富町布施2127－2
調査期間　2005年1月12～13日
調査面積　約99.5㎡（調査対象面積560㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵



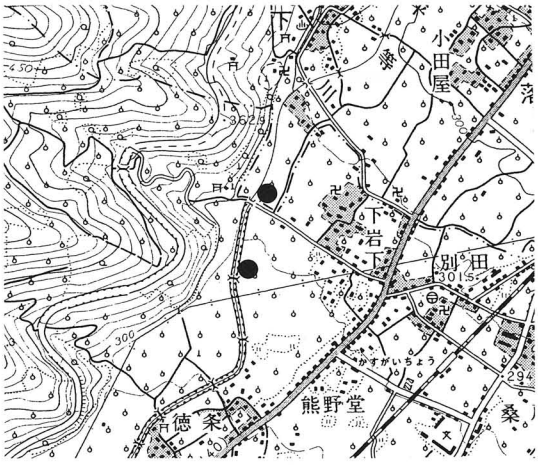
試掘調査　位置図

今回の調査地点は、昨年度に北側に隣接する部分の試掘調査を行った地点に連続し、前回の調査結果から近世頃の溝状遺構が連続していることが予想される。このため試掘予定地内に8ヶ所の試掘トレンチを設定し、確認にあたることとした。地表下約70㎝の灰色砂層で著しい湧水があり、これ以下の掘り下げは困難であった。

調査の結果、東側は一部を残し、ほぼ全域が1m以上も攪乱されているが、一部で南北方向にのびる溝を確認した。西側のトレンチより南北方向にのびる溝を二本確認した。しかし、溝内からは幕末期の陶磁器片が出土し、連続するトレンチ内の溝にはコンクリート片等が包含されており、幕末期から近代に機能していた溝と思われる。陶磁器等の遺物はいずれも幕末期を溯るものではない。遺構・遺物は共に幕末期以後近代のものと判断できることから問題ないものとし、調査を終えた。

4－12　西関東連絡道路建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市春日居町下岩下52、278
調査期間　2005年1月25日
調査面積　約146㎡（調査対象面積3,313㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

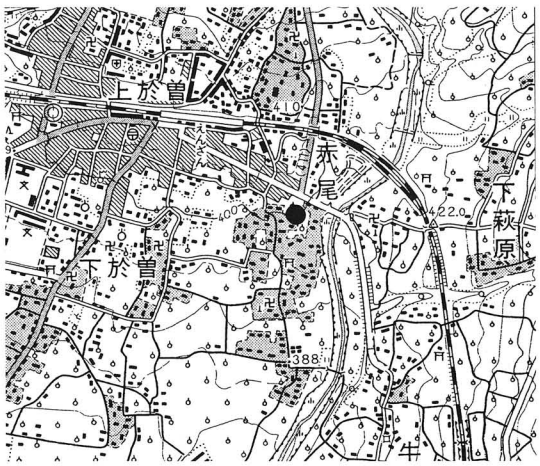


試掘調査　位置図

今回の調査地点は、昨年度に北側に隣接する部分の試掘調査を行った地点に連続し、南側に中川田遺跡が周知され、さらに平等川をはさんだ対岸に弥生時代の横町遺跡が調査されており、調査対象地はこれらに連続していることが予想された。このため試掘予定地内に５本の試掘トレンチを設定し、確認にあたることとした。下岩下52番地内（上段●印）の１号トレンチの砂層中より桶材片が一点、２号トレンチの砂層中より長さ50㎝程の流木が数点出土した。遺構はみられず、いずれも近代頃の洪水により砂層中に堆積したものと思われる。他のトレンチからは遺物はまったく検出されなかった。下岩下278番地内は黒色粘質土が厚く堆積し、湿地であったことをうかがわせる。遺物・遺構はいずれの地層からも全く検出されなかった。

4－13　塩山バイパス建設事業に伴う試掘調査（西畑Ｂ遺跡）

所 在 地　塩山市赤尾672
遺 跡 名　西畑Ｂ遺跡
調査期間　2005年２月８日
調査面積　42㎡（調査対象面積730㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

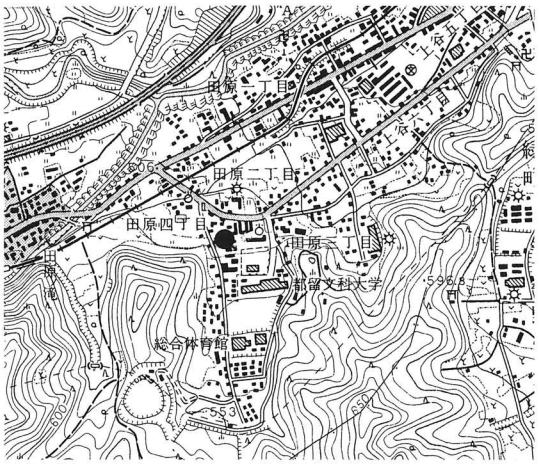


試掘調査　位置図

今回の調査地点は、北側に隣接する部分の試掘調査を行った地点に連続し、西畑Ｂ遺跡が周知されている範囲内になる。４本の試掘トレンチを設定し、確認にあたることとした。調査の結果、対象地の南側にあたる２号・３号トレンチから縄文時代及び中世の遺物が出土した。２号トレンチから中世15世紀中頃に位置づけられる内耳鍋、土師質土器などがまとまって出土した。ほぼ１ｍ四方の範囲に集中していたため遺構の確認に努めたが、検出できなかった。さらにこの部分を西側に拡張し、精査を行ったところ、さらに土器片が出土したものの遺構はとらえることができなかった。３号トレンチでは下層の黒褐色粘質土が厚くなる。この層中より縄文時代晩期と思われる分銅形の打製石斧が１点出土したが、土器などは全くみられなかった。今回の調査結果から、西畑Ｂ遺跡の範囲内にあるため埋蔵文化財の保護措置の必要があるものと判断した。

4－14　都留児童相談所建設事業に伴う試掘調査（四ノ側遺跡）

所 在 地　都留市田原３－３－３
遺 跡 名　四ノ側遺跡
調査期間　2005年２月14日
調査面積　132㎡（調査対象面積3,303㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

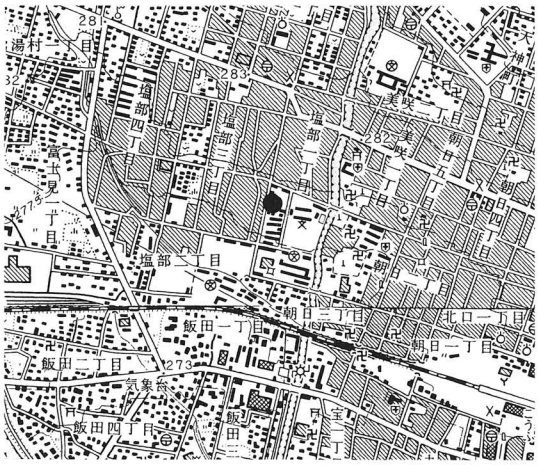


試掘調査　位置図

今回の調査地点は、北側に平安時代の三ノ側遺跡があり、また南側には縄文時代の八ツ沢遺跡、山ノ神遺跡が周知され、これらに囲まれたところに位置する。現状で南都留合同庁舎駐車場となっており、五本の試掘坑を設定し、調査にあたることとした。調査の結果、対象地の南側にあたる５号試掘坑から平安時代の遺構･遺物を地表下約120㎝で確認した。みつかった遺構は住居跡と思われる落ち込みと焼土である。住居跡は、2.5m程の方形の落ち込みが確認でき、この中から10世紀前半代の土器が出土した。焼土は、おそらくは住居跡に付設するカマドとその壁体と思われる。焼土やその周辺からは平安時代10世紀前半代に位置づけできる土器類が出土している。この他、１～４号試掘坑は５号試掘坑の北側に隣接する。ここからは該期の遺物・遺構も見つけることはできなかった。調査結果から、試掘調査箇所南側について、埋蔵文化財の保護措置の必要があるものと判断し、また新たに発見された遺跡であり、四ノ側遺跡とした。

4－15　甲府地方裁判所長宿舎建設事業に伴う試掘調査（塩部遺跡）

所 在 地　甲府市塩部１－３－９
遺 跡 名　塩部遺跡
調査期間　2005年2月17日
調査面積　15㎡（対象面積300㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

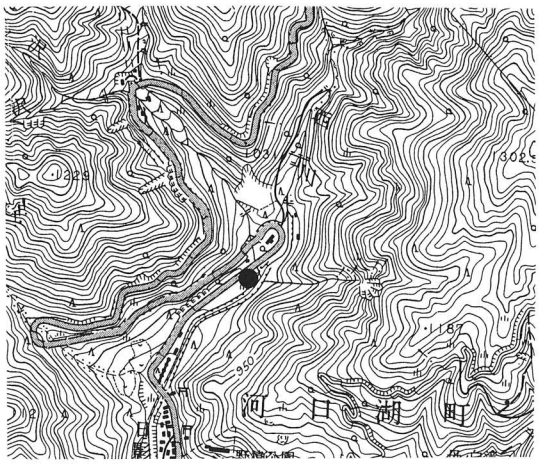


試掘調査　位置図

今回の調査地点は、塩部遺跡の範囲内であり、南側にある甲府工業高校旧校庭では古墳時代以降の遺跡が調査されている。調査対象地はこれらに連続していることが予想された。事業予定地内に３本の試掘トレンチを設定し、確認にあたることとした。調査の結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物は認められなかった。表土下は近世・近代以降の水田層で以下は黒褐色粘土層となる。かつてこのあたりが湿地であったことをうかがわせている。これら結果から、かつて湿地であったところに近世・近代以降に水田が形成された形跡がうかがえるのみであり、こうしたことから問題ないものと判断し、調査を終えた。

4－16　河口湖バイパス建設事業に伴う試掘調査（疱橋（もばし）遺跡）

所 在 地　南都留郡富士河口湖町河口1343
調査期間　2005年３月３日
調査面積　40㎡（調査対象面積380㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

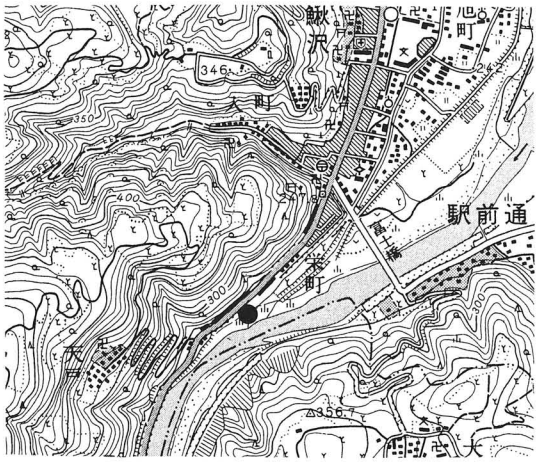


試掘調査　位置図

今回の調査地点は、河口湖バイパスの北側起点で国道137号に沿って分岐していくところとなる。調査地点の現状は、山地の斜面部から西川沿いの緩斜面への転換部分であるが、現国道とほぼ同じ高さに盛土され、平坦面がつくられている。この部分に二本の試掘トレンチを設定し、確認にあたることとした。掘削の結果、予想以上に盛土層が厚く、およそ地表下３ｍ程で旧地表土層の暗褐色土でその下は砂礫を含まない黒褐色土、以下は明黄褐色砂利層で、地表下５ｍでその上面にあたる。黒褐色土中より縄文土器及び古墳時代土器を数点発見した。遺構については試掘トレンチ内が土砂崩落の危険があり精査していないため明かでない。この結果から、試掘調査箇所について、埋蔵文化財の保護措置の必要があるものと判断する。なお当該地は、新たに発見されたもので地名を鑑みて遺跡名は疱橋遺跡とした。調査区南側は次年度に試掘調査予定であり、この結果により範囲が広がる可能性もある。

4－17　甲西道路建設事業に伴う試掘調査（鰍沢河岸跡）

所 在 地　南巨摩郡鰍沢町明神町地内
遺 跡 名　鰍沢河岸跡
調査期間　2005年３月７日～８日
調査面積　80㎡（調査対象面積1,200㎡）
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

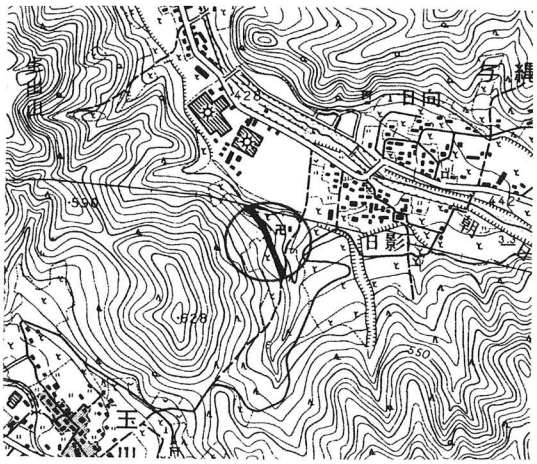


試掘調査　位置図

今回の調査地点は、甲西道路の南側起点で国道52号に沿って分岐していくところで、鰍沢河岸跡の南端部となる口留番所跡とされる地点から南側にかけてとなる。調査地点の北側に銀杏の木があり、この周囲が口留番所跡と推定されている。現状は段差をもって二面の平坦地があり、ここに合計13本の試掘トレンチを設定した。調査を行った結果、厚い細砂層の堆積で遺構はまったく検出されず、遺物は陶磁器類、産業廃材など近代以後の廃棄物であった。口留番所が推定される銀杏の木周辺も、近代の産業廃材を含む盛土層で、以下は細砂層となり、その痕跡はみあたらなかった。今回の調査結果から、問題ないものと判断し、埋蔵文化財の保護措置の必要は無いものと判断した。ただし対象地北側の調査で石垣が銀杏の木に向かって延びており、その広がりについて銀杏の木の西北側あたりはさらに確認調査を行っておく必要がある。

4－18　一般国道139号都留バイパス建設工事に伴う試掘調査（天正寺遺跡）

所 在 地　都留市井倉字赤沢平地内
遺 跡 名　天正寺遺跡
調査期間　2005年３月14～17日
調査面積　約24㎡（調査対象面積5,633㎡）
担 当 者　網倉邦生・正木季洋

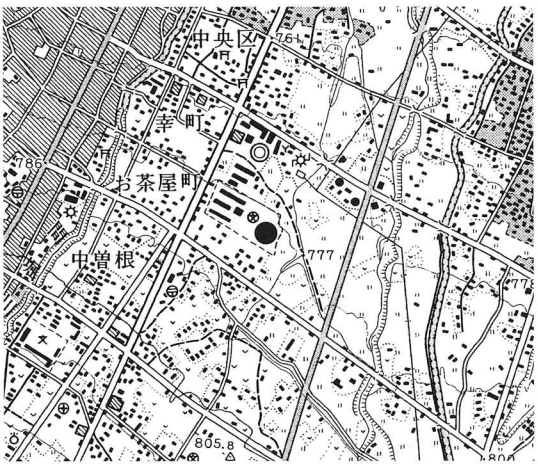


試掘調査　位置図

2003年度試掘調査を行い、縄文時代の遺構・遺物が確認された。今年度は遺跡範囲の絞り込みを目的とした試掘調査である。調査は予定路線内に幅１m、長さ１～３mのトレンチを14本設定し、人力により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。調査の結果、昨年度調査地点の近くの沢に面した緩斜面地より、縄文時代の剥片を伴う遺構が確認されたほか、天正寺西側の山林部において土坑１基、不整形なプランをもつ遺構を検出した。

4－19　吉田高校校舎改築事業に伴う立会調査

所 在 地　富士吉田市下吉田　吉田高校地内
調査期間　2004年５月27日
担 当 者　小林広和・網倉邦生



立会調査　位置図

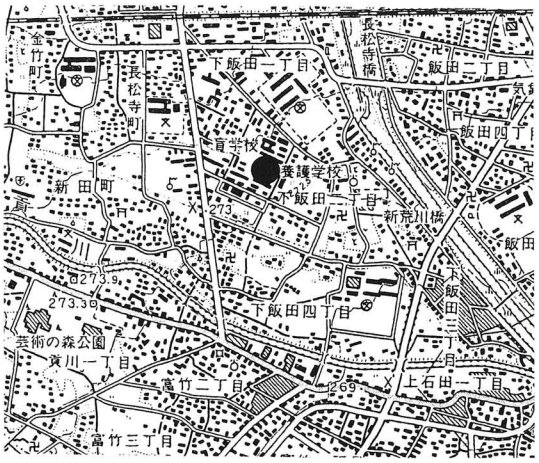
吉田高校校舎改築事業は吉田高校のグラウンドに仮設校舎を設営するという内容の事業であり、５月下旬に着工を予定している。施工予定地点は周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されてはいないが、事業面積が大きいことから、立会で対応することとなった。

仮設校舎の設置には、校舎の両側を幅60㎝×深さ50㎝程掘り下げて、コンクリート帯基礎を地下に埋設することを要する。このため、17本のトレンチを掘削予定地点に設定した。トレンチの掘り下げ深度は60㎝程度としたが、南側・北側・西側に計4本の深堀りトレンチを設け、1～1.5m掘削した。

掘り下げの結果、2～17トレンチからは遺構・遺物は検出されなかったものの、１トレンチの約80㎝程度の深さにおいて、畦畔を伴う水田面が確認された。この水田面には遺物が伴出していないため、年代は明らかではない。仮設校舎の帯基礎は深さ60㎝掘り下げれば足りるとのことであるため、水面に掘削が及ばないことを確認した上で立会を終了した。

4－20　甲府養護学校仮設寄宿舎借り上げ工事に伴う立会調査

所 在 地　甲府市下飯田２－10－３
調査期間　2004年６月７日
担 当 者　田口明子・鶴田博



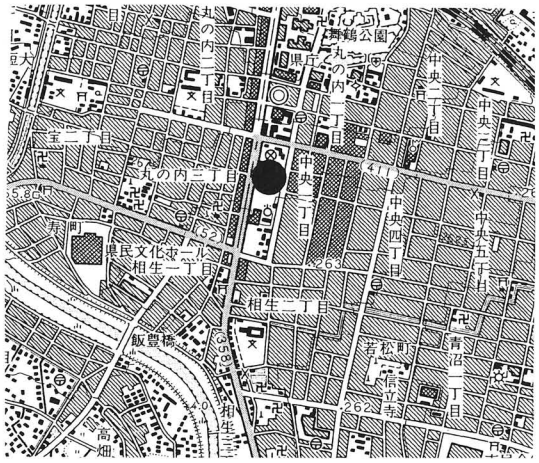
立会調査　位置図

今回の立会調査は山梨県立甲府養護学校改修工事に係るもので、甲府養護学校のグラウンドに仮設寄宿舎を建設する工事に伴って行った。現場は、基礎伏図に沿って幅90～110㎝、深さ25～65㎝の溝が掘られており、６地点において土層を観察した。

観察した結果、６地点ともに盛土がなされており、遺構、遺物を確認することはできなかった。

4－21　甲府地方裁判所改築に伴う立会調査（甲府城下町遺跡）

所 在 地　甲府市中央１－10－７（甲府地方裁判所敷地内）
遺 跡 名　甲府城下町遺跡
調査期間　2004年８月24日
担 当 者　高野玄明

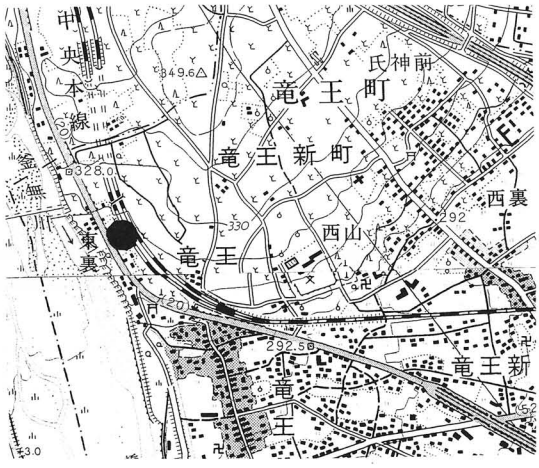


立会調査　位置図

甲府地方裁判所改築に伴って、ボーリング調査が行われることになり、調査内容は、直径80～100㎜のパイプで、深さ25ｍ前後まで行うもので、埋蔵文化財に与える影響は極めて少なく問題ないものと考えられる。このため、調査が行われる４カ所の内、１カ所について立会調査を行なった。また、ボーリング調査で得られた地質データは、参考資料として後日、提供をお願いして立会調査を終了した。

4－22　国道20号線改良工事に伴う立会調査（片瀬塚古墳）

所 在 地　甲斐市片瀬45－１番地（旧竜王町）片瀬塚古墳推定地
調査期間　2004年10月18日
担 当 者　坂本美夫

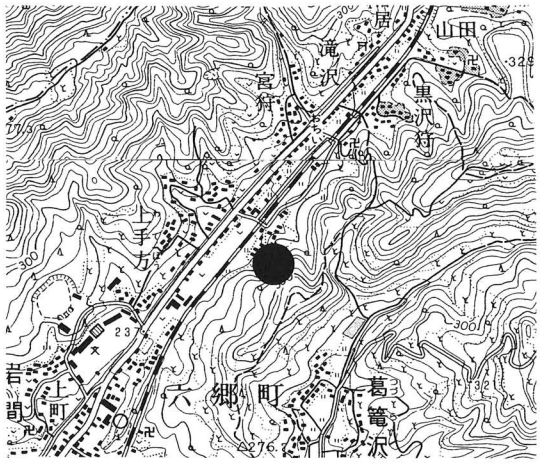


立会調査　位置図

片瀬塚古墳の、特に周溝部と推定されている道路拡幅部予定地に（工事掘削深さ60㎝）沿ってトレンチ２本を設定し、古墳残存部の有無を調査した。１号トレンチでは表土下20㎝でシルト層（厚さ40㎝）となり、これを取り除くと湧水が湧き出した。２号トレンチでは表土下20㎝で粘性の黒褐色土層となる。いずれにおいても、古墳にかかわる遺構、遺物は皆無であった。

4－23　六郷町岩間一の坪地滑り対策に伴う立会調査

所 在 地　西八代郡六郷町岩間字一の坪地内
調査期間　2004年11月26日
調査面積　３㎡
担 当 者　高野玄明・輿石逸子



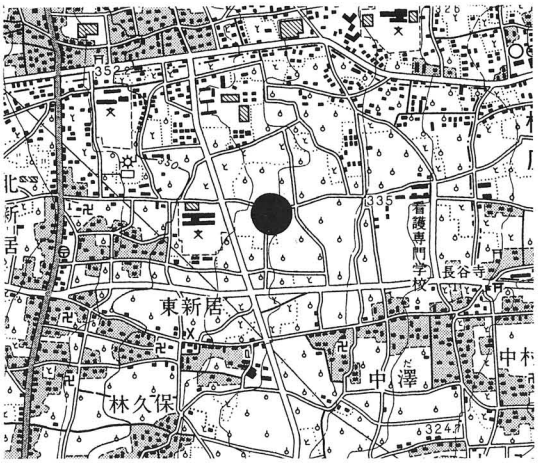
立会調査　位置図

事業予定地は、中近世の埋蔵文化財包蔵地に隣接していることから、2004年１月６・７日に同事業の工事に先立って試掘調査を実施し、近世の遺物がわずかながら出土している。今回の立会調査は工事道路及び地下水を抜くための井戸掘削である。

両工事に伴う調査の結果、表土層（腐植土）0.1ｍ、地山層（明茶褐色粘質土）が2.0ｍ以上みられ、遺構、遺物の確認はできなかった。このため、埋蔵文化財については、問題ないものと思われる。

4－24　一般国道52号甲西道路歩道橋設置に伴う立会調査（百々遺跡）

所 在 地　南アルプス市百々地内
遺 跡 名　百々遺跡
調査期間　2004年12月６日
調査面積　12㎡（調査対象面積42㎡）
担 当 者　高野玄明



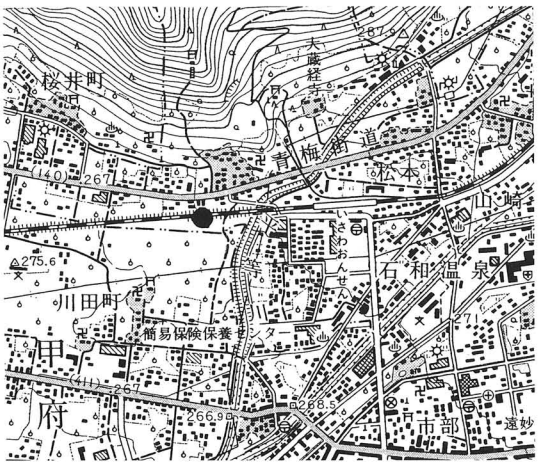
立会調査　位置図

国土交通省が甲西道路改築部分の通学路に歩道橋を設置することに伴い、歩道橋基礎部分について立会調査を実施した。掘削規模は2.7m×1.5m、深さ1.5～2.0mを測る。

その結果、地表下から0.5mまで甲西道路工事による盛土（１層）、その下部0.5mに黒褐色粘質土（２層）がみられ、３層が百々遺跡遺構確認面である黄褐色粘質土が確認された。しかし、甲西道路に伴う工事により、水道管本管、畑灌の切り回し等により、地中の状況はあまり良くなく、遺構・遺物は確認できなかった。このため、立会調査に関して、歩道橋基礎部分の片側につき１カ所ずつの立会調査を行った。

4－25　国道140号外情報管路設置工事に伴う立会調査（畦作遺跡）

所 在 地　笛吹市石和町松本775－1番地先（N02）、同775－1番地先（N01）
遺 跡 名　畦作遺跡
調査期間　2005年1月27・29・31日
担 当 者　坂本美夫・今福利恵

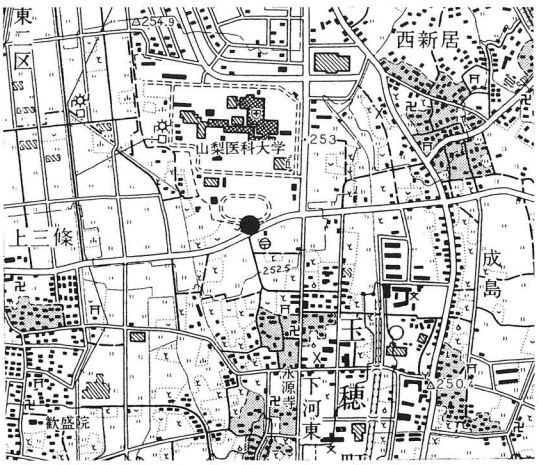


立会調査　位置図

工事は管路敷設工事のため、中央本線の南北脇に、直径２mの竪坑を設置し、その後、この間に小口径管を設置する事業で、立ち会い箇所はこの竪坑設置工事場所である。この竪坑は、平等川右岸に掘られたもので、その土層はいずれも砂質土を基調としたもので、最下層は大振りの礫を多数含む礫層であった。このうち、北側のN02の竪坑における土層断面観察において、路床下60㎝の位置で平瓦が縦方向に差し込まれた状況で確認された。しかし、この瓦は、桟瓦葺きの薄い、鼠色した瓦であり、明治時代以降の所産と考えられるもので、おそらく畑などの区画として使われたものと考えられる。その他の遺構、遺物は全く確認されなかった。従って、工事を実施するも支障ないものとした。

4－26　新山梨環状道路建設事業地内における下水道敷設工事に伴う立会調査（平田宮第２遺跡）

所 在 地　中巨摩郡玉穂町下河東1710
遺 跡 名　平田宮第２遺跡
調査期間　2005年２月４日
担 当 者　坂本美夫・今福利恵



立会調査　位置図

今回の調査地点は、周辺の区画整理事業に伴い玉穂町による試掘調査で平安時代の遺跡が確認されているところで、本年度平成16年７月12日に試掘調査を行った地点でもある。その試掘結果において遺構・遺物は発見されなかったものの、掘削深度が深く、また砂質土と著しい湧水により、綿密な調査ができなかったことから、再度遺跡の確認のための立会調査を行うこととなった。対象地内の下水道敷設工事に伴い、遺構の有無を確認することとした。調査の結果、地表下約200㎝の黒色腐食土層下面に平安時代土器及び柱穴状の落ち込みが確認できた。狭い範囲であったがさらに周囲へ広がっているものと考えられる。土器は、平安時代10世紀前半期に位置付けできる土師器坏・甕片である。調査結果から、平田宮第２遺跡として、埋蔵文化財の保護措置の必要があるものと判断した。

第Ⅲ章　県内の概況

1．発掘調査

2004年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて180件となっている。その内訳は、県が16件・市町村が164件である。発掘調査の原因は、道路26件、学校１件、集合住宅16件、個人住宅62件、工場２件、店舗５件、個人住宅兼工場又は店舗４件、その他建物19件、宅地造成14件、土地区画整理５件、公園造成2件、ガス・電気・電話・水道３件、農業関連８件、土砂採取１件、その他開発７件といった緊急調査と、学術調査１件、保存目的の範囲確認２件、遺跡整備２件があった。

2．県指定有形文化財（考古資料）及び県指定史跡

平成16年度では、県指定有形文化財の考古資料として５月６日に南部町の「天神堂遺跡出土品、ナイフ形石器他1,034点、附１点」、笛吹市（旧春日居町）の「平林二号墳出土品、武器類他492点」、同市（旧境川村）の「地蔵堂塚古墳出土品、蕨手刀１点」、塩山市の「黒川金山遺跡出土品、粉成道具他13,754点」、11月29日に笛吹市（旧一宮町）の「釈迦堂遺跡出土品、鉄製人形一括8点」を指定した。

天神堂遺跡の資料は、昭和45年に発掘調査され、旧石器時代集落の中の石器製作場所として、石器と薄片のまとまりである13箇所の「ブロック」構成資料、熱した自然礫による石蒸し料理施設と考えられる「礫群」、作業台や重石が配置された「配石」５基にかかる生活資料であり、本県で初となる旧石器時代の集落の様子が明きらかとなり、学史的な意義においても重要なものである。平林二号墳出土の資料は、２面の青銅鏡や須恵器類、装身具類、馬具・武具類など豊富な副葬品類を有していることは本県の後期古墳の中でも注目に値し、当該地域での被葬者の優位性を読み取るのに充分な資料であり、古代甲斐国の政治的動向を考える上で貴重な一括資料である。地蔵堂塚古墳の蕨手刀は、本県では三珠町大塚の鳥居原狐塚古墳附近出土資料に次ぐ2例目であり、全長41㎝の中寸刀で、年代的には古墳時代後期から末期にかけてのものである。黒川金山遺跡出土の資料は、国史跡にも指定された黒川金山遺跡の創業や盛期の状況を物語る資料群で、全国的な鉱山技術史の上でも、大変重要な位置を占めるものであり、また鉱山技術者たちの日常を物語る資料や一石経塚など信仰の一断面にも及ぶ豊かな資料群である。釈迦堂遺跡の鉄製人形は、全国的にも希少で本県では初めの出土例として注目され、律令祭式に深く関わった考古資料であり、8世紀に入って甲斐国内にも順次律令制が浸透していったことを物語る貴重な資料である。

また、県指定史跡として5月6日に笛吹市（旧八代町）の「竜塚古墳」を指定した。竜塚古墳は、平成12年度から４年間にわたって行われた発掘調査の結果、一辺が約56ｍの方墳で、木棺直葬とする主体部の可能性が高まり、古墳の立地や形態、主体部の状況などから５世紀前半と推定されている。

3．発掘調査の成果と保存整備事業

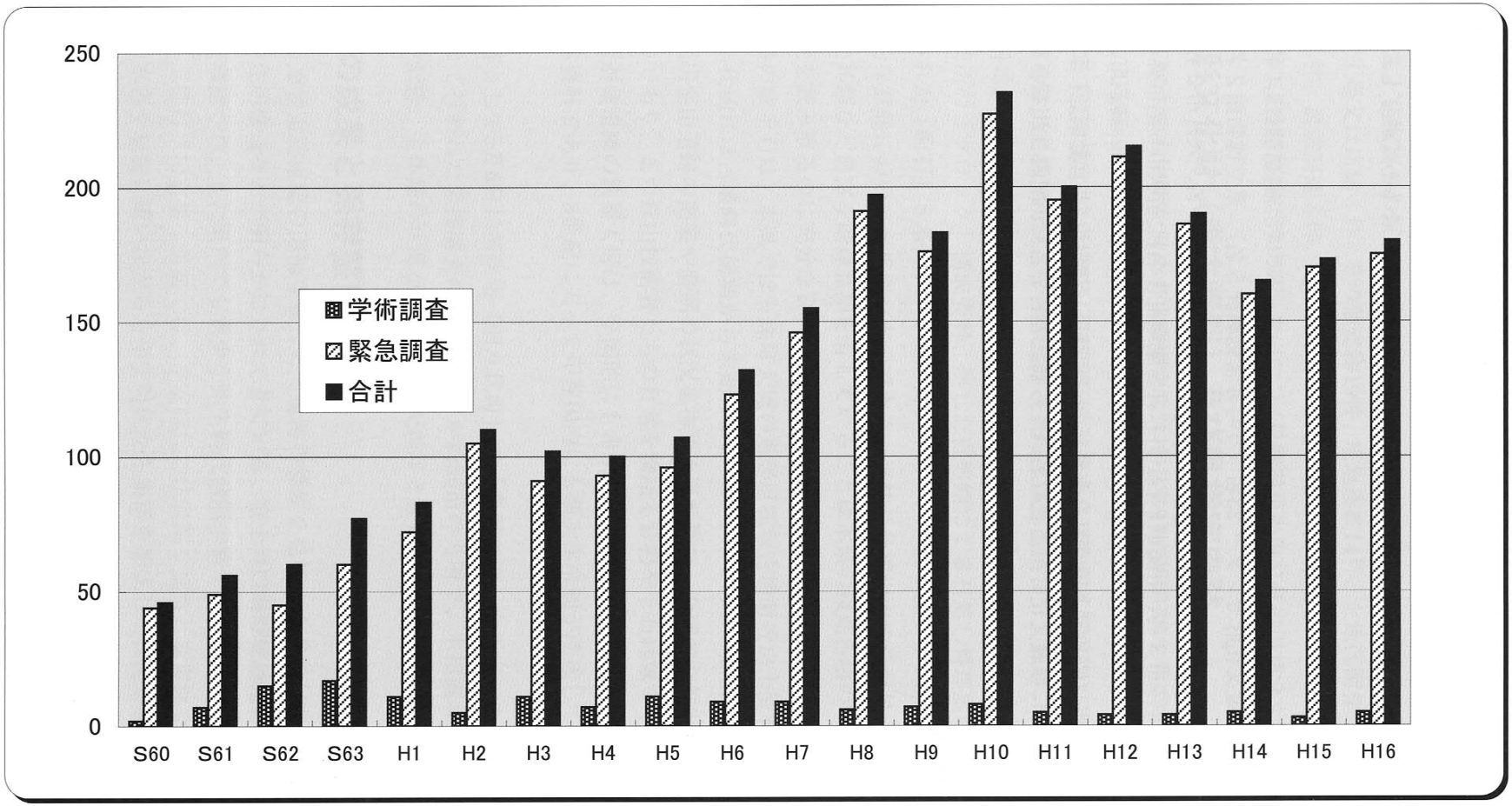
梅之木遺跡では、重要遺跡確認の国補事業として遺跡の価値を見極める調査が実施され、縄文時代中期後半の環状集落の範囲や住居構造などが明らかにされてきている。富士河口湖町塚越遺跡では、縄文時代後期初頭の柄鏡形敷石住居跡が確認され、また県内でも希少な弥生時代前期末葉から中期初頭の土器片や石器などの出土もあって注目された。玉穂町平田宮第２遺跡では、平安時代の住居跡や畑跡と地震痕などが確認され、洪水常水地とされる同所一帯に水害や地震に遭いながらも平安時代から集落を形成した状況が明らかにされた。牧丘町金桜神社地遺跡では、出土した遺物や石垣の積み方、石材の割り方などの状況から、平安時代から江戸時代末期まで同所で寺社が存続したとみられ、これまで実体の不明であった金峰山信仰の解明に貴重な成果が得られた。国登録有形文化財の勝沼堰堤では、明治以来の古い工法に新技術を取り入れて造られた様子が確認され、日本の近代砂防技術転換期の遺構と注目され、砂防の歴史を学ぶ場としての公園造りの計画が現在進められている。

保存整備事業による発掘調査では、国指定史跡銚子塚古墳において墳丘端部から木柱や木製樹物が出土し、また墳丘端部の突出部や周溝区画堤などが確認され、中央政権と地方との関係を研究する上で画期的な発見となった。国指定史跡新府城跡では、搦手の土塁や井戸跡、橋が架かっていたと思われる堀の一部が確認され、新たに武田氏の造成技術を解明する手掛かりが得られた。国指定史跡武田氏館跡では、階段や石塁など新発見が相次ぎ、甲府城研究にも一石を投じる成果が得られた。県指定史跡甲府城跡は、平成2年度から石垣改修や門の復元などを主な内容とする舞鶴城公園整備事業として進められ、４月の稲荷櫓の竣工をもって終了した。

４．調査体制（H17年10月31日現在）

埋蔵文化財専門職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）について、県では学術文化財課４名、社会教育課１名、職員派遣（身延町）１名、埋蔵文化財センター23名（うち非常勤嘱託５名）、県立博物館２名、考古博物館４名（外に非常勤嘱託１名）、市町村では、甲府市６名、富士吉田市２名、山梨市２名、大月市２名、韮崎市２名（外に非常勤嘱託１名）、南アルプス市３名、甲斐市２名、（外に非常勤嘱託１名）、笛吹市５名（外に非常勤嘱託１名、臨時１名）、北杜市６名（外に臨時１名）、都留市（非常勤嘱託）、塩山市、上野原市、勝沼町、中道町、豊富村、身延町（県職員派遣）、玉穂町（昭和町と田富町を兼務）、小淵沢町、忍野村（非常勤嘱託）に各１名となっており、36市町村のうち21市町村に埋蔵文化財担当者47名（うち嘱託等名７名）が配置されている。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移



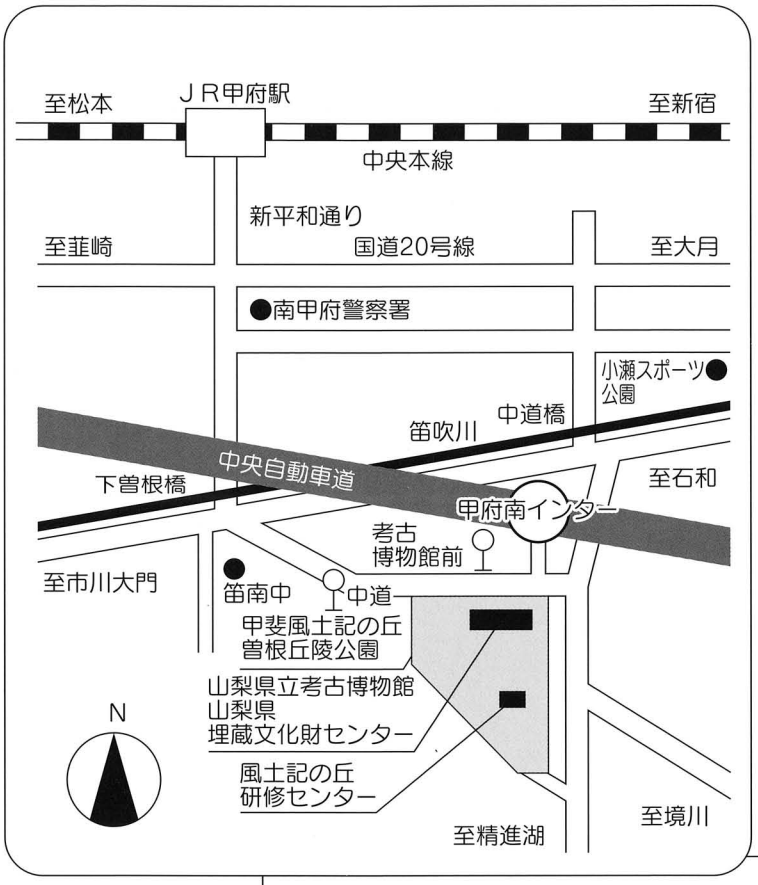
年度	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
学術調査	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3	5
緊急調査	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170	175
合計	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173	180

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
1	村内遺跡	甲府市横根町字村ノ内1065－4、－7	315.12	散布地	縄文・古墳・奈良・平安・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.4.5 ～ H16.4.8
2	村内遺跡	甲府市横根町字村ノ内1065－6、－8	316.68	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.4.5 ～ H16.4.8
3	坂ノ上姥神遺跡	南アルプス市徳永1855、1856－1	3.80	散布地・集落跡	奈良・平安	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H16..3.26 ～ H16.3.26
4	桜井畑遺跡	甲府市和戸町字桜井畑1301	6.00	包蔵地	弥生・古墳・奈良・平安	その他建物（寺院車庫）	甲府市教育委員会	H16.3.30 ～ H16.3.30
5	増泉寺前遺跡	中巨摩郡昭和町西条字前切4289	846	散布地	その他（不明）	個人住宅	昭和町教育委員会	H16.4.12 ～ H16.4.12
6	五里原遺跡	東八代郡八代町南1595－1外	30	散布地	縄文・古墳・奈良・平安	道路	八代町教育委員会	H16.4.14 ～ H16.4.14
7	武田城下町遺跡	甲府市屋形2丁目2413、2414	358.68	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.4.28 ～ H16.4.28
8	代中東遺跡	東八代郡豊富村木原1250－3	4.00	散布地	縄文・近世	個人住宅	豊富村教育委員会	H16.4.30 ～ H16.4.30
9	武田城下町遺跡	甲府市宮前町256－3	224.19	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.4.12 ～ H16.4.12
10	鰍沢河岸跡	南巨摩郡鰍沢町1423－1外	1170	その他の遺跡（河岸跡）	近世	土地区画整理・河川	山梨県教育委員会	H16.4.19 ～ H16.6.30
11	堤下B遺跡	甲府市東光寺町字北原1417	201.73	散布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.4.22 ～ H16.4.22
12	朝気遺跡	甲府市朝気1丁目214－17	160.20	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.4.19 ～ H16.4.19
13	野牛島・立石下遺跡	南アルプス市野牛島2623,2619－2	15.10	散布地	奈良・平安	個人住宅・宅地造成	南アルプス市教育委員会	H16.4.21 ～ H16.4.21
14	武田城下町遺跡	甲府市屋形3丁目2467－4	231.86	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.4.21 ～ H16.4.22
15	石原田遺跡	中巨摩郡敷島町島上条669－1外	113.00	散布地	縄文	宅地造成	敷島町教育委員会	H16.4.16 ～ H16.5.8
16	武田城下町遺跡	甲府市武田2丁目255－3	85.54	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.4.30 ～ H16.4.30
17	上三口神遺跡	東八代郡一宮町東新居字上三口神566	903.00	散布地	奈良・平安	個人住宅	一宮町教育委員会	H16.5.11 ～ H16.5.31
18	上窪遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東1022－1外	4373.00	城館跡・田畑跡	奈良・平安・中世・近世	土地区画整理	玉穂町教育委員会	H16.5.11 ～ H16.8.31
19	甲府城下町遺跡	甲府市朝日1丁目118	4.20	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.5.18 ～ H16.5.18
20	武田城下町遺跡	甲府市大手1丁目4461－1外	88.57	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.5.26 ～ H16.6.7
21	武田城下町遺跡	甲府市大手１丁目4581－8	208.25	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.5.26 ～ H16.5.26
22	釜無川堤防址群（堤防遺跡No23）	南アルプス市下高砂835外	1549.00	その他の遺跡（堤防跡）	中世・近世	その他建物（総合免許センター）	南アルプス市教育委員会	H16.5.17 ～ H16.6.4
23	大北耕地遺跡	甲府市大里町字大北耕地1392－3	489.67	散布地	中世・近世	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.5.28 ～ H16.5.28
24	柿ノ久弥遺跡	甲府市高室町字西河原278－2	540.00	散布地	中世	ガス・電気・電話・水道	甲府市教育委員会	H16.6.8 ～ H16.6.30
25	武田城下町遺跡	甲府市武田3丁目431外	9.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.6.15 ～ H16.6.15
26	武田城下町遺跡	甲府市古府中町字富士川4882－13	4.50	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.6.16 ～ H16.6.16
27	上町田・足原田遺跡	東山梨郡春日居町鎮目1135－1外、山梨市万力617－1外	611.00	散布地	弥生・古墳・平安	道路	山梨県教育委員会	H16.6.14 ～ H16.6.25
28	金田遺跡	東八代郡一宮町竹原田字若鞭町399－1	165.42	集落跡	縄文・弥生・古墳	ガス・電気・電話・水道	一宮町教育委員会	H16.6.16 ～ H16.6.30
29	釜無川堤防址群	南アルプス市下高砂753外	15500.00	その他の遺跡（堤防跡）	中世・近世	その他開発（自動車学校）	南アルプス市教育委員会	H16.6.22 ～ H16.6.23
30	三昧堂遺跡	中巨摩郡敷島町中下条928－2	132.00	集落跡	古墳・平安	その他建物（公民館）	敷島町教育委員会	H16.6.2 ～ H16.6.30
31	松ノ尾遺跡	中巨摩郡敷島町中下条字御証作1467－1外	597.00	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	宅地造成	敷島町教育委員会	H16.6.10 ～ H16.7.21
32	炭焼遺跡・塚越遺跡	南都留郡富士河口湖町字炭焼317－1外、字塚越263	1180.00	散布地	奈良・平安	道路	山梨県教育委員会	H16.6.2 ～ H16.9.17
33	増田・永井条里制遺構	東八代郡八代町増利312－1	90.00	その他の遺跡（条里）	奈良・平安	工場	八代町教育委員会	H16.6.18 ～ H16.6.29
34	塩部遺跡	甲府市塩部3丁目648－5	3.00	包蔵地	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.6.30 ～ H16.6.30
35	武田城下町遺跡	甲府市屋形2丁目2393－2	12.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.6.28 ～ H16.6.29
36	伊勢田遺跡	東八代郡一宮町北都塚字伊勢田602外	2820.00	散布地	弥生・古墳	道路	一宮町教育委員会	H16.6.24 ～ H16.9.30
37	武田城下町遺跡	甲府市屋形3丁目1735－11	238.60	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.6.25 ～ H16.6.25
38	上町天神遺跡	甲府市上町天神1407－1外	2337.75	散布地	古墳・平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.7.1 ～ H16.7.2
39	大坪遺跡	甲府市桜井町字角田600－1外	3140.00	集落跡・生産遺跡	古墳・奈良・平安	その他建物（教会）	甲府市教育委員会	H16.6.14 ～ H16.7.1
40	甲府城下町遺跡	甲府市北口2丁目5－1	135.04	城下町	近世	個人住宅兼工場又は店舗	甲府市教育委員会	H16.6.25 ～ H16.7.9
41	江原遺跡	南アルプス市江原1280－1	2.40	散布地	弥生・古墳・平安・中世	その他建物（倉庫）	南アルプス市教育委員会	H16.7.14 ～ H16.7.14
42	武田城下町遺跡	甲府市天神町34－2	88.95	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.7.13 ～ H16.7.23
43	朝気遺跡	甲府市朝気1丁目27－15	70.70	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.6.30 ～ H16.6.30
44	塩部遺跡	甲府市朝日3丁目47－7	114.48	包蔵地	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.7.12 ～ H16.7.13
45	緑が丘1丁目遺跡	甲府市緑が丘1丁目128－2	551.01	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.7.14 ～ H16.7.15
46	鍬柄田遺跡	甲府市御坂町二之宮字小宮2687－1外	1482.00	散布地	古墳・奈良・平安	その他建物（作業場）	御坂町教育委員会	H16.7.13 ～ H16.7.16

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
47	松ノ尾遺跡	中巨摩郡敷島町中下条1851－1外	481.00	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	宅地造成	敷島町教育委員会	H16.7.2 ～ H16.7.30
48	食糧工場遺跡	甲府市幸町2604－3	27.00	包蔵地	縄文・弥生	店舗	甲府市教育委員会	H16.7.15 ～ H16.7.16
49	五里原遺跡	東八代郡八代町南1182－2	220.00	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	道路	八代町教育委員会	H16.7.8 ～ H16.6.30
50	水口遺跡	東八代郡境川村小山669－1	20.00	集落跡	縄文・古墳	その他建物（耐震性防火水槽）	境川村教育委員会	H16.8.2 ～ H16.8.2
51	薬師堂遺跡	東八代郡一宮町末木字薬師堂233－1外	1888.44	散布地	奈良・平安・中世	集合住宅	一宮町教育委員会	H16.7.29 ～ H16.9.30
52	油田遺跡	甲府市蓬沢1丁目102－2	338.49	散布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.7.29 ～ H16.7.29
53	京原・中村遺跡	東八代郡境川村小山557－1外	300.00	集落跡	縄文・弥生・古墳・中世	道路	境川村教育委員会	H16.7.27 ～ H16.8.5
54	天神西遺跡	甲府市千塚4丁目3154	3.00	散布地	縄文・弥生	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.8.2 ～ H16.8.2
55	桜井畑遺跡	甲府市和戸町字桜井畑1240－1	3.00	包蔵地	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.7.30 ～ H16.7.30
56	寺部村附第6遺跡	南アルプス市寺部1924－7外	250.00	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	道路	南アルプス市教育委員会	H16.6.22 ～ H16.8.6
57	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取1565－2	930.00	集落跡	縄文	農業基盤整備以外の農業関係事業	明野村教育委員会	H16.7.20 ～ H16.7.23
58	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取1612	251.00	集落跡	縄文	農業基盤整備以外の農業関係事業	明野村教育委員会	H16.5.18 ～ H16.6.26
59	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取1587－1	901.00	集落跡	縄文	農業基盤整備以外の農業関係事業	明野村教育委員会	H16.5.18 ～ H16.6.26
60	朝気遺跡	甲府市朝気1丁目165－3	201.74	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.8.10 ～ H16.8.11
61	北・向田遺跡	東八代郡八代町南3203－3外	30.00	散布地	弥生	その他建物（セレモニーホール）	八代町教育委員会	H16.8.2 ～ H16.8.6
62	八幡東遺跡	甲府市湯村3丁目2329－1外	313.90	散布地	弥生・古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.8.11 ～ H16.8.31
63	上窪遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東1016外	1426.00	城館跡・田畑跡	奈良・平安・中世・近世	土地区画整理	玉穂町教育委員会	H16.8.2 ～ H16.8.3
64	武田城下町遺跡	甲府市屋形2丁目2395－5	18.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.8.20 ～ H16.8.20
65	武田城下町遺跡	甲府市屋形3丁目2480－2	291.83	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.8.19 ～ H16.8.31
66	野牛島・立石下遺跡	南アルプス市野牛島2592外	33.75	散布地	奈良・平安	宅地造成・集合住宅	南アルプス市教育委員会	H16.8.23 ～ H16.8.23
67	西耕地Ｂ遺跡	甲府市大里町4388－2	1536.00	散布地	中世	集合住宅・道路	甲府市教育委員会	H16.8.9 ～ H16.8.9
68	朝気遺跡	甲府市朝気3丁目192	168.59	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.8.26 ～ H16.8.27
69	緑が丘1丁目遺跡	甲府市緑が丘1丁目127－2	494.84	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.8.27 ～ H16.9.17
70	甲府城下町遺跡	甲府市北口2丁目5－14	46.13	城下町	近世	店舗	甲府市教育委員会	H16.8.17 ～ H16.8.17
71	円通寺跡	大月市賑岡町岩殿177	6.00	社寺跡	平安	個人住宅	大月市教育委員会	H16.5.13 ～ H16.5.13
72	御立原遺跡	大月市御太刀2丁目字御立原1294外	21112.00	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	その他開発（工場の解体、整地）	大月市教育委員会	H16.5.21 ～ H16.8.5
73	上野原遺跡	東八代郡豊富村木原1780－1	4.00	散布地	縄文・弥生・古墳・近世	個人住宅兼工場又は店舗	豊富村教育委員会	H16.9.6 ～ H16.9.6
74	登録有形文化財勝沼堰堤	東山梨郡勝沼町勝沼3466－2外	2200.00	その他の遺跡（堰堤）	近現代	遺跡整備	山梨県教育委員会	H16.8.2 ～ H16.10.29
75	室屋遺跡	東八代郡境川村藤垈2498外	20.00	散布地	縄文・平安	道路	境川村教育委員会	H16.9.13 ～ H16.9.15
76	富士見遺跡	甲府市富士見1丁目8－6	513.53	散布地	古墳・平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.9.14 ～ H16.9.15
77	後田遺跡	北巨摩郡須玉町若神子2155	57.40	散布地・城館跡	縄文・平安・中世・近世	道路	須玉町教育委員会	H16.9.8 ～ H16.10.22
78	野牛島・立石下遺跡	南アルプス市野牛島字西ノ神2618－1外	62.80	散布地	奈良・平安	宅地造成・その他建物	南アルプス市教育委員会	H16.9.13 ～ H16.9.13
79	鮎沢遺跡	南アルプス市鮎沢505	30.45	その他の遺跡（条里）	弥生・古墳・平安	土地区画整理	南アルプス市教育委員会	H16.9.10 ～ H16.9.10
80	武田城下町遺跡	甲府市屋形3丁目2494－2外	44.00	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.9.7 ～ H16.9.14
81	金沢天神遺跡	東八代郡中道町下向山字東原4241－1	600.00	散布地	縄文・弥生・古墳	土砂採取	中道町教育委員会	H16.9.13 ～ H16.9.15
82	平田宮第2遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東1713外	1892.00	その他の遺跡（溝状遺構、包含層）	平安	道路・河川	玉穂町教育委員会	H16.9.15 ～ H16.12.31
83	天神西遺跡	甲府市千塚4丁目3226外	490.64	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.9.15 ～ H16.9.30
84	宮ノ上1遺跡・宮ノ上2遺跡	大月市富浜町鳥沢字袴着1915外	2064.00	散布地	縄文	公園造成	山梨県教育委員会	H16.9.21 ～ H16.10.15
85	梅之木遺跡	北巨摩郡明野村浅尾5259－2293	1100.00	集落跡	縄文	保存目的の範囲確認	明野村教育委員会	H16.9.7 ～ H16.12.24
86	両ノ木神社遺跡	東八代郡一宮町末木604－1	1624.00	集落跡	奈良・平安	その他開発（防水貯水槽）	一宮町教育委員会	H16.10.2 ～ H16.10.2
87	釜無川堤防址群	南アルプス市下高砂835外	2380.00	その他の遺跡（堤防跡）	近世・近代	その他建物（総合交通センター）	山梨県教育委員会	H16.10.4 ～ H16.11.29
88	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内2－21－1	1142.28	城下町	近世	その他建物（ホテル）	甲府市教育委員会	H16.10.4 ～ H16.10.22
89	熊野原遺跡	東八代郡豊富村浅利2696外	312.00	集落跡	縄文・弥生・古墳	農業基盤整備事業	豊富村教育委員会	H16.9.14 ～ H16.10.7
90	玉川金山遺跡	都留市玉川字上ノ原200－1外	1922.00	散布地	縄文・古墳	道路	山梨県教育委員会	H16.10.18 ～ H16.12.28
91	白戸遺跡	笛吹市境川町寺尾3452－6外	40.00	散布地	縄文・平安	道路	笛吹市教育委員会	H16.10.22 ～ H16.10.29
92	銀杏之木遺跡	甲府市東光寺2丁目292－1外	635.80	散布地	古墳・奈良・平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.9.29 ～ H16.10.1

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
93	二子塚遺跡	笛吹市八代町南549	30.00	散布地	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	その他建物（事務所）	笛吹市教育委員会	H16.10.25 ～ H16.10.26
94	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田820－1	492.20	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H16.10.25 ～ H16.11.12
95	御所庭西A遺跡	南アルプス市小笠原743－1	379.10	散布地	中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H16.10.13 ～ H16.10.13
96	甲府城下町遺跡	甲府市北口3丁目21－2外	165.00	城下町	近世	個人住宅兼工場又は店舗	甲府市教育委員会	H16.11.1 ～ H16.11.12
97	武田城下町遺跡	甲府市屋形1丁目1936－33	430.30	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.10.26 ～ H16.11.9
98	朝気遺跡	甲府市朝気1丁目－165－5	204.70	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.10.27 ～ H16.10.27
99	甲府城跡	甲府市丸の内1丁目558－3	145.00	城館跡	近世	土地区画整理	甲府市教育委員会	H16.8.4 ～ H16.9.30
100	緑が丘1丁目遺跡	甲府市緑が丘2丁目91－2	60.00	散布地	古墳	宅地造成	甲府市教育委員会	H16.10.1 ～ H16.11.1
101	武田城下町遺跡	甲府市古府中町字古屋敷855－3	2.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.10.29 ～ H16.10.29
102	武田城下町遺跡	甲府市屋形3丁目1747－25	2.50	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.10.27 ～ H16.10.27
103	中尾条里遺跡	笛吹市一宮町上矢作	300.00	その他の遺跡（条里）	奈良・平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H16.11.2 ～ H16.12.25
104	辻氏屋敷跡	笛吹市一宮町南野呂	605.00	城館跡	中世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H16.11.4 ～ H16.12.25
105	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美2031－2外	991.75	その他の遺跡（条里）	古墳・中世	個人住宅兼工場又は店舗	南アルプス市教育委員会	H16.11.8 ～ H16.11.8
106	神東町遺跡	笛吹市春日居町加茂103－1外	40.00	集落跡	古墳・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H16.11.10 ～ H16.11.19
107	坪井道上遺跡	笛吹市石和町上平井812－3	330.64	散布地	奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H16.11.9 ～ H16.11.9
108	鳥居遺跡	笛吹市石和町松本928－1外	1191.67	散布地	弥生・奈良・平安	集合住宅	笛吹市教育委員会	H16.11.10 ～ H16.11.30
109	足原田遺跡	山梨市万力851外	1230.00	散布地	古墳・平安	道路	山梨県教育委員会	H16.11.11 ～ H16.12.27
110	武田城下町遺跡	甲府市元紺屋町57－22	402.71	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.11.16 ～ H16.11.16
111	田代遺跡	北都留郡上野原町鶴島字田代3107－1外	8.00	散布地	縄文	ガス・電気・電話・水道	上野原町教育委員会	H16.11.16 ～ H16.11.19
112	国府遺跡	笛吹市春日居町寺本49－5	61.29	官衙跡	奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H16.11.22 ～ H16.12.3
113	神東町遺跡	笛吹市春日居町加茂97－2	462.18	集落跡	古墳・平安	その他建物（消防用車両車庫）	笛吹市教育委員会	H16.11.16 ～ H16.11.16
114	坂下遺跡	南アルプス市山寺354－2外	591.25	散布地	縄文・古墳・奈良・平安	その他建物（事務所）	南アルプス市教育委員会	H16.11.17 ～ H16.11.17
115	野牛島・石橋遺跡	南アルプス市野牛島277－1	1527.00	散布地	中世・近世	その他開発（造成工事）	南アルプス市教育委員会	H16.11.16 ～ H16.12.14
116	武田城下町遺跡	甲府市元紺屋町69－2	9.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.11.18 ～ H16.11.18
117	古屋敷遺跡	南アルプス市下今井字古屋敷26－1外	2899.55	散布地	平安・中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H16.11.22 ～ H16.11.22
118	吉田北原A遺跡	南アルプス市吉田1268－1	363.28	散布地	その他（不明）	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H16.11.17 ～ H16.11.17
119	武田城下町遺跡	甲府市屋形1丁目1797－2外	283.35	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.11.26 ～ H16.12.10
120	甲府城下町遺跡	甲府市北口1－50－1外	956.50	城下町	近世	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.11.24 ～ H16.12.3
121	宇前C遺跡	甲府市里吉4丁目1400－2外	2448.69	散布地	古墳	その他建物（保育所）	甲府市教育委員会	H16.11.18 ～ H16.12.10
122	金塚西遺跡	甲府市千塚3丁目2271－3	205.37	散布地	縄文・古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.12.7 ～ H16.12.7
123	平林遺跡	北杜市明野町上手字平林8340	1845.00	散布地	縄文	学校建設	北杜市教育委員会	H16.11.19 ～ H16.11.20
124	茶かん遺跡	笛吹市石和町中川字中山道1531－2外	637.13	散布地	奈良・平安	集合住宅	笛吹市教育委員会	H16.12.2 ～ H16.12.2
125	森の上南遺跡	笛吹市八代町南249－9	200.00	散布地	古墳・奈良・平安・近世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H16.12.7 ～ H16.12.24
126	下成田遺跡、埋没条里遺跡	笛吹市御坂町成田2018外	4575.12	集落跡	古墳・奈良・平安	店舗	笛吹市教育委員会	H16.12.2 ～ H16.12.15
127	武田城下町遺跡	甲府市天神町81外	1055.32	城下町	中世	その他建物（デイサービス）	甲府市教育委員会	H16.12.9 ～ H16.12.17
128	鰍沢河岸跡C	中巨摩郡鰍沢町1466－7外	1200.00	その他の遺跡（河岸跡）	近世	道路	山梨県教育委員会	H16.12.21 ～ H16.12.22
129	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美字東小柳2891	4.08	その他の遺跡（条里）	古墳	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H16.12.17 ～ H16.12.17
130	中尾遺跡	東八代郡豊富村木原1380－3	4.00	散布地	縄文	個人住宅	豊富村教育委員会	H16.12.16 ～ H16.12.16
131	原遺跡	東八代郡豊富村木原277外	57.00	散布地	縄文	公園造成	豊富村教育委員会	H16.12.15 ～ H16.12.15
132	桜井畑遺跡	甲府市川田町367－1	584.00	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H16.12.22 ～ H16.12.22
133	長沢遺跡	甲府市和戸町字長沢1066外	2628.00	散布地	近世	宅地造成	甲府市教育委員会	H16.12.20 ～ H17.1.14
134	連方屋敷	山梨市三ケ所760外	300.00	城館跡	中世	遺跡整備	山梨市教育委員会	H16.12.14 ～ H17.2.28
135	堀ノ内2遺跡	大月市富浜町鳥沢字西堀ノ内3188－1	2.80	集落跡	縄文・奈良・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H16.11.30 ～ H16.11.30
136	国府遺跡	笛吹市春日居町国府171	40.00	官衙跡	古墳・奈良・平安	学術研究	笛吹市教育委員会	H17.1.12 ～ H17.2.28
137	下小沢遺跡	大月市猿橋町小沢742	3.00	散布地	縄文	個人住宅	大月市教育委員会	H16.12.1 ～ H16.12.1
138	北中原遺跡	笛吹市一宮町塩田	792.00	集落跡・生産遺跡	縄文・平安・中世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H17.1.17 ～ H17.3.31

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
139	天神前遺跡・姥塚古墳	笛吹市御坂町井之上字姥塚939	787.00	集落跡・古墳	古墳・奈良・平安	その他開発（駐車場）	笛吹市教育委員会	H17.1.19 ～ H17.2.28
140	笠木地蔵遺跡	笛吹市一宮町国分849外	508.00	集落跡・その他の墓	縄文・古墳・平安・中世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H17.1.17 ～ H17.3.31
141	塩部遺跡	甲府市塩部3丁目605－22	110.27	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H17.1.18 ～ H17.1.18
142	上土器遺跡	甲府市川田町字起田2－4	446.00	散布地	古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H17.1.20 ～ H17.1.21
143	百々遺跡	南アルプス市上八田829－1外	500.00	集落跡	弥生・古墳・平安・中世	道路	山梨県教育委員会	H17.1.24 ～ H17.2.25
144	天神原遺跡	笛吹市八代町米倉186－1外	11.50	散布地	古墳・平安・近世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H17.1.28 ～ H17.2.1
145	原遺跡	笛吹市八代町南755－3	26.00	散布地	古墳・奈良・平安・中世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H17.2.1 ～ H17.2.2
146	熊野南遺跡	笛吹市春日居町熊野堂字狐塚146－3	8.00	集落跡	古墳・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H17.1.20 ～ H17.1.28
147	前間田条里	笛吹市境川町前間田字石原田58－1外	105.00	その他の遺跡（条里）	奈良・平安	道路	笛吹市教育委員会	H17.1.24 ～ H17.1.25
148	武田城下町遺跡	甲府市大手2丁目4081－6	239.68	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H17.2.4 ～ H17.2.4
149	桜井畑遺跡	甲府市和戸町字桜1317外	1206.76	包蔵地	弥生・古墳・奈良・平安	店舗	甲府市教育委員会	H17.1.28 ～ H17.1.28
150	前御勅使川堤防址群	南アルプス市六科1093－8	236.00	その他の遺跡（堤防跡）	中世・近世	店舗	南アルプス市教育委員会	H17.1.26 ～ H17.1.26
151	宮谷金山古墳	大月市富浜町宮谷811－1外	100.00	古墳	古墳	保存目的の範囲確認	大月市教育委員会	H17.1.18 ～ H17.2.6
152	小井川・小河原遺跡	中巨摩郡田富町布施	1000.00	その他の墓・その他の遺跡（堤防跡）	中世・近世・近現代	道路	山梨県教育委員会	H16.12.13 ～ H17.1.31
153	斜遺跡	北杜市高根町下黒沢字斜395－8	1130.00	散布地	縄文	その他建物（セレモニーホール）	北杜市教育委員会	H17.1.24 ～ H17.1.25
154	武田城下町遺跡	甲府市天神町233－1	851.98	城下町	中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H17.2.4 ～ H17.2.15
155	甲府城下町遺跡	甲府市中央1丁目185－2外	6668.63	城下町	近世	その他建物（集会所）	甲府市教育委員会	H17.2.14 ～ H17.3.15
156	石橋遺跡	笛吹市境川町石橋2178外	30.00	散布地	奈良・平安・中世	道路	笛吹市教育委員会	H17.2.7 ～ H17.2.8
157	西畑Ｂ遺跡	塩山市赤尾672	42.00	散布地	縄文・平安	道路	山梨県教育委員会	H17.2.8 ～ H17.2.8
158	吉田中畑Ｃ遺跡	南アルプス市吉田179－1	865.74	散布地	弥生・古墳・奈良・平安・中世	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H17.2.2 ～ H17.2.2
159	朝気遺跡	甲府市朝気1－229－1外	1621.44	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H17.2.2 ～ H17.3.1
160	塩部遺跡	甲府市塩部1－3－9	15.00	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	その他建物（裁判所長宿舎）	山梨県教育委員会	H17.2.17 ～ H17.2.17
161	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美2810－3外	36.11	その他の遺跡（条里）	古墳	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H17.2.10 ～ H17.2.22
162	鰍沢河岸跡	南巨摩郡鰍沢町鰍沢3362外	240.00	その他の遺跡（口留番所跡）	近世	道路	山梨県教育委員会	H17.2.28 ～ H17.3.31
163	埋没条里	笛吹市御坂町成田578－4	270.00	その他の遺跡（条里）	奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H17.2.24 ～ H17.2.25
164	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美3225外	68.00	その他の遺跡（条里）	古墳	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H17.2.22 ～ H17.2.22
165	五里原遺跡	笛吹市八代町南1590	756.00	散布地	縄文・古墳・奈良・平安	道路	笛吹市教育委員会	H17.2.28 ～ H17.2.28
166	平田宮第２遺跡	中巨摩郡田富町下河東1709－2外	950.00	集落跡	平安	道路	玉穂町教育委員会	H17.2.21 ～ H17.3.31
167	上窪遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東544－3外	130.00	城館跡・田畑跡	奈良・平安・中世・近世	道路	玉穂町教育委員会	H17.2.21 ～ H17.2.28
168	真原Ａ遺跡	北杜市武川町山高字真原3567	1500.00	集落跡	縄文	農業基盤整備以外の農業関係事業	北杜市教育委員会	H17.2.19 ～ H17.3.30
169	緑が丘1丁目遺跡	甲府市緑が丘一丁目106－10	354.79	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H17.2.22 ～ H17.2.24
170	三枝氏屋敷跡	笛吹市一宮町南野呂624	7.50	城館跡	中世	工場	笛吹市教育委員会	H17.3.2 ～ H17.3.2
171	宮の上遺跡	笛吹市石和町上平井377－1	2.00	散布地	古墳・奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H17.3.8 ～ H17.3.8
172	物見塚遺跡	笛吹市境川町寺尾4102	6.00	集落跡	縄文・弥生・平安	その他開発（携帯電話無線基地局）	笛吹市教育委員会	H17.3.8 ～ H17.3.8
173	鰍沢河岸跡	南巨摩郡鰍沢町明神町	80.00	その他の遺跡（河岸跡）	近世・近現代	道路	山梨県教育委員会	H17.3.7 ～ H17.3.8
174	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美3277－1外	1152.00	その他の遺跡（条里）	古墳	その他建物（事務所兼倉庫）	南アルプス市教育委員会	H17.3.16 ～ H17.3.16
175	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美3360－2	836.61	その他の遺跡（条里）	古墳	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H17.3.14 ～ H17.3.14
176	塚の越遺跡	笛吹市石和町小石和1812－3	49.00	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H17.3.14 ～ H17.3.14
177	松本塚ノ越遺跡	笛吹市石和町松本222－10	16.00	集落跡	古墳・奈良・平安	集合住宅	笛吹市教育委員会	H17.3.9 ～ H17.3.9
178	辻遺跡	南アルプス市山寺390外	1227.00	散布地・集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H17.3.17 ～ H17.3.17
179	宮の前遺跡	北巨摩郡高根町箕輪字宮の前2380－1外	3189.58	散布地	縄文・平安	道路	北杜市教育委員会	H17.1.26 ～ H17.2.4
180	天正寺遺跡	都留市井倉字赤沢平	5633.00	集落跡	縄文・中世	道路	山梨県教育委員会	H17.3.14 ～ H17.3.17



●路線バスご利用

甲　府ー豊富（中道橋経由）考古博物館で下車

●高速バスのご利用（２時間）

新宿西口……南回り、甲府行（中道下車）徒歩５分

甲府南インター下車・徒歩10分

年　報　21

印刷日　平成 17 年 10 月 31 日
発行日　平成 17 年 10 月 31 日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL　055－266－3881・055－266－3016
FAX　055－266－3882
E-mail：maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp
印刷所　株式会社　少 國 民 社
山梨県甲府市丸の内２－７－27
TEL　055－226－2125